

講義要綱

2023年度

(令和5年度 1・2年次)



学籍番号		氏名	
------	--	----	--

**** 目次 ****

履修の手引き	1
年次別教科課程進度表	5
年次別履修科目と時間数	7
複数講師による評価配分表	9
専門分野進度表	12
カリキュラムマップ・イメージ	21
基礎分野	26
物理学、生物学、英語、表現法、情報リテラシー、情報演習、論理的思考 倫理学Ⅰ、総合人間学、人間関係論Ⅰ、社会学Ⅰ	
専門基礎分野	39
形態機能学総論、Ⅰ～Ⅴ、生化学、栄養の基礎、病理学、病態生理治療論Ⅰ～Ⅴ、 微生物学、薬理学の基礎、疾病予防	
専門分野	65
基礎看護学	
看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護方法Ⅰ～Ⅴ、地域・在宅看護論Ⅰ、成人看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ	
教科外活動	117
テキスト一覧	118
実務経験のある講師一覧	121

I. 実践する力

1. 感じる力・考える力・伝える力・振り返る力を活用し思考しながら、看護を必要とする人々にとって最善な看護とは何かを創造し、実践につなげる。
2. 実践した看護実践を振り返り、さらによりよい看護を探求する。
3. 状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化、リスクを判断する。

II. 思いやる力

1. 自己を顧みて、ありのままの自分を受け入れる。
2. 相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解する。

III. 責任と役割を果たす力

1. 看護専門職者として、人の生命(いのち)をかけがえのないものとして尊重する。
2. 看護専門職者として、あらゆる人の権利を尊重する。
3. 看護専門職者として、状況に応じて良識ある行動をとる。
4. 看護専門職者として、自己の力量に応じて判断し、その時の最良を考えて行動する。

IV. 地域社会に貢献する力

1. 地域における看護専門職としての役割を理解する。
2. 地域の特性を知り、その地域で暮らす人々の生活に適した健康支援のあり方について考える。
3. 地域における保健医療福祉チームの一員として情報交換する。
4. 多職種の機能、役割を理解し尊重する。

V. 看護を探求する力

1. 看護を取り巻くあらゆるものに関心を持ち続ける。
2. これまでの学習経験を踏まえて、自己の看護観を明確にする。

《看護師という専門職になるために学ぶとは》 副校長 亀澤 ますみ

「看護師になる」とは

看護師とは、傷病者や妊産婦の療養上の世話をし、診療の補助を行うこと、そして「人を看る」という看護師独自の視点で観察し、判断し、人々の生命や生活を支えるために行動する専門職です。看護師の職能団体である日本看護協会はプロとして必要な力を「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」の4つを示している。専門的な知識と技能、そして4つの力を身に付け、国家資格を有する職業人になるということ。

複雑で奥深い学びです。決して簡単ではありません。だから、土台からしっかりと丁寧に積み重ね、自分という人間が「看護師」になることを目指していきましょう。

・看護師として、専門職者になるためには

本校のディプロマポリシーは、看護師の4つの力に繋がるための卒業時に到達すべき目標です。学校も、皆さんがこの目標を到達できるよう共に考え、支援します。しかし、このディプロマポリシーの内容は、簡単に身につけ、使える能力ではありません。なぜならば専門職になるための能力であり「人を看る」という深い知識と思いやり、判断力や行動力を全て統合しながら、根気強く積み上げていく学修が必要だからです。このことを自覚し忍耐強く取り組みましょう。この認識、自覚が持てなければ、看護専門学校として支援してもディプロマポリシーの到達は不可能です。学校が皆さんを看護師にすることはできません。看護に答えはありませんから、答えとなるものを探求する姿勢を持つ皆さん自身の自覚と努力が看護師へと成長させるのです。皆さんは近い将来、看護師として4つの力を身に付け、この力を人々のために使える人になるよう日々学んでいます。今、自分自身の将来を支える貴重な時間と場所にいます。この今を、共に学び大切にいきましょう。

・履修に際して心掛けること

- 1) 看護師になる事は「夢」でなく手の届く目標です。1年間を俯瞰し、いつ、何に向かって、どのように行動すべきか具体的な計画を立て、主体的に取り組む。
- 2) 他者から学び、他者と共に成長しあい、自分という人間を知り、理解する。
- 3) 単に学生としてだけでなく「医療従事者に準ずるもの」として自身の判断と言動に責任と自覚を持つ。
- 4) 「失敗は成功のもと」失敗で終わることなく「なぜだろう」と自分自身に問いかけ、自身の思考や言動を振り返り、失敗を認め修正する勇気を持つ。
- 5) 「謙虚に学ぶこと」この姿勢こそ、成長の鍵！
謙虚とは、自分を偉いものと思わず、素直に他に学ぶ気持ちがあること。
 - ・感謝の気持ちを忘れず、それを伝える。
 - ・人の話をしっかり聞き、聞いていることを相手に伝える。
 - ・人のせいにしない、自分にも反省点や課題があったことを認めよう。この3つの行動は、謙虚さであり、人と人が関わり合う基本的なマナーです。

履修の手引き

この手引きには、履修のための大切なことが書かれています。熟知かつ活用して、効果的に学習しましょう。必ず皆様の良きナビゲーションになるでしょう。

学生便覧の「単位取得規程」を熟読し、計画的に履修しましょう。

1. 単位取得についての注意

- ①卒業時まで113単位の履修が必要です。履修科目は全てが必須科目です。
- ②履修科目は、1年次・2年次・3年次と履修の時期が学びの段階に応じて決まっています。くれぐれも単位を落とすことのないようにしましょう。

2. 科目評価について

- ①評価方法は、筆記試験・レポート・実技試験・出席・講義の参加度・授業態度等、各講師により講義要綱に提示しています。必ず確認しておきましょう。講師によっては、開講時に講義要綱の内容を変更する場合がありますのでご了承ください。
- ②科目評価に関する提出物は、時間を厳守してください。提出時間が遅れると、評定に影響します。
- ③受験資格は、講義の2/3以上の出席時間をもって得られます。15時間という短時間の講義もあります。出席時間不足の場合は、受験資格を失います。
- ④公共交通機関の遅れで受験できない場合は、遅延証明書を提出してください。病気の場合は「医師の診断書」または「受診証明書（学生便覧参照）」が必要です。証明書と追試験をもちいて追試験を受けることができます。それ以外で校長がやむを得ない理由と判断した場合は追試験として受験できる場合があります。（各用紙はホームページにもあります）
- ⑤再試験は、学科試験の成績が合格点に満たない科目のある者に対して校長が認め行うものです。寝坊や勘違い、無断欠席で本試験が受けられない場合は認められません。
- ⑥再試験願いは試験結果返却後3日以内に行ってください。再試験願が承認されないと、受験することはできません。また、再試験を受ける時に、再試験許可書の提示が無い場合は受験ができません。また、演習科目や講師の判断により、再試験を行わない科目もあります。
- ⑦形態機能学、病態生理治療論、看護方法、各専門科目の中で、複数の講師により構成されている科目があります。それぞれが評価方法を提示してありますので、事前に確認してください。

3. 開講時の準備について

- ①時間割で開講、終講、試験日を確認し、計画的に学習を進めましょう。
- ②開講前には必ず講義要綱を読み、科目の概要を把握し、必要なテキストの準備をしておきましょう。講義によっては事前学習の課題があります。計画的に早めに準備をしておきましょう。
- ③テキスト以外にも参考文献の紹介もあります。参考文献はできる限り図書室に入れてあります。学習時に参考にしてください。

4. テキストの取り扱いについて

- ①主なテキストは電子テキストになっています。複数のテキストからの横断検索など、電子テキストを活用しながら学習しましょう。
- ②電子以外のテキストは、購入後速やかに不足していないか、乱丁等の不備がないかを確認し、不都合のある場合は、直接購入した書店に連絡してください。
- ③テキストの管理は自己責任です。テキストには必ず名前を明記してください。紛失した場合は再度購入していただきます。

5. タブレットの使用に関して

- ①タブレットの管理は自己責任とします。タブレットの中に主なテキストが入っています。自己、他者のものも含め、破損しないように大切に使用しましょう。
- ②タブレットは授業者の指示のもとに使用し、授業中の私的な使用はしてはいけません。
- ③タブレットの充電は自宅で行い、学校の常に携帯用の充電器を持参しましょう。学校内での充電はしないようにしましょう。

6. 効果的な学習をするために

- ①わからないことはそのままにせず、テキストや参考書を熟読し、また質問するなど理解できるよう努力しましょう。
- ②皆さんの知識は、患者の看護に活用するものです。したがって、ほとんどの講義は丸暗記では対処できません。なぜそうなっているのか等根拠を踏まえながら理解する必要があります。そうしないとその他の知識と関連付けられず、結局忘れ去られる知識となり積み重なっていきません。知識は、積み重なっていき関連しあっていくものです。実習・国家試験に繋がる学習に心がけましょう。
- ③講義を大切にしましょう。講義では考え方や重要な点を押えます。講義は一回性のものです。その時その時の講義をどこまで大切にできるのかが、知識の定着に大きく影響することを心から伝えたいと思います。
- ④講義資料は、整理してその後活用できるようにしておきましょう。結局頭の中を整理することにもなり、実習の準備学習、国家試験の学習に大いに役立つものです。
- ⑤高校までの授業とは違い、板書やプリントがなく、講師の話聞きながら大事なことを自分でノートを取っていく講義もあります。また、テキストを横に置き、書き込んだり、アンダーラインを引いたりしながら流れるように進んでいきます。考えをまとめたレポートを求められることも多いです。そのため、主体的な学習姿勢つまり受け身の学習から自主的な学習へと変えていかなければ、学習が追い付いていきません。

7. その他の連絡事項、留意事項

- ①時間割の変更について
時間割変更は1階の掲示板とGoogleクラスルームに提示します。緊急を要する場合は口頭でお知らせします。掲示板は登校時、昼休み、下校時の3回確認する習慣をつけましょう。
- ②学校図書として看護学生向け看護雑誌を年間購入しています。学習の仕方・新しい知識・その他役立つ内容が多くあります。情報は自分からも取っていきましょう。雑誌だからこそ、新しい知識を得ることが出来ます。
- ③終講時には、「学生による授業評価」を実施しています。目的はその科目に対する学生自身の学習姿勢や学びの振り返り、講師および教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価の結果は担当講師に伝え、結果に対する返信を公開しています。真剣な取組を切に願います。
- ④授業中は、私語や飲食はしないでください。
- ⑤基本的にスマートフォンや携帯電話での通話はもちろん、メール操作なども禁止です。
- ⑥居眠りをしないよう努力しましょう。
- ⑦マナーが悪ければ教室から退室を命じることや、出席時間として認めないことがあります。
- ⑧授業中(特に校内実習)は、お互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉を使うことを習慣化してください。

8. 学科試験(単位認定試験)実施要領

- ①学科試験の目的と心構え
単位認定試験は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業のための要件や大学編入、大学院進学のための条件となるものであります。したがって、試験を受ける心構えとしては、単位認定試験を神聖なものとして受け止め、カンニングや不正行為は絶対にしてはいけない禁止事項です。本試験を受けるために体調を整え、欠席することのないようにしましょう。

②単位認定試験の注意事項

- ・席順は窓側より学籍番号順とする。
- ・試験会場内では携帯電話・スマートフォンの電源を切る。
- ・机の中に物が入っていないことを確認する。
- ・机の上の落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・机と机の間隔などの列も等間隔に整える。
- ・鞆やテキスト、ノートなどは通路に置かずロッカーに片付ける。
- ・試験開始5分前になったら必要なもの(鉛筆、シャープペンシル、消しゴム)以外は片付ける。
- ・試験開始前の私語は禁止とし、講師または試験監督者を着席して待機する。
- ・試験問題、解答用紙が配布されたら、指示があるまで試験問題や解答用紙には触れない。
- ・試験開始の合図で表にし、学籍番号、氏名を所定の箇所に記入する。
- ・試験問題、解答用紙の印刷に不鮮明な箇所がある場合は静かに挙手し、講師または試験監督者が側についたときに質問する。
- ・試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなくなった場合は、静かに挙手し、指示に従うこと。
- ・科目時間内の試験では基本的に退室は認めない。退室した場合、欠課時間となり、再入室は認めない。
- ・試験終了の合図があったら筆記用具を置いて問題用紙および解答用紙を裏返しておく。
- ・講師または試験監督者の指示に従って試験問題、解答用紙をすべて回収する。

③単位認定の学科試験における遅刻者への対応

- ・個人的事由(寝坊、勘違いなど)による遅刻の場合、試験開始15分以内を限度に受験を認める。それ以降の入室は認めない。

④不正行為の禁止

- ・単位取得規定に違反した場合は、厳重な措置がとられる。
- ・カンニングは不正行為である。
- ・講師または試験監督者の指示に従わない、または不正行為や、不正行為をしようとする挙動(キョロキョロする、覗き込むなど)が認められる場合は不正行為とみなし、試験失効とする。
- ・試験問題、解答用紙の回収中に私語をした者は、不正行為とみなし、試験失効とする。
- ・携帯電話やスマートフォンによる試験問題の撮影も不正行為とみなし、試験失効とする。

9. 再履修・聴講について

①再履修について

- ・再履修が決定した場合、新年度当初に「再履修登録」を提出し「承認」を得る必要がある。
- ・年度当初に必ず学年主担当に提出し、確認を受ける。
- ・専門基礎科目等の外部講師の科目については学年主担当の「承認」を受ける。
- ・専門科目等の学内教員が担当する科目は担当責任者、領域責任者に提出し「承認」を受ける。
- ・年度の「再履修登録表」の担当の「承認」が得られたら、教育係長・副校長兼教務課長・学校長の決済印を受ける必要があるため、学年担当教員に提出する。
- ・再履修登録表に校長印で「承認」を受けるまでの手続きをもって、再履修が認められる。
- ・学生は、科目開講時に各講師に自己の状況報告をし「再履修受講」の旨をお願いする。
- ・昨年度の「不可」の課題を踏まえ、単位修得のための学習計画を作成し、これを基に学習する。(自己学習を十分に行う事)
- ・出席管理、単位認定試験受験資格等に関しては学則等と同じ。

②「不可」科目があり単位が認定されないまま、次の年次に再履修が認められた場合について

- ・次の年次の履修をしながら「再履修」する者は、並行して行われる新年度の科目の出席管理、単位取得等を視野にいれ計画的に学習管理する。(再履修科目出席予定・確認表などを活用しながら、担当教員に相談し指導助言を受ける)
- ・各科目の再履修登録の手続きは上記に同様。

- ・やむを得ず臨地実習を受けながら、他の科目を履修する場合には、臨地実習に支障が無く進められるよう計画的に実施する。
- ・授業クラスの机等は当該学生が責任を持って準備、片づけを行う。
- ・再履修科目出席予定・確認表は教員室内の所定のケース内に保管管理する。
- ・再履修科目の受講の際に当該科目出席簿と共に管理するので、出欠席は毎回講師に報告する。
- ・科目の必要時間を終了したら、科目出席時間数を記入し授業出欠席を学年副担当に報告する。
- ・再履修登録票は自己管理し、全ての再履修が終了した際に学年主担当に提出する。

③聴講について

- ・原級留置学生又は復学後で、科目単位は修得しているが、学習強化・学力向上を目的に講義を受講する学生が対象になる。
- ・聴講希望については、学生の自己決定・自己責任であるが自己の課題を踏まえ検討する。必要時は担当教員の助言を受け決定する。
- ・既に科目評価は決定しているため、聴講後の科目試験は受けることはできない。
- ・聴講願いは、新年度当初に「聴講願い」を提出し「許可」を得る必要がある。
- ・年度当初に出された、聴講希望科目の必要性、妥当性については学年担当に提出し確認を受ける。
- ・専門基礎科目などの外部講師の科目については学年主担当の「許可」を得る。
- ・専門科目等の学内教員の担当科目については科目担当責任者、領域責任者の確認、「許可」を得る。
- ・学生は外部講師の開講日に、直接講師に報告し「聴講」をお願いする。
- ・許可を得た科目の聴講は開講から終講前まで他の学生同様に継続して講義を受ける必要がある。
- ・提示される、課題やレポート、GWなども参加する。(事前の提示課題なども受ける)
- ・受講姿勢が学習者としてふさわしくなく、他の学習者への影響が大きいと講義担当者が判断した場合は聴講願いの許可を中断する事もある。
- ・臨地実習は患者の権利尊重、実習場の指導体制などの社会的状況から、聴講はできない。
- ・演習科目は状況によって、単位修得学生の指導を優先するため実施できない場合がある。

教科課程進度表

教科		単位数	年次 月	1												
				4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
基礎分野	科学的思考の基礎	物理学	1	20	_____											
		生物学	1	20	_____											
		英語	1	20							_____					
		表現法	1	30	_____											
		情報リテラシー	1	20	_____											
		情報演習	1	25	_____											
		論理的思考	1	20						_____						
	人間と生活、 社会の理解	倫理学Ⅰ	1	20						_____						
		総合人間学	1	20	_____											
		人間関係論Ⅰ	1	20					_____							
社会学Ⅰ		1	20		_____											
専門基礎分野	人体の機能と構造	形態機能学総論	1	15	_____											
		形態機能学Ⅰ	1	20	_____											
		形態機能学Ⅱ	1	25	_____											
		形態機能学Ⅲ	1	30	_____											
		形態機能学Ⅳ	1	30			_____									
		形態機能学Ⅴ	1	25					_____							
		生化学	1	30			_____									
		栄養の基礎	1	20					_____							
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15			_____									
		病態生理治療論Ⅰ	1	20			_____									
		病態生理治療論Ⅱ	1	20			_____									
		病態生理治療論Ⅲ	1	20					_____							
		病態生理治療論Ⅳ	1	30					_____							
		病態生理治療論Ⅴ	1	30					_____							
		微生物学	1	30					_____							
		薬理学の基礎	1	20					_____							
	健康増進 実践科目	疾病予防	1	15					_____							
	専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	25	_____										
			看護学概論Ⅱ	1	25					_____						
			看護方法Ⅰ	1	30	_____										
看護方法Ⅱ			1	30		_____										
看護方法Ⅲ			1	30					_____							
看護方法Ⅳ			1	30	_____				_____							
看護方法Ⅴ			1	30					_____							
基礎看護実習Ⅰ			2	90							_____		_____			
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論Ⅰ	1	20	_____											
		地域・在宅看護実習Ⅰ	1	45					_____							
成人看護学		成人看護学Ⅰ	1	20						_____						
老年看護学		老年看護学Ⅰ	1	25							_____					

教科課程進度表

教科		単位数	年次	2													
				月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
基礎分野	社会人と生活	人間関係論Ⅱ	1	20													
		社会学Ⅱ	1	15													
専門基礎分野	健康支援と社会福祉制度	暮らしを守る法と制度	1	15													
		関係法規	1	15													
		公衆衛生学	1	30													
		保健統計学	1	20													
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅱ	1	20													
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	20													
		地域・在宅看護論Ⅳ	1	20													
		地域・在宅看護論Ⅴ	1	30													
		地域・在宅看護論Ⅵ	1	20													
		成人看護学	成人看護学Ⅱ	1	20												
	成人看護学Ⅲ		1	30													
	成人看護学Ⅳ		1	30													
	成人看護学Ⅴ		1	30													
	成人看護学Ⅵ		1	30													
	老年看護学	老年看護学Ⅱ	1	15													
		老年看護学Ⅲ	1	30													
		老年看護学Ⅳ	1	20													
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	30													
		小児看護学Ⅱ	1	20													
		小児看護学Ⅲ	1	20													
		小児看護学Ⅳ	1	20													
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	20													
		母性看護学Ⅱ	1	20													
		母性看護学Ⅲ	1	25													
		母性看護学Ⅳ	1	25													
	精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	30													
		精神看護学Ⅱ	1	20													
		精神看護学Ⅲ	1	20													
		精神看護学Ⅳ	1	30													
	臨地実習	基礎看護実習Ⅱ	2	90													
		基礎看護実習Ⅲ	2	90													
		地域・在宅看護実習Ⅱ	2	90													

1年次 履修科目・時間数単位数・担当講師

基礎分野					
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	時期
物理学	20	1	磯博	学外	4月
生物学	20	1	森誠	学外	4月
英語	20	1	一富智也	学外	11月
表現法	30	1	竹藤幸夫	学外	4月
情報リテラシー	20	1	大久保誠也	学外	4月
情報演習	25	1	大久保・東野定律	学外	4月
論理的思考	20	1	小野田真夫	学外	10月
倫理学 I	20	1	中村真智太郎	学外	10月
総合人間学	20	1	守屋治代・大村杜	学外	4月
人間関係論 I	20	1	大村杜	学外	9月
社会学 I	20	1	小林智也	学外	5月

専門基礎分野					
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	時期
形態機能学総論	15	1	吉野晋朗	学外	4月
形態機能学 I	20	1	安達・杉調	学内	4月
形態機能学 II	25	1	前田・増田・片山	学内・学外	5月
形態機能学 III	30	1	前田信吾	学外	6月
形態機能学 IV	30	1	後藤・西川・橋本・石岡・置石	学内	9月
形態機能学 V	25	1	増田・石岡・柳原	学内	10月
生化学	30	1	谷重喜	学外	6月
栄養の基礎	20	1	杉本富士子	学外	9月
病理学	15	1	関富司・平松毅幸	学外	6月
病態生理治療論 I	20	1	森・景岡・大島・石原	学外	5月
病態生理治療論 II	20	1	池谷・徳山	学外	6月
病態生理治療論 III	20	1	田村・江間・渡辺	学外	7月
病態生理治療論 IV	30	1	平松・竹原・酒井・黒田・松永・吉見	学外	10月
病態生理治療論 V	30	1	金本・前田・坂本・矢田員	学外	11月
薬理学の基礎	20	1	木村俊秀	学外	10月
微生物学	30	1	内藤博敬	学外	10月
疾病予防	15	1	杉湖・大石	学内	11月

総合計				
基礎分野	11単位	245時間		
専門基礎分野	17単位	385時間		
専門分野	13単位	400時間		
教科外活動		76時間		
合計(37科目)	41単位	1116時間		

専門分野					
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	時期
看護学概論 I	25	1	龜澤ますみ	学内	4月
看護学概論 II	25	1	龜澤ますみ	学内	10月
看護方法 I	12	1	西川はるみ	学内	4月
	12		片山繁治	学内	
	6		後藤治美	学内	
看護方法 II	22	1	橋本・置石	学内	5月
	8		大石祐子	学内	
看護方法 III	30	1	橋本・片山	学内	10月
	8		後藤治美	学内	
看護方法 IV	12	1	小島・安達	学内・学外	4月・10月
	6		柳原孝子	学内	
	4		買石江里子	学内	
看護方法 V	30	1	西川	学内	11月
	90		2	学内・実習指導者	
基礎看護実習 I					
成人看護学 I	20	1	安達・景健師	学内・学外	12月
老年看護学 I	25	1	杉湖・保藤	学内・学外	11月
地域・在宅看護論 I	20	1	吉田・増田	学内	4月
地域・在宅看護実習 I	45	1	学内・実習指導者		9月

教科外活動					
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	時期
入学オリエンテーション(履修ガイダンスを含む)	12			学外	4月
入学式・歓迎式・卒業式	6			学外	4・5・3月
実習ガイダンス	2			学内	7月
ホームルーム	10			学内	4・7・12・3月
健康診断	2			学内	4月
交流会(新入生歓迎スポーツ大会等)	24			学内	4・9・3月
学校祭(桂花祭)	8			学内	10月
防災訓練	4			学内	10月
接遇	4		上藤美紀代	学外	9月
特別講義	2			学外	4月
講演会	2			学内	3月

2年次 履修科目・時間数・単位数・担当講師

基礎分野					
科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	時期
人間関係論Ⅱ	20	1	久保田哲之	学外	10月
社会学Ⅱ	15	1	小林哲也	学外	4月

専門基礎分野					
科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	時期
公衆衛生学	30	1	杉山真澄	学外	4月
暮らしを守る法と制度	15	1	板倉美奈子	学外	4月
関係法規	15	1	佐々木・国京	学外	9月
保健統計学	20	1	東野定律	学外	10月

専門分野					
基礎	時間数	単位数	担当講師	内外の別	時期
臨床判断Ⅰ	15	1	西川・橋本	学内	5月
臨床判断Ⅱ	15	1	後藤・實石	学内	10月
地域・在宅看護論Ⅱ	20	1	吉田・石間	学内	9月
地域・在宅看護論Ⅲ	20	1	奥田・小林・大井	学内・学外	4月
地域・在宅看護論Ⅳ	30	1	藤村・高橋・石田・東野 藤江・石田・石間	学内・学外	5月
地域・在宅看護論Ⅴ	20	1	高田・小林・藤江	学内・学外	7月
在宅	20	1	吉田・石間	学内	11月

野 臨地実習					
科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	時期
基礎看護実習Ⅱ	90	2	学内教員・実習指導者	学内	7月
基礎看護実習Ⅲ	90	2	学内教員・実習指導者	学内	2月
地域・在宅看護実習Ⅱ	90	2	学内教員・実習指導者	学内	10月

総合計					
科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	時期
基礎分野	35時間	2単位			
専門基礎分野	80時間	4単位			
専門分野	615時間	27単位			
臨地実習	270時間	6単位			
統合分野	56時間				
教科外活動	1066時間				
合計(35科目)		39単位			

専門分野						
分野	科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	開講時期
成人	成人看護学Ⅱ	20	1	安達・高橋	学内・学外	4月
	成人看護学Ⅲ	30	1	安達・片山・船橋及看護師	学内・学外	9月
	成人看護学Ⅳ	30	1	安達・橋本・船橋及看護師	学内・学外	5月
	成人看護学Ⅴ	30	1	安達・橋本・船橋及看護師	学内・学外	11月
	成人看護学Ⅵ	30	1	安達・片山	学内	5月
老年	老年看護学Ⅱ	15	1	明村・橋本・船田	学外	9月
	老年看護学Ⅲ	30	1	村松・橋本・八木・大塚	学内・学外	5月
	老年看護学Ⅳ	20	1	杉浦・橋本	学内	11月
小児	小児看護学Ⅰ	30	1	大石・橋本	学内	5月
	小児看護学Ⅱ	20	1	久保田・橋本・高野・伊藤	学外	9月
	小児看護学Ⅲ	20	1	寺岡・大石・津藤	学内・学外	9月
	小児看護学Ⅳ	20	1	大石・橋本	学外	11月
母性	母性看護学Ⅰ	20	1	伊藤・船田・津藤	学内・学外	4月
	母性看護学Ⅱ	20	1	高石・船田・森下	学内・学外	5月
	母性看護学Ⅲ	25	1	高石・船田	学内・学外	9月
	母性看護学Ⅳ	25	1	高石・船田	学内	11月
	精神看護学Ⅰ	25	1	伊藤・平林・木出	学内・学外	4月
精神	精神看護学Ⅱ	20	1	村上・田中・船橋・前澤	学外	9月
	精神看護学Ⅲ	25	1	伊藤・橋本・橋本	学内・学外	6月
	精神看護学Ⅳ	20	1	安藤・土屋・船本	学内・学外	9月

教科外活動					
科目	時間数	単位数	担当講師	内外の別	開講時期
接遇	4		上藤美紀代	学外	6月
特別講義	2			学外	4・10月
履修ガイダンス	2			学内	4月
入学式・戴帽式・卒業式	6			学内	4・5・3月
健康診断	2			学内	4月
防災訓練	4			学内	10月
交流会	24			学内	4・7・3月
学校祭(桂花祭)	8			学内	10月
講演会	4			学外	5・10月
ホームルーム	8			学内	4・7・3月
実習ガイダンス	2			学内	6月

「形態機能学」「病理学」「病態生理治療論」の複数講師の評価配分表

科目	時間	単元	担当時間	担当者	評価方法	配点	試験時期 (試験時間)
形態機能学総論	15	解剖用語、細胞の機能と構造、体温のしくみ	15	吉野	筆記試験	100	6月 (45分)
形態機能学Ⅰ	20	消化、吸収、大腸のしくみ	20	安達・杉別	筆記試験	100	7月 (45分)
形態機能学Ⅱ	25	尿を生成するしくみ	6/25	前田	筆記試験	20	6月 (45分)
		排泄するしくみ	9/25	増田	筆記試験	40	
		体を支えるしくみ・動かすしくみ	10/25	片山	筆記試験	40	
形態機能学Ⅲ	30	循環のしくみ・呼吸のしくみ	30	前田	筆記試験	100	10月 (45分)
形態機能学Ⅳ	30	神経系のしくみ	10/30	後藤	筆記試験	30	2月 (60分)
		脳のしくみ	6/30	石間	筆記試験	20	
		感覚機能のしくみ	8/30	橋本	筆記試験	25	
		子孫を残す	6/30	貫石	筆記試験	25	
形態機能学Ⅴ	25	血液のしくみ	4/25	石間	筆記試験	20	1月 (45分)
		体を守るしくみ	8/25	柳原	筆記試験	30	
		免疫のしくみ	13/25	増田	筆記試験	50	
病理学	15	病理学・疾病の概略、用語を知る	4/15	関	筆記試験	30	10月 (45分)
			11/15	平松	筆記試験	70	
病態生理治療論Ⅰ	20	口腔・歯	4/20	森	筆記試験	20	11月 (60分)
		消化器系	8/20	石原	筆記試験	40	
		代謝(胆・肝・脾)	8/20	景岡 大島	筆記試験	40	
病態生理治療論Ⅱ	20	腎臓・泌尿器系・男性生殖器	12/20	池谷	筆記試験	60	11月 (60分)
		運動器系(骨・筋)	8/20	徳山	筆記試験	40	
病態生理治療論Ⅲ	20	呼吸器系・血液ガス動態	6/30	田村	筆記試験	30	11月 (60分)
			4/30	江間	筆記試験	20	
		循環器系(心臓・血管)	10/30	渡邊	筆記試験	50	

科目	時間	単元	担当時間	担当者	評価方法	配点	試験時期 (試験時間)
病態生理治療論 IV	30	感覚器 眼	4/30	松永	筆記試験	10	2月 (60分)
		感覚器 耳鼻咽喉	6/30	吉見	筆記試験	20	
		脳	6/30	竹原	筆記試験	20	
		自律神経	6/30	酒井	筆記試験	20	
		女性生殖器系	6/30	黒田	筆記試験	20	
		乳房	4/30	平松	筆記試験	10	
病態生理治療論 V	30	免疫系 (自己免疫疾患・アレルギー・リウマチ)	6/30	金本	筆記試験	20	3月 (60分)
		血液・造血・リンパ	10/30	前田	筆記試験	35	
		代謝・内分泌	10/30	坂本	筆記試験	35	
		感覚器 皮膚	4/30	矢田貝	筆記試験	10	

「病理学」「病態生理治療論」の再試験対象者

- ①科目の合計点が60点以下の者
- ②再試験の範囲は、各単元の配点の60%に満たない単元を範囲とする。
- ③再試験受験願いは、科目名の欄に科目名とそのあとに再試験の範囲である単元名を記載する。

例① 再試験無

科目	単元	配点	60%	本試験	結果	再試
論Ⅰ 病態生理治療	①口腔	20	12	18	合格	/
	②消化器系	40	24	35	合格	
	③胆・肝・膵	40	24	37	合格	
	素点	100	60	90		
	評価	秀				

例② 再試験無

例③ 再試験対象 再試で合格

科目	単元	配点	60%	本試験	結果	再試
論Ⅰ 病態生理治療	①口腔	20	12	12	合格	
	②消化器系	40	24	22	不	
	③胆・肝・膵	40	24	27	合格	
	素点	100	60	61		
	評価	可				

素点が61点取れているので再試験対象ではない。

科目	単元	配点	60%	本試験	結果	再試験対象	
論Ⅰ 病態生理治療	①口腔	20	12	8	不	再試	15
	②消化器系	40	24	18	不	再試	30
	③胆・肝・膵	40	24	27	合格	無	
	素点	100	60	53★		60	45
	評価	不可 再試で 可⇒ 可					

本試験の素点が53点以下のため、再試験対象である。各単元の60%以下の再試験を行う。

例④ 再試験対象 再試でも不合格

科目	単元	配点	60%	本試験	結果	再試験対象	
論Ⅰ 病態生理治療	①口腔	20	12	10	不	再試	8
	②消化器系	40	24	15	不	再試	15
	③胆・肝・膵	40	24	27	合格	無	
	素点	100	60	52★		60	23
	評価	不可 再試で 不可⇒ 不可					

再試の単元の合計点数60点の60%を満たしていないので不合格。

基礎看護学 講義進捗表

科目	科目内容	担当	時間	計	評価		方法	学習進度																
					方法	配点		1 年次																
								4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
看護学概論 I	看護学入門	亀澤	25	25	レポート 筆記試験など	100	講義 グループワーク	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	看護の役割と実践	亀澤	25	25	レポート 筆記試験など	100	講義 ラベルワーク	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
看護学概論 II	環境の調整	西川	12	30	取り組み姿勢 筆記試験など	30	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	活動と休息	片山	12				講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	基本的な食事の援助	後藤	6				講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	排泄の援助	大石	8				講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	清潔・衣生活の援助	實石 橋本	14 8				講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
看護方法 III 診療に伴う技術	フィジカルアセスメント	橋本 片山	20 10	30	取り組み姿勢 筆記試験など	60 40	講義・校内演習 講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	感染予防	安達	12	30	筆記試験	40	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	コミュニケーション	後藤	8		筆記試験	15	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
記録・報告 指導技術 与薬	實石 柳原	4 6	取り組み姿勢 課題		15 30	講義 グループワーク 講義・校内実習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
看護方法 V	看護の思考	西川	30	30	取り組み姿勢 課題 筆記試験	100	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

基礎看護学 講義進度表

科目	科目内容	担当	時間	計	評価		方法	学習進度														
					方法	配点		2年次														
								4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
看護方法VI 診療に伴う技術	臨床栄養	久保田	8		筆記試験	40	講義	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経管栄養	柳原	6		取り組み姿勢 筆記試験 課題	15	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	与薬(坐薬) 排泄(膀胱留置カテーテルの 挿入と管理・流腸)	増田	12	30		講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無菌操作	石間	4			10	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
看護方法VII 診療に伴う技術	臨床の薬理と医薬品の管理	林	8		筆記試験	30	講義	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	与薬(注射の準備、皮下注射・ 筋肉注射)	大石	6		取り組み姿勢 筆記試験 課題	20	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	点滴静脈内注射 輸血の管理	柳原	6	30		講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	検査の看護(静脈血採血・簡易血 糖測定)	石間	10			30	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
看護方法VIII 生命活動を支える技術技術	呼吸・循環を整える技術(酸 素吸入・ネブライザー)	大石	12		筆記試験など	40	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	呼吸循環を整える技術(口腔内・ 鼻腔内・気管内吸引) 体温調節の援助(温罌法・冷罌 法)	杉淵	8	30		講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	救命・救急の看護 BLS	島田 杉淵	10		筆記試験 ワーク	30	講義・校内演習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	臨床判断(気づき・解釈)	西川 橋本	11 4	15	筆記試験 課題	100	講義 グループワーク シミュレーション	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臨床判断II	臨床判断と実践	後藤	8		成果物 OSCE	100	講義 シミュレーション 技術試験	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		實石	7	15				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

地域・在宅看護論 講義進度表

科目	科目内容	時間	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
地域・在宅看護論Ⅰ 20時間 1単位	1. 暮らしとは	2	吉田	—													
	2. 暮らしの基盤となる地域とは	2															
	3. 地域社会と人々の生活	2	増田		—												
	4. 人々の生活と健康	2															
	5. 自分が暮らす地区を知る	6															
5. 自分が暮らす地区を知る	6	6	吉田														
地域・在宅看護論Ⅱ 20時間 1単位	1. 様々な場で展開される地域・在宅看護実践	8	石間														
	2. 共に支える各専門職の目的や特殊性																
	3. 4. 地域包括ケアシステムの意義と概念																
	5. 専門職連携演習①症例共有																
	6. 7. 専門職連携演習②③他職種連携協働計画作成																
	8. 9. 専門職連携演習④⑤療養者支援の連携																
	10. 専門職連携演習振り返り																
				10	吉田												
				2	石間												

地域・在宅看護論 講義進捗表

科目	科目内容	時間	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域・在宅看護論Ⅲ 20時間 1単位	1. 暮らしを支える地域・在宅看護	2	吉田	—											
	2. 地域・在宅看護の対象者、家族の理解	4	小林	—											
	3. 地域・在宅看護の特徴	4													
	4. 在宅看護の継続性	2	大井	—											
	5. 地域・在宅看護の歴史	2	小林	—											
	6. 暮らしにおけるリスクマネジメント	2	吉田	—											
	7. 地域・在宅看護における意思決定支援と権利保障	2													
地域・在宅看護論Ⅳ 30時間 1単位	1. 在宅医療の現状と課題	2	篠原	—											
	2. 超高齢社会における医療の変化 在宅療養の現状と課題	4	三輪	—											
	3. 在宅医療・介護における地域ケアシステム	2	東野	—											
	4. 訪問看護の対象者	2	池田	—											
	5. 訪問看護活動の実践	2													
	6. 地域の社会資源と法的制度の活用	4	吉田	—											
	7. 地域ケアネットワーク	2													
	8. 社会資源と地域ケア 多職種連携・多職種チームでの協働の実際 地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス	6	朝比奈	—											
	9. 介護保険ケアマネジメント、地域在宅看護の創造	4		—											
地域・在宅看護論Ⅴ 20時間 1単位	1. 地域・在宅看護における基本的姿勢とコミュニケーション技術	2	石間	—											
	3. 暮らしの場における清潔の援助	4													
	5. 暮らしの場における排泄の援助	4	大井	—											
	6. 地域・在宅看護における栄養管理とケア	2													
	7. 地域・在宅看護における呼吸管理とケア	4	石間	—											
	8. 地域・在宅看護における排泄管理とケア	2	大井	—											
	9. 地域・在宅看護における褥瘡予防とケア	2													
	1. 地域・在宅療養者の状態別・時期別看護	2	吉田	—											
	2. 地域・在宅看護過程の展開	8	石間	—											
	8	吉田	—												

老年看護学 講義進捗表

科目	科目内容	時間	担当	2 年 次																						
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
老年看護学Ⅰ 25時間 1 単位	老年期を知る	2	杉測	-																						
	老年期の発達と成熟	2	杉測	-																						
	加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害	4	杉測	-	-																					
	高齢者疑似体験	2	杉測	-	-																					
	高齢者の生活環境と健康	2	杉測	-	-																					
	高齢社会における保健医療福祉	2	杉測	-	-																					
	高齢者の権利擁護	2	杉測	-	-																					
	高齢者におけるセクシュアリティ	2	杉測	-	-																					
	地域における老人保健医療と介護保険の現状	2	保健師	-	-																					
	自立支援・理論	2	杉測	-	-																					
老年看護の特徴・役割 試験	3	杉測	-	-																						
老年看護学Ⅱ 15時間 1 単位	消化器・腎泌尿器・循環器・内分泌代謝	8	駒田	-	-																					
	呼吸器系感染症・老年症候群・廃用症候群	4	田村	-	-																					
	認知症・パーキンソン症候群	3	鈴木	-	-																					
	老年看護の基本、機能と役割	2	杉測	-	-																					
老年看護学Ⅲ 30時間 1 単位	高齢者のアセスメントとケアの技法	16	杉測・橋本 八木	-	-																					
	介護福祉施設での看護	2	大塚	-	-																					
	認知症高齢者の理解・関わり方	6	中村	-	-																					
	災害時の看護・試験	4	杉測	-	-																					
	ガイダンス	2	杉測	-	-																					
老年看護学Ⅳ 20時間 1 単位	事例展開	16	杉測・橋本	-	-																					
	試験・まとめ	2	杉測	-	-																					

小児看護学 講義進捗表 2023

科目	科目内容	時間	担当	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小児看護学Ⅰ 30時間 1単位	1、子どもとは、成長発達の特徴と原理	4	大石	—										
	2、小児各期の発達特徴と援助	8	柳原	—										
	3、乳幼児期の子どもに応じた関わりと支援	4	大石		—									
	4、子どもと家族の特徴とアセスメント	4	柳原			—								
	5、小児の身体計測・バイタルサイン測定と フィジカルアセスメント	8	大石				—							
	6、試験・まとめ	2	柳原					—						
小児看護学Ⅱ 20時間 1単位	新生児疾患、血液疾患	4	伊藤		—									
	循環器・呼吸器、消化器疾患	4	久保田			—								
	小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患	6	熊谷				—							
	神経系疾患・腎疾患	6	増井					—						
	免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患	6	寺岡						—					
	感染性疾患・内分泌疾患・発達障害	4	寺岡							—				
小児看護学Ⅲ 20時間 1単位	1、病氣・障がいを持つ子どもと家族の看護	4	寺岡					—						
	2、子どもの疾病の経過と看護	4	寺岡						—					
	3、子どもと家族を取り巻く社会	4	保健師							—				
	4、病院における子どもと家族の理解と看護	2	大石								—			
	5、地域・在宅で医療ケアを必要とする子どもと家族の看護	4	大石									—		
	6、試験・まとめ	2	大石										—	
小児看護学Ⅳ 20時間 1単位	1、子どもに特徴的な症状と看護	4	大石								—			
	2、検査・処置を受ける子どもの看護	2	柳原									—		
	3、子どもの検査・処置に伴う援助	4	柳原										—	
	4、症例に必要な看護を考える	6	大石										—	
	6、試験・まとめ	2	柳原											—

母性看護学 講義進捗表

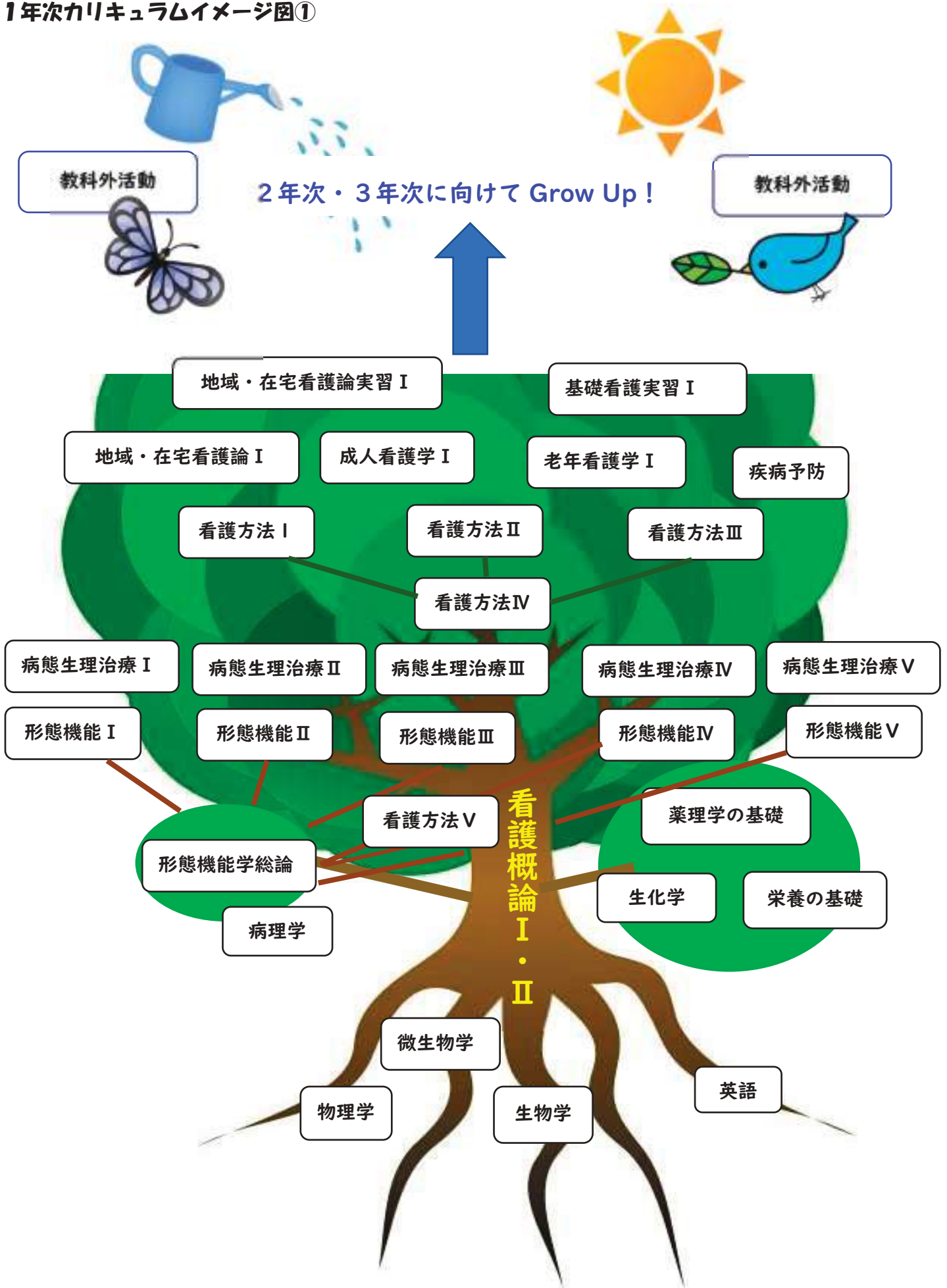
科目	科目内容	時間	担当	2年次														
				4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
母性看護学Ⅰ 20時間 1単位	1. 母性看護の基盤となる概念 人間の性	2	増田															
	2.3 母性・父性・親性 母子関係と愛着	4																
	4. 女性のライフサイクルと健康 思春期	2																
	5. 6. 成熟期の健康と看護①②	4																
	7. 更年期・老年期の健康と看護	2																
	8. 母性看護の現状と課題 母子保健事業	2																
	9. 母性看護における倫理的課題	2																
	1.2 妊娠期の身体的特性①②	4																
	3.4 妊娠による母体の生理的ニーズの変化①②	4			賈石													
母性看護学Ⅱ 20時間 1単位	5. マイナートラブル・妊婦保健指導	2																
	6~8 分娩経過・分娩期看護の実際	6																
	9. 妊娠期・分娩期の異常	6																
	10. 妊娠期・分娩期の異常と看護	2																
	1. 産褥期ガイダンス	2																
	2~6 産褥期の看護	10																
母性看護学Ⅲ 25時間 1単位	7~11 新生児期の看護	10																
	12 災害時の母子への看護	2																
	1. 母性における看護過程について	2																
	2. 妊娠期・分娩期の経過診断	2																
母性看護学Ⅳ 25時間 1単位	3. 妊娠期の援助技術	2																
	4~7産褥・新生児の看護過程①	8																
	8 帝王切開術後母子の看護過程	2																
	9. 新生児の援助技術	2																
	10~12 産褥・新生児の看護過程②保健指導	6																
				増田														

精神看護学 講義進度表

科目	科目内容	時間	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
精神看護学Ⅰ 25時間 1単位	精神看護学とは・精神の健康の定義 こころの機能と発達 1)精神の構造とはたらき 2)精神と情緒の発達 3)心の健康に及ぼすストレスの影響 発達段階における問題 1)小児期・青年期 2)成人期 3)老年期 精神の健康の保持増進活動と精神保健意識啓発対策 家族と精神の健康 災害時の精神保健 看護者のメンタルヘルス	2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2	本田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	本田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	本田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	平林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	平林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	平林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		4	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
精神看護学Ⅱ 20時間 1単位	精神医療に関わる法・制度 精神症状と状態 神経障害・ストレス関連障害・身体表現性障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動様式、器質的脳障害 心身症 統合失調症の病態生理・治療 気分(感情)障害の病態生理・治療 様々な治療における看護 1)認知行動療法、SSTなど 2)薬物療法 3)電気けいれん療法	2	田中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2	福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2	福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	村上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	村上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	朝岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	朝岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	朝岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
精神看護学Ⅲ 25時間 1単位	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷 現代社会における精神医療・医療・福祉の現状と精神看護の課題 精神障害を持つ人の生きづらさと回復への支援 精神障害を持つ人への看護の基本 1)入院後の意味 2)精神科におけるリスクマネジメント 3)身体合併に対する看護 4)身体を越えた看護ケア パートナーシップに基づく治療的関係性の構築 対象を捉える観察とアセスメントの視点 主な精神症状に応じた看護 精神障害を持つ家族への看護 地域生活を支援する リエゾン看護 事例課題：統合失調症患者の看護	2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	塚本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		4	塚本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	塚本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	塚本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	橋本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2	土屋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		6	土屋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
精神看護学Ⅳ 20時間 1単位	精神障害を持つ家族への看護 地域生活を支援する リエゾン看護 事例課題：統合失調症患者の看護	2	土屋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		6	土屋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2	土屋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		4	看護婦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	松永	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
4	後藤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

カリキュラムマップ	基礎科目・専門基礎科目・科学的思考の基礎・人間の生活と社会の理解・看護の統合と実際	基礎看護実習・演習	成人・老年看護系	地域・在宅看護系	小児看護系	母性看護系	精神看護系	
ディプロマ	看護を实践する力	探求する力	責任と役割	思いやる力	社会貢献			
3年次	看護学概論Ⅱ 看護学Ⅱ 倫理学Ⅱ 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 成人・老年看護実習Ⅰ 成長する演習 国際看護と災害看護 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	看護研究 成人・老年看護実習Ⅱ 地域・在宅看護実習Ⅲ 小児看護実習 母性看護実習 精神看護実習Ⅰ 小児看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ 基礎看護実習Ⅰ	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	成人・老年看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅲ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅱ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅲ 人間の生活と社会の理解	
2年次	看護学Ⅰ 看護学Ⅱ 倫理学Ⅰ 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 成人看護実習Ⅱ 成長する演習 国際看護と災害看護 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	看護学Ⅰ 看護学Ⅱ 倫理学Ⅰ 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 成人看護実習Ⅱ 成長する演習 国際看護と災害看護 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅱ 成長する演習 臨床判断Ⅱ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅱ 人間の生活と社会の理解
1年次	看護学Ⅰ 看護学Ⅱ 倫理学Ⅰ 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 成人看護実習Ⅰ 成長する演習 国際看護と災害看護 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	看護学Ⅰ 看護学Ⅱ 倫理学Ⅰ 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 成人看護実習Ⅰ 成長する演習 国際看護と災害看護 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解	成人看護実習Ⅰ 成長する演習 臨床判断Ⅰ 医療安全と看護管理 総合医療論 倫理学Ⅰ 科学的思考の基礎 基礎看護実習Ⅰ 人間の生活と社会の理解

1年次カリキュラムイメージ図①



1年次カリキュラムイメージ図②



本校のカリキュラムの構造イメージを1本の木で表現した。

図1は、1年次の1年間における学びを表現している。本校の3年間の学びによって、木はさらに上に向かって伸びることを想定し木の上部ははまだ見えない形となっている。看護実践をするうえで根幹となる知識である「看護学概論 I・II」を木の幹に例えた。上部には実際の看護実践による学びを配置している。木の根から枝、葉、に配置された教科目は看護実践力を支えるための学びである。隣接する、または枝でつながっている教科目は、関連性が深いことを示す。

図2は、図1の木の断面図である。この切り株は、看護者として成長する個人の能力をイメージしている。「看護学概論 I・II」の理解を深め、看護実践していく人としての成長に欠かせない学びとなる教科目を年輪として表現している。

1年間の学習には、教科目だけでなく学校行事などの教科外活動もある。教科外活動による学びは、他者を思いやる心など豊かな人間性を育み、また看護者としての責任や役割意識を高めるために欠かせない。木の図に示す看護に関する知識・技術を効果的に発揮するためには、この教科外活動における学びは非常に重要である。こうした関係性を、木の成長に欠かせない水や日光、受粉に関わる蝶、繁栄のために種子を運搬する役割を担う小鳥で表現している。

ここに示す「看護の木」は、本校での学びによって上へ上へと成長し、木の幹はぐんぐん太くなり、やがて大木となる。大木は、実をつけ様々な生き物の命を育む。人々にとって心安らぐ憩いの場にもなるだろう。また、木は森を形成し、山や海を豊かに育む。大木のように、地域の人々の命を守り、心に安らぎを与えられる、そんな看護師になって欲しい。共に学び育っていこう！

2年次カリキュラムイメージ図③

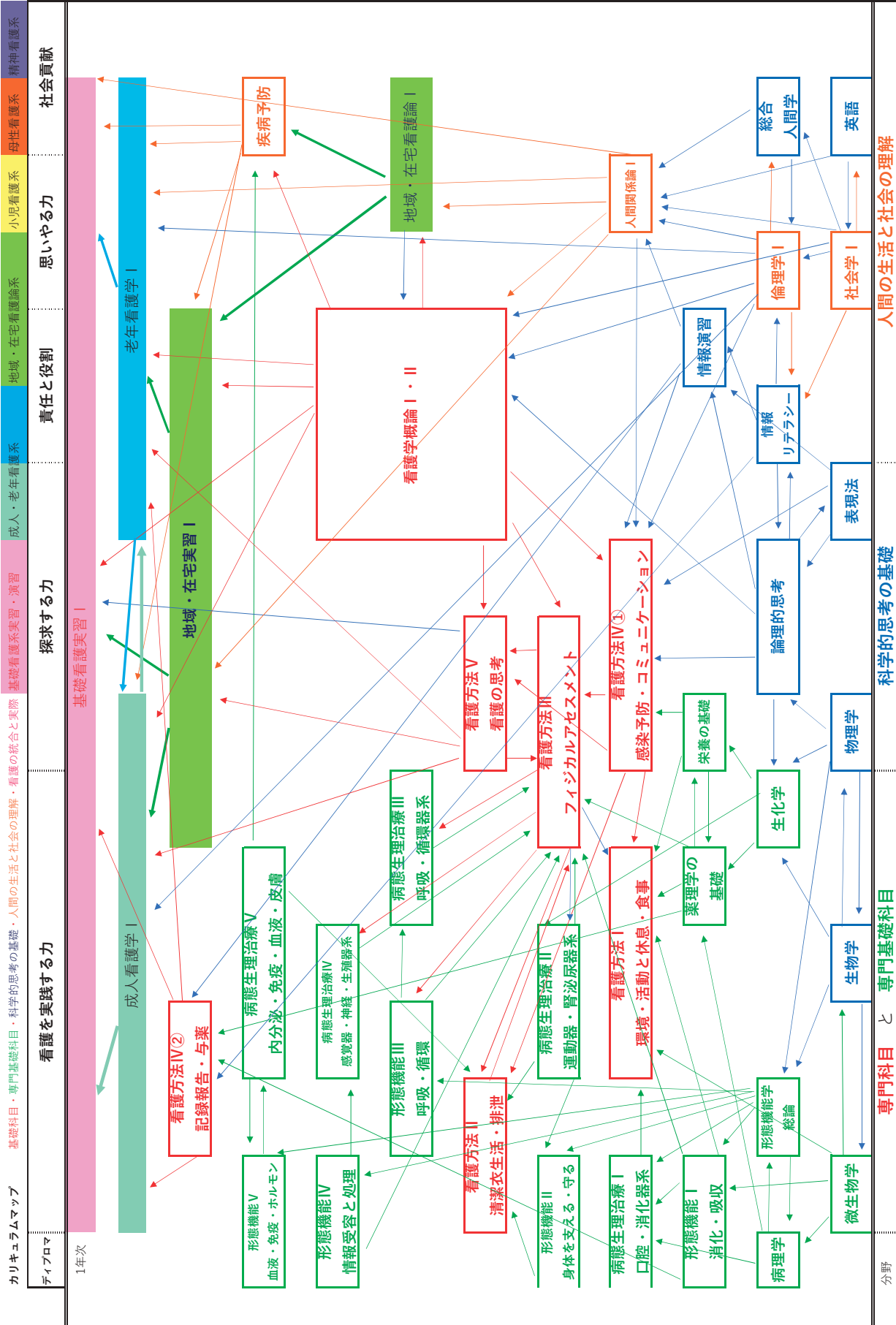


1年次で育んだ木は、さらに高く、太く成長をし続けている。図(③)は、葉が生い茂る木の内部を表している。

2年次では、専門分野の科目を木の幹で表している。全ての発達段階にある人を対象にする精神看護学を木の幹の中心に据え、その周囲に人の成長発達段階別の看護学を位置づけている。そして健康障害の有無に関わらず、地域に暮らす様々な人々を看護の対象とする地域・在宅看護論を全ての看護学を取り囲む幹の最外側に表した。これらの看護学の境界は明確でなく互に関連する。木の幹を支えるのは、1年次で学んだ科目の知識や2年次で学ぶ基礎看護学の知識である。また、専門分野の理解を促し、看護実践の根拠となる基礎科目、専門基礎科目を、樹木の葉が光合成により栄養分を生成し、樹木の成長を促す様子に喩え、生い茂る木の葉で表している。

害虫やキツツキ、リスなどの樹木を行き来する生き物によって、対象にとってより良いケアを提供する上で欠かすことができない「多職種連携」を表している。2年次では、他職の理解や連携の在り方を学ぶことを通して、看護専門職の役割の理解も深めていく。

2年次においても、教科外活動を日光や蝶、小鳥で表している。2年次では、教科外活動において中心的役割を担う。活動の計画・運営の経験は、ディプロマポリシーにある「責任と役割を果たす力」を身に付けていくことに繋がる



基礎分野

授 業 概 要

科目名	物理学	担当者	磯 博	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力			探求する力				
学修内容	医療においては科学的に物事を見て考えることが第一に要求されます。物理学は自然がどのような仕組みになっているかを解き明かすものであり、化学・生物学・医学など全ての科学の土台となる学問です。この科目では「科学的な考え方とは何か」を学ぶとともに、「医療の現場で物理学がどのように役立つか」を具体的な例を通して学習します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的方法とは何かについて説明できるようになる。 ・日常生活における問題やさまざまな自然現象を、科学的な視点から考え、解決しようとする。 ・測定値を誤差を考慮して計算し、適切に書き表すことができるようになる。 ・物理学の基本的な原理を応用して、看護の現場で活用できるようになる。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1・2回：科学への誘い ・天文学入門、古代人の宇宙観、近代科学の目覚め			講義			
	第3・4・5回：科学的方法 ・科学的方法とは、科学と非科学、科学的検証の方法			講義			
	第6・7回：測定と単位 ・物理量と基本単位、誘導単位、測定誤差			講義			
	第8回～9回： ・中間試験 ・現代の自然観(ミクロの世界、マクロの世界)			テスト(形成的評価) 講義			
	第10～14回：看護における物理学 ・重いものを持つにはどうしたらよいか ・身近な圧力 ・循環器の物理(血圧の話) ・感覚器の物理 ・放射線の利用と身体への影響			講義、小テスト(形成的評価)			
	第15回：期末試験			テスト(単位認定評価)			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 レポート課題と期末試験で総合的に評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 科学的な考え方を身につけるには、常識と思われていることに疑問を持ち、物事をより深い立場から考える訓練が必要です。この授業をきっかけに、身の回りのいろいろな事柄について一から考え直してみてください。また、テキストや参考文献を読んでみて、分からないところを積極的に質問して下さい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 「自然科学の考え方」、「看護に役立つ物理」 磯博 著 ・必要物品 特になし 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 「看護学生のための物理学」 佐藤和良著 医学書院 「シップマン自然科学入門・新物理学」 J.T.Shipman著 学術図書出版 						

授 業 概 要

科 目 名	生物学	担 当 者	森 誠	開 講 時 期	1年前期	単 位 時 間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		探求する力				
学 修 内 容	生物学は、これから勉強する専門分野・専門基礎分野のすべての科目を学習するために共通する基礎科目です。 中学・高校レベルの理科の知識を発展させて、生命現象の本質やしぐみについて学び、生物としての人間を理解できるように細目毎に学修します。						
到 達 目 標	生物としての人間には、病気や怪我に打ち勝ち、生命を維持するための巧妙なシステムが備わっています。この講義では、これまでに明らかになっている生命現象を体系的に教えると同時に、これからも続々と解明されるであろう新知見を理解できるような基礎学力を培うことを目標とします。生物学は日々進歩する学問です。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：生命体のつくりとはたらき：(1-B)細胞とその構造、(1-D)細胞膜の輸送 第2回：生命体のつくりとはたらき：(1-C)細胞の化学成分 第3回：生体維持のエネルギー：(2-B)ATPの生合成 第4回：細胞の増殖とからだのなりたち：(3-A)細胞分裂 第5回：遺伝情報とその伝達：(4-B)遺伝情報の担い手、(4-C)DNAの複製 第6回：遺伝情報の発現のしくみ：(4-D)遺伝情報の伝達、(4-E)タンパク質の合成 第7回：遺伝情報の発現のしくみ：(4-G)変異、(4-H)ヒトの遺伝 第8回：生殖と発生：(5-B)動物の受精と発生 第9回：生殖と発生：(5-C)哺乳類の発生 第10回：筆記試験			講義形式 (配布資料、PC等) 試験			
成 績 評 価	・方法 出席状況と受講態度、および筆記試験 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 特に指定しない。 ・留意点 授業は概ね教科書に沿って重要な部分を中心に解説するので、全体を把握するためにテーマとなる項目をあらかじめ予習しておくこと。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	森誠著 江原宏・森誠編著 カラー図解生化学ノート－書く！塗る！わかる 講談社 ライフサイエンスのための生物学 培風館						

授 業 概 要

科 目 名	英 語	担 当 者	ひとこと 一言 哲也	開 講 時 期	1年後期	単 位 時 間	20時間 ／1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		探求する力				
学 修 内 容	初めて看護学を学ぶ学生が、看護英語の基礎を楽しく実践的に身につける。このために必要な基礎的な医療に関する語彙も学習する。授業では、ビデオ視聴やペアワークで音声面での対話訓練を行い、受講者の積極的な参加を求める。文法よりは、発音や読むことに重点を置いた授業を行う。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が患者と関わる場面を想定して、英語で基礎的なコミュニケーションが出来るようになる。 2. 英語音声の基礎をきちんと認識し、英文の内容に応じた読み方が出来るようになる。 3. 看護の場面に必要な基礎的英語の語彙をしっかり覚える。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 英語と日本語の音声比較（基本的な音の違いや読み方のポイント）						板書による解説と練習
	第2回 Unit 1 Hospital Admission（これから入院する患者への応対場面）						Unit 1の本文—解説と読み練習
	第3回 Unit 2 The Nurse's Role（看護師の役割を伝える場面）						「U.1単語テスト①」、U.2 本文
	第4回 Unit 3 Life in the Hospital（患者から生活習慣の情報を収集する場面）						「U.2単語テスト②」、U.3 本文
	第5回 読みテスト①（Unit 1～3の本文）						ペア毎の読みテスト
	第6回 Unit 4 Taking Vital Signs 1（生命徴候を測定する場面1—体温・脈拍）						「U.3単語テスト③」、U.4 本文
	第7回 Unit 5 Taking Vital Signs 2（生命徴候を測定する場面2—血圧）						「U.4単語テスト④」、U.5 本文
	第8回 Unit 6 Providing Meal Assistance（食事介助をする場面）						「U.5単語テスト⑤」、U.6 本文
	第9回 読みテスト②（Unit 4～6の本文）						ペア毎の読みテスト
	第10回 期末試験（および試験の解説など）						筆記試験
成 績 評 価	・方法	期末試験(筆記) 60%、(復習の)単語テスト①～⑤) 20%、読みテスト①・②) 20%					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	毎回の授業では、発話やペア練習があるので、積極的な参加を求める。授業に際しては、新しい単語や表現の意味は授業の中で解説するので、予習よりも復習に重点をおいてもらいたい。前回の授業範囲から、復習の「単語テスト」を毎回行い、さらにテキスト本文から「読みテスト」を2回行う。					
	・留意点	間違いを恐れず、楽しく元気に話そうとする態度を高く評価する。成績は、上記の通り、復習の「単語テスト」・「読みテスト」および期末試験で総合判定する。(出席状況や受講態度なども参考にする) なお、単語テストは、毎回の授業冒頭約10分で行なう簡単な小テストである。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	〈書名〉 Health Talk (English for Hands-on Nursing) 〈著者〉 P.Uchida、山本淳子、渡邊容子 〈発行〉 ビアソン エデュケーション					
	・必要物品	特になし					
参 考 文 献	読みテストの準備をする場合、テキスト本文を録音したCDがあるので、必要に応じて適宜利用すること。 (CDは講師室に保管されているので、学校の許可を得て借りること)						

授 業 概 要

科目名	表現法	担当者	竹腰 幸夫	開講時期	1年前期	単位時間	30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		探求する力					
学修内容	<p>「表現法」とは、日本語の言語表現法(コミュニケーション)のことです。 「看護」の目的を考えればすぐにわかるように、まず患者さんとその家族、医者、先輩・同僚看護師、医療・医薬専門家、その補助者、介護関係者、病院事務関係者等、色々な領域の方々との円滑なコミュニケーションなしにはその目的は達成できません。ぜひともその力を研ぐための考え方・方法を身に付けておきたいところです。そこで、主に次の3点を学びます。</p> <p>①看護における「言語」「言語表現」とは何なのか。 ②「日本語」表現の特性・特質とその理解。 ③「コミュニケーション」の意味と実際。</p>						
到達目標	<p>上記①～③の理解。 本講座の目的は、知識の修得ではありません。「表現」に関する根本的な考え方(哲学)の理解にあります。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 医療と看護の論理…「表現法」の出発点・文字の表す癒しの世界						<p>いずれも講義形式及び「成績評価」の方法による小レポート(レスポンスシート)による質疑応答。</p>
	第2回 看護のポジション…看護の視点・マザーテレサの思想から						
	第3回 言葉の力(1)その発生…聖書「太初めに言葉ありき」・ナイチンゲールの方法						
	第4回 言葉の力(2)その認識…仏陀「四苦八苦」の人間認識						
	第5回 言葉の力(3)その様相…科学「人文科学」の考え方						
	第6回 言葉の力(4)その生命…言葉の奥行・二面性(普遍性・特殊性)						
	第7回 芸術としての言語世界…ホモ・ルーデンスの言葉世界						
	第8回 日本語の特質(1)その優しさ……「いろはうた」						
	第9回 日本語の特質(2)その奥深さ……「愛」と「哀」						
	第10回 日本語の特質(3)その柔かさ……「以心伝心」						
	第11回 日本語の特質(4)その豊かさ……「敬語」と「敬意」						
	第12回 日本語の特質(5)その実践へ……小テスト						
	第13回 メモの重要性…理解と誤解・おもいやり						
	第14回 よりよいコミュニケーションのために・ラブレターの書き方						
	第15回 高い理想と笑顔の人生のために・「感情労働」を克服する						
成績評価	・方法	<p>毎時300字程度の小レポートを書いていただきます。①授業内容のまとめ、②意見、③疑問、④感想 をその内容としますが、それは自ずから「文章表現」の鍛錬の場ともなります。そのレポートは毎回、評価・添削し、返却します。その集積の評価(80%)と、小テスト2～3回(20%)実施の合計で単位評価します。</p>					
	・基準	<p>本校の基準に沿って評価します。</p>					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト	新版 日本語・理解と表現	いろは出版				
	・必要物品						
参考文献	その都度案内します。						

授業概要

科目名	情報リテラシー	担当者	大久保 誠也	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 ／1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		探求する力・責任と役割を果たす力				
学修内容	日常生活の様々な場面でICT(情報通信技術)を用いることが当たり前となっており、情報社会に対応していく力を備えることがますます重要となる。まずはこの情報社会の仕組みの理解をはじめ、情報の管理、情報の取扱い方などICTにおける基礎知識を学ぶ。(情報社会の仕組み、ネットワークの仕組み、情報リテラシー、情報モラルなど)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を扱う際に必要となる基本的な知識を身につける。 ・現代社会で情報を守るために使用されている基本的技術を理解する。 ・情報セキュリティ、情報倫理を考える際の基本的な枠組みを理解する。 ・情報機器(コンピュータやスマートフォン)やネットワークシステムの基本的な仕組みや特徴を理解する。 						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
第1回	情報とは	講義と実技					
第2回	計算機の構成要素						
第3回	計算機と2進数						
第4回	計算機とネットワーク						
第5回	情報と社会						
第6回	情報セキュリティ						
第7回	情報倫理						
第8回	文書作成の基礎1						
第9回	文書作成の基礎2						
第10回	試験						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 実技試験及び出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の授業において、演習形式の課題提出を求めます。授業の積極的な参加を望みます。また、テキスト(配布資料)は必ず毎回持参してください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 配布資料 ・必要物品 						
参考文献							

授業概要

科目名	情報演習	担当者	大久保 誠也 東野 定律	開講時期	1年前期	単位時間	25時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		探求する力					
学修内容	情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力となりつつある。情報活用に必要な基本的なコンピューター等の情報手段の操作や情報収集、表現、発信等を行うための技術を体験を通して習得する。コンピューター等の情報手段における情報の収集(検索)・整理・表現・発信等の方法、操作法(ワード、エクセル、パワーポイント、情報検索方法、Eメールなど)						
到達目標	WordやExcel、PowerPoint といったソフトの使用方法をはじめとし、電子メールの使用、情報検索、文章やグラフ、表の作成、プレゼンテーションの基本について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: はじめにーパソコンとWindowsの基本操作 第2回: 電子メールを使った情報共有とビジネスチャット 第3回: 情報検索(検索エンジン、ソフトウェアのダウンロード) 第4回: タッチタイピング 第5回: データ処理基礎(エクセル入門①) 第6回: データ処理基礎(エクセル入門②) 第7回: データ処理演習(エクセル演習①) 第8回: データ処理演習(エクセル演習②) 第9回: プレゼンテーションの基礎① 第10回: プレゼンテーションの基礎② 第11回: プレゼンテーション演習① 第12回: プレゼンテーション演習② 第13回: 試験(45分)	大久保	講義と実技				
成績評価	・方法	実技試験及び出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	毎回の授業において、演習形式の課題提出を求めます。授業の積極的な参加を望みます。また、テキスト(配布資料)は必ず毎回持参してください。					
テキスト・必要物品	・テキスト	配布資料					
	・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	論理的思考	担当者	小野田 貴夫	開講時期	1年後期	単位時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		探求する力					
学修内容	カンファレンス等、グループやチームで議論を進めていく時に、参加者が納得できる筋道の通った問題の立て方と結論の出し方が必要になる。そのための論理的な思考の枠組みを理解し、実際に使えるようになることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考の基本的な枠組みが理解でき、その必要性を説明できる。 ・現実的な場面で、論理的なコミュニケーションができる。 ・現実的な問題に、論理的な解決方法を使うことができる。 						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回：論理的な思考の基本的な枠組みについて	ミニレポートの作成					
	第2回：論理的なコミュニケーションの基本について	ミニレポートの作成					
	第3回：問題の設定の仕方	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第4回：理由と結論の組み合わせについて 帰納法と演繹法	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第5回：ブレインストーミングの方法(K.J.法とマインドマップについて)	ミニレポートの作成					
	第6回：不確実性を減少させる仕組み	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第7回：データから原因を推論する	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第8回：感情や原因をイラストで表現する	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第9回：グラフィックレコーディングとマインドマップ	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第10回：ロジックピラミッドとロジックツリー	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第11回：論理的問題解決の基本について	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第12回：問題の設定の仕方(問題の抽出方法)	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第13回：問題と原因の関係について	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第14回：解決方法の求め方	グループワークによるミニレポートの作成と発表					
	第15回：まとめ	筆記試験					
成績評価	・方法	筆記試験50%、課題提出・小レポート30%、授業態度20%					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題	その都度、資料を配布する。					
	・留意点	グループワークを実施する時は積極的に参加すること。					
テキスト・必要物品	・テキスト	「文章作成一歩前」 小野田貴夫著					
	・必要物品	濃いめ鉛筆(B2~B4)、色鉛筆(数種類の基本色)、蛍光ペン					
参考文献	「ロンリ」の授業：あの人の話はなぜ、わかりやすいんだろう？ NHK「ロンリのちから」制作班(著)、野矢茂樹(監修)						

授 業 概 要

科目名	倫理学 I	担当者	中村 美智太郎	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力					
学修内容	<p>倫理学における主要なテーマのいくつかを題材としながら、倫理学の基本思想・理論と実践について学ぶ。一人の人間として、また専門職として、生命・人権・善い行為・価値観等を見つめることで、倫理学の基本的な考え方について理解を深めながら、具体的なテーマに基づいて考察を深める。</p> <p>毎回 PowerPoint によるスライドを使用する。授業内で質問をする時間も設け、自由な質問・議論を促す。授業は講義形式によって理解を深め、それに基づいた小課題に取り組む時間を設け、グループディスカッション等の議論の時間を活用する。いずれも、主体的な参加を期待する。</p>						
到達目標	<p>受講者が、自己自身の価値観を見つめ直し、自己自身について改めて振り返りながら、他者とともに生きること、そして他者とともに社会をつくり、共生することとはどのようなことかについて考察することができること。また、自己理解・他者理解の本質をつかみ、それに関わる理論についての理解を深め、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識・態度の獲得と基本的資質の形成を行うことができること。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 倫理学とはどのような学問かー動物と人間はいかにして区別可能か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第2回 生と死について①ー自己決定と死ぬ権利						講義、小課題、議論への参加貢献
	第3回 生と死について②ー私たちはいかにして決意するか						講義、小課題、議論への参加貢献
	第4回 共同体について①ー善く生きるとはいかにして可能か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第5回 共同体について②ー「幸福」に生きるとはどういうことか						講義、小課題、議論への参加貢献
	第6回 自由について①ー「衝動」はコントロールできるか						講義、小課題、議論への参加貢献
	第7回 自由について②ー「共感」はいかにして可能か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第8回 多様性について①ー善は偽善か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第9回 多様性について②ー「他者」はいかにして成立するか						講義、小課題、議論への参加貢献
	第10回 倫理学の展望と課題 まとめ課題						まとめ課題と解説講義、議論への参加貢献
成績評価	・方法	「筆記試験」と「毎回の講義への参加貢献」によって評価する。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題	配布資料を活用して、復習と予習を行い、理解を深めること。					
	・留意点	既存の知識を単に暗記するのではなく、倫理をめぐる諸問題について自ら認識を深め、判断し、他者の意見を尊重しながら自らの意見を持つことができるようになるよう、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。					
テキスト・必要物品	・テキスト	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。					
	・必要物品	特に指定しない。					
参考文献	特に指定しないが、授業の中で適宜紹介する。						

授 業 概 要

科目名	総合人間学	担当者	大村 壮 守屋治代	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力					
学修内容	人間学には様々な角度からのアプローチがあるが、本稿では、看護が対象とする「人間」を理解するための基盤となる観点に限定して学修する。また、看護とは、自分とは「異質な他者」に対して、その人の生活や人生に何らかの益となることを願って、他者である看護者が「その人」に働きかける矛盾に満ちた仕事(業)である。このような前提に立って、人間という存在と、人間と他者との関係性をホリスティック(全体的・全関連的)に理解するための観点を学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多角的に存在している人間をホリスティック(全体的)に捉えるとはどういうことかを考える 2. 人間を理解することへの関心と、そのための様々な観点を述べる 3. 理解困難な「他者」を理解する方法について述べる 4. 自らの関りを通して具体的な「他者」理解を試み、自分の理解を述べる 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 科目オリエンテーション、物事を理解することとは 第2回: 自然のなかの人間存在の位置づけ、人間存在の構造 第3回: 生命体としての人間・生活する人間とは 第4回: 人間が心をもっているということとは 第5回: 人間が生産を通して成長発達することとは 第6回: 人間がストレス・困難を生き抜いていくこととは 第7回: 人間が病・障害・死を生きることは 第8回: 人間対人間の関係とは 第9回: 他者を理解することとは 第10回: 他者への関りを実践することとは ※第4回・第5回は大村講師が担当、その他は守屋講師が担当						・講義および状況に応じてグループワークを行います ・各講義終了後にリアクションペーパーを提出し、講義への関心や理解度を表明してもらいます
成績評価	・方法 各講義毎のリアクションペーパー・講義への参加状況・最終課題レポートによる総合評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 各講義のなかで随時提示する ・留意点 知識を丸ごと暗記する必要はありません。常に具体的な事例とつなげて理解してください。(守屋) 授業は教員が一方的に喋っているだけでは成り立ちません。また教員が正解を話しているとも限りません。教員の話をお聞きせず、いつも自分なりに考えながら授業に取り組んでほしいです。(大村)						
テキスト・必要物品	・テキスト 時実利彦: 人間であること 岩波新書 1970 Joice Travelbee 長谷川浩 他訳: 人間対人間の看護 医学書院 1974 ・必要物品						
参考文献	・薄井坦子編集: ナイチンゲール言葉集 看護への遺産 現代社 1995 ・V.E.フランクル, F.クロイツァー (山田邦男他訳): 宿命を超えて、自己を超えて 春秋社 1997 ・マーガレット A. ニューマン (手島恵訳): マーガレットニューマン看護論 医学書院 1995 ・佐々涼子: エンド・オブ・ライフ 集英社インターナショナル 2020						

授 業 概 要

科目名	人間関係論Ⅰ	担当者	大村 壮	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 ／1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力・地域社会に貢献する力						
学修内容	<p>関係的存在としての人間について考察し、人間のWell-beingを考える上での人間関係の重要性(アタッチメントや基本的信頼の意義)を明らかにする。またよりよき人間関係を構築する上での自己理解やコミュニケーションの在り方などを学ぶ。さらに、特に看護における人間関係論、つまり援助的人間関係論をトラベルビーやペプロウの見解を通して、その在り方を深める。</p>							
到達目標	<p>①自己理解を深める。 ②他者とコミュニケーションすることの意味を理解する。 ③「共感」とは何かを理解する。 ④他者との関係のあり方について考える。</p>							
授業計画	授業テーマ				方法(形成評価等を含む)			
	第1回	ガイダンスと人間関係論入門:関係存在としての人間の成り立ち			講義、視聴覚教材の利用			
	第2回	自己理解と他者理解について			講義、視聴覚教材の利用			
	第3回	エゴグラム性格検査から自己理解を深める			講義、性格検査用紙の利用			
	第4回	役割について①			講義、視聴覚教材の利用			
	第5回	役割について②			講義、視聴覚教材の利用			
	第6回	ヒトとヒトとのコミュニケーションを理解する			講義、視聴覚教材の利用			
	第7回	他者との関わり方 応用行動分析から考える			講義、視聴覚教材の利用			
	第8回	援助関係について 自立と依存と自律について理解する			講義、視聴覚教材の利用			
	第9回	他者の視点に立った援助について考え、共感とは何かを考える			講義、鏡映描写器の利用			
	第10回	さまざまな他者と協力関係を築く 囚人のジレンマゲーム			講義、視聴覚教材の利用			
成績評価	<p>・方法 毎回の小レポート(各10点×10回)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>							
事前課題・留意点	<p>・事前課題 振り返りを大切にしたいので、事前課題は特にはありません。</p> <p>・留意点 授業は教員が一方的に喋っているだけでは成り立ちません。また教員が正解を話しているとも限りません。教員の話をお聞きせず、いつも自分なりに考えながら授業に取り組んでほしいです。</p>							
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 特に指定しない。</p> <p>・必要物品 特になし</p>							
参考文献	<p>① M・シモーヌ・ローチ『アクト・オブ・ケアリング』ゆみる出版 1996.7 ② ミルトン・メイヤロフ『ケアの本質-生きることの意味-』ゆみる出版 1987.4 ③ ダニエル・F・チャンブリス『ケアの向こう側』日本看護協会出版会 2002.3 ④ 浜渦辰二編『ケアの人間学入門』知泉書館 2005.11 ⑤ 武井麻子『感情と看護』医学書院 2001.3 ⑥ 澤田瑞也『カウンセリングと共感』世界思想社 1998.5</p>							

授 業 概 要

科目名	人間関係論Ⅱ	担当者	久保田 智之	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	円滑かつ快適な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。講義において、よりよい人間関係を築くために有益な理論や学ぶ、また、体験ワークを通して、自らのコミュニケーションのパターンや癖などに気づき、内省を深めていく。						
到達目標	「患者－医療職者」、「医療職者－医療職者」の関係性において、円滑かつ快適な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1・2回	協働に必要なコミュニケーションスキル			講義・体験ワーク		
	第3・4回	印象形成の理論と活用			講義・体験ワーク		
	第5・6回	アサーション、ノンヴァーバルコミュニケーションの活用			講義・体験ワーク		
	第7・8回	組織内で求められる協働力			講義・体験ワーク		
	第9・10回	組織内で求められる共感力、感情コミュニケーション			講義・体験ワーク		
成績評価	・方法	レポートの評価による。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題	特に指定しない。					
	・留意点	授業中に体験ワークがあります。実際に頭と身体を使って、体験することで学んでいきます。一歩引いた態度でなく、まずやってみる姿勢でのぞんでください。真剣にチャレンジした分だけ、自分自身の理解が深まり、現場で活用できる知恵を得ることができます。					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院					
	・必要物品						
参考文献	講師より適宜用意する。						

授 業 概 要

科目名	社会学Ⅰ	担当者	小林 哲也	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 ／1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	地域社会に貢献する力					
学修内容	看護を必要とする人を中心とした個人の生活、看護を必要とする人を取り囲む集団としての家族、看護を必要とする人が暮らす社会としての地域の諸相や抱える課題について理解する。						
到達目標	看護を必要とする人が健康な生活を送るためには、病気を治すことだけでは成り立ちません。その人がどのような人と暮らし、どのような集団に属し、どのような役割を担っているのか社会からの理解が必要となります。また、現在の医療は、従来のように病院の中だけでは完結しなくなり、専門的な治療を必要としない療養が必要な人は、住み慣れた地域で療養する在宅医療が推進されています。つまり、地域での医療が求められているのです。以上のことから、この授業では、看護を必要とする人の生活を社会から理解すること、在宅医療の推進のために地域を理解することが到達目標となります。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回：オリエンテーション 第2回：個人の生活の理解①－個人の生活の捉え方 第3回：個人の生活の理解②－ライフスタイルとQOL 第4回：家族の理解①－家族の現在 第5回：家族の理解②－家族が抱える課題 第6回：家族の理解③－家族のケア機能 第7回：地域社会の理解①－地域社会とは何か 第8回：地域社会の理解②－地域社会における個人と集団 第9回：地域社会の理解③－地域社会が抱える課題 第10回：定期試験	テキストp.30～p.40までを説明する テキストp.41～p.53までを説明する テキストp.56～p.63までを説明する テキストp.64～p.67までを説明する テキストp.68～p.75までを説明する テキストp.110～p.117までを説明する テキストp.117～p.121までを説明する テキストp.122～p.127までを説明する					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 ・基準 本稿の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 各回のテキストの該当ページを提示しましたので事前に読んでおきましょう。 ・留意点 授業中の私語、居眠り、携帯電話・スマートフォンの使用は禁止です。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 『ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障① 健康と社会・生活』平野かよ子、渡戸一郎編 メディカ ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	社会学Ⅱ	担当者	小林 哲也	開講時期	2年前期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		地域社会に貢献する力					
学修内容	・看護を必要とする人に対する課題を、個人、地域社会、社会構造といった社会という広い視点から理解する。						
到達目標	社会学Ⅰでは、看護を必要とする人、その人の家族、その人が暮らす地域と、看護を必要とする人の生活を社会学の視点から理解してきました。社会学Ⅱでは、社会学Ⅰでの学びを応用し、社会という広い視点から現代社会における保健医療の課題を見ていきます。具体的には看護を必要とする人に対して、個人に対するコミュニケーションや行動、地域社会、ストレスや社会格差など社会構造が抱える社会的な課題をみていきます。以上のことから、この授業では、看護を必要とする人が社会という広い視点からみた時、どのような課題を抱えているのか理解することが到達目標となります。						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：オリエンテーション 第2回：患者とのコミュニケーション 第3回：健康と病気に関わる人間の行動 第4回：地域社会と保健医療 第5回：健康・病気・ストレスの新しい捉え方 第6回：健康・病気の社会格差 第7回：ケアと医療 第8回：定期試験						テキストp.140～p.153までを説明する テキストp.128～p.137までを説明する テキストp.190～p.203までを説明する テキストp.74～p.87までを説明する テキストp.90～p.103までを説明する テキストp.238～p.253までを説明する
成績評価	・方法 定期試験 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 各回のテキストの該当ページを提示しましたので事前に読んでおきましょう。 ・留意点 授業中の私語、居眠り、携帯電話・スマートフォンの使用は禁止です。						
テキスト・必要物品	・テキスト 『社会学(系統看護学講座 基礎分野)』山崎喜比古編 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

專門基礎分野

授 業 概 要

科目名	形態機能学総論	担当者	吉野 吾朗	開講時期	1年前期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	医療職として、また看護師として生命活動を支えるため、人体の仕組みを理解することが必要である。看護の専門性である診療の補助や生活を整え支援するための基盤となる。生物の体の成り立ちや人体の部位名称を理解し人体を構成する仕組みと働きに関する基礎知識はこれから学習する解剖生理、病態生理治療論、薬理学、生化学など前提となる科目である。						
到達目標	人体の部位の名称や臓器の名称を学ぶ。 人体を構成するしくみと働きに関する基礎的な知識を習得する。 人間の日常生活行動を支える生命活動である体や臓器を守るしくみを学ぶ。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回：講義	自己紹介、解剖学用語			講義形式(配布資料等) 試験		
	第2回：講義	器官					
	第3回：講義	組織					
	第4回：講義	組織、細胞					
	第5回：講義	細胞					
	第6回：講義	ホメオスタシス					
	第7回：講義	体温					
	第8回：試験	試験(45分)					
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望： 予習してきて下さい(指定された範囲のテキストを読んでくる)。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ				サイオ出版		

授業概要

科目名	形態機能学Ⅰ 咀嚼と嚥下・消化吸収のしくみ	担当者	安達百合 杉淵美里	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。人間の日常生活活動である咀嚼と嚥下の仕組みや消化・吸収・排泄する仕組みを理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	1)「食べる」ことの意義を理解できる 2)咀嚼と嚥下のメカニズムが理解できる 3)栄養の消化・吸収の仕組みを理解できる 4)消化・吸収後に排泄されていく仕組みを理解できる 5)消化・吸収の状態から健康状態の変化や日常生活への影響を理解できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	消化管はどんな器官だろう/食べることの意義	安達	講義	※演習では実際の体験から咀嚼と嚥下のメカニズムを考えて行きます。 ※講義後は小テストあり。		
第2回	体験から学ぼう 嚥下運動のメカニズム	安達	演習				
第3回	体験から学ぼう 咀嚼と食塊形成のメカニズム	安達	演習				
第4回	咀嚼と嚥下の過程	安達	講義				
第5回	消化と吸収 胃・小腸の構造と機能	安達	講義				
第6回	消化と吸収 肝臓・胆のうの構造と機能	杉淵	講義				
第7回	消化と吸収 膵臓の構造と機能	杉淵	講義				
第8回	消化と吸収 栄養素の消化と吸収	杉淵	講義				
第9回	大腸の構造と機能/食物が排泄されるまでの旅路	杉淵	講義				
第10回	筆記試験	杉淵					
成績評価	・方法 筆記試験65%、小テスト35%、授業の取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 講義前に提示します。 ・留意点 自分自身の体について興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学ぶ。 そして、食べ物から栄養を吸収した後の体の中でどのように代謝して体は動くことができているのか考え、他者の意見を聞き学ぶ姿勢を持つこと。 この単元での学びを、看護方法Ⅰにつなげていく。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 ・必要物品 授業前に提示する。						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅱ 「身体を支える仕組み・動かす仕組み」	担当者	片山 聖治	開講時期	1年次前期	単位時間	10/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	運動機能とは、単に身体を動かすことだけでなく生命維持のための心臓や肺、コミュニケーションのための目や口、表情、食物を消化吸収することや排泄の機能も其々の筋肉による運動である。このように人間が生きること、生活することに「運動」は欠かすことができないもので、それを支える骨や筋肉、操っている脳神経などを理解することは人間の活動を理解するための重要な学習である。障がいや疾病によって様々な運動機能が障がいされることは、臨床ではしばしば見られる症状である。この障がいや症状を理解した上看護を実践するために、本来の健康な人間の運動のメカニズムを学ぶ。						
到達目標	1) 骨の構造と形成、仕組みについて理解する。 2) 筋の構造と収縮メカニズムについて理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 4) 生命活動や生活動作を支える運動のメカニズムについて理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 身体を支える・動かすために必要なことは？			入学前プログラムの確認テスト グループワーク・発表			
	第2回 骨の仕組みと働き			小テスト：全身の骨の名称 講義・シンクベアシェアを適宜行う			
	第3回 筋の仕組みと働き			事前課題：筋の収縮しくみ 小テスト：筋の構造と名称 講義・シンクベアシェアを適宜行う			
	第4回 各部位の筋の特徴			小テスト：骨・筋の復習テスト 事前課題：各部位の筋の特徴			
	第5回 正常な機能が障害されたときの日常生活への影響			ジグソー法を行う グループワーク・発表			
成績評価	・方法：筆記試験（20％） 講義内で実施する小テストは10％の評価とする。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 「骨の構造と名称」「筋の構造と名称」の事前課題資料を使用し学習する。 ・留意点 自分の身体を動かし、イメージしながら学んでほしい。 視聴覚教材のDVD（生体のしくみ第15・16集）を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である個人の復習として活用してほしい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 医学書院 菱沼典子：看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅱ 「体液調節と尿生成のしくみ」	担当者	前田 信吾 増田 瑞枝	開講時期	1年次 前期	単位 時間	15/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力				看護を実践する力
学修内容	<p>私たちは、毎日排便するとは限らない。しかし、排尿しない日はない。これは、腎臓において、体内で産生される老廃物や過剰な電解質を水に溶解させ、速やかに体外へ排出しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は、一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性(ホメオスタシス)を保つ生理機能である、尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学ぶ。排尿するしくみについては、自己の体験をふまえ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学ぶ。健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を、習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓の構造とメカニズムを理解する 2. 糸球体・尿細管の組織構造とそのメカニズムを理解する 3. 糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 4. 傍糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 5. 畜尿・排尿のメカニズムを理解する 6. 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで異常がわかる 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 尿とは何か (増田)						講義
	第2回 尿の生成のしくみ① (前田)						講義
	第3回 腎臓の構造とメカニズム 尿の生成のしくみ② (前田)						講義
	第4回 糸球体と尿細管 尿の生成のしくみ③ (前田)	メカニズム(濾過・再吸収・分泌)					講義
	第5回 傍糸球体装置 尿の排泄のしくみ (増田)						講義
	第6回 畜尿・排尿のしくみと神経 体液量・血圧を調整するしくみ (増田)						講義
	第7回 レニンアンジオテンシン-アルドステロン系 尿の生成と排尿までの一連の流れをまとめよう						グループワーク 発表:講義
	第8回 学科試験						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験（形態機能学Ⅱのうち25点配点）（前田先生:15点・増田:10点） 授業への取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 事前課題をもとに授業をすすめていきます。しっかり準備をして臨みましょう。</p> <p>・留意点 自分の身体や生活行動に結びつけて、尿の生成のしくみ・排尿のしくみを理解していきましょう。毎回の講義後はテキストの関連箇所を読み、理解を深めていきましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>阿部信一他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 病気がみえる ⑧腎・泌尿器 メディックメディア 金子大輔：世界一まじめなおしこ研究所 保育社 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 菱沼典子：図解 見えない身体 ライフサポート社 ナーシング・グラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 一般社団法人 日本腎不全看護学会：腎不全看護 第5版 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ	担当者	前田 信吾	開講時期	1年前期	単位時間	30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<p>形態と構造の学問である解剖学(形態学)、機能の学問である生理学(機能学)、2つの領域を合わせて学修する。</p> <p>一見すると解剖学と生理学別々が良いと思われるであろうが、ほとんどの生命体は形と働きの両輪がかみ合って機能している。この授業では、正常な形態と構造、機能を学修する。正常を知ることにより、この授業の先で学ぶであろう病的な状態との違いを任してもらい、看護学の基礎固めとする。</p>						
到達目標	<p>日常生活を支える生命活動である内部環境に関する恒常性と内臓機能の調節の一部、物質の物流である循環器、栄養の取り込みである消化器の構造と機能を理解し第三者に説明ができるようになる事を学習の到達目標とする。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	テキストの章について		解剖生理学	おもしろく			
	第1回:解剖生理の基礎(総論・組織)	第1章	Chapter 1・2	スライド	配布資料		
	第2回:循環器1(心臓の位置と構造)	4-A・B	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第3回:循環器2(心臓の生理)	4-C	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第4回:循環器3(心臓の疾患)	病態生理学	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第5回:循環器4(血管1:動脈)	4-D	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第6回:循環器5(血管2:静脈とリンパ管)	4-D	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第7回:循環器6(血管3:生理と疾患)	4-E	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第8回:循環器7(血液と疾患)	3-C	Chapter 3・10	スライド	配布資料		
	第9回:呼吸器1(呼吸器について)	3-A	Chapter 4	スライド	配布資料		
	第10回:呼吸器2(上気道:鼻腔から喉頭)	3-A	Chapter 4	スライド	配布資料		
	第11回:呼吸器3(上気道・下気道)	3-A	Chapter 4	スライド	配布資料		
	第12回:呼吸器4(下気道:喉頭から肺)	3-A	Chapter 4	スライド	配布資料		
	第13回:呼吸器5(呼吸:生理)	3-B	Chapter 4	スライド	配布資料		
	第14回:呼吸器6(呼吸:疾患)	病態生理学	Chapter 4	スライド	配布資料		
第15回:まとめ							
成績評価	<p>・方法 筆記試験</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 系統看護学講座「解剖生理学」・「病態生理学」・「解剖生理をおもしろく学ぶ」を読んでくること。授業時に使うスライドは、学校指定のサイトに、授業の数日前までに掲載します。授業前の予習よりも、授業後の復習は怠らないようにしてください。</p> <p>・留意点 形態機能学は生活に密接した学問で自分のカラダ構造をしる授業とと考えてください。初めての用語ばかりで難しいと感じると思いますが、理解できないことは5分調べてもわからない時はどれだけ悩んでも答えは見つからないかもしれません。そのような時はcologne.weisskreuz@mopera.net に質問する癖を身につけましょう。聞くことは決して恥ずかしいことではありません。知らないでやり過ごすことで取り返しのつかない事故につながります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 1. 医学書院 : 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能「解剖生理学」 2. 医学書院 : 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進「病態生理学」 3. 配布資料</p> <p>・必要物品 ・筆記用具 ・系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能「解剖生理学」 ・配布資料</p>						
参考文献	<p>1. 医学教育出版 : 竹内 修二「読んでわかる 解剖生理学」 2. 日本医事新報社 : 坂井 建雄 他「カラー図解 人体の正常構造と機能」 3. サイオ出版 : 増田 敦子「解剖生理をおもしろく学ぶ」 4. 医学書院 : 横地 千仞 他「カラーアトラス人体 解剖と機能」</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 情報の受容と処理	担当者	後藤治美 西川はるみ 橋本圭子	開講時期	1年次後期	単位 時間	24/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	人間が日常生活活動をするうえで、外部からの情報を取り入れ情報を判断し伝達することや話し考えることの仕組みを理解する。これらの一連の活動は感覚受容器から、神経回路を経由し脳など中枢神経へ、脳から抹消神経を経て骨格筋などの効果器へ伝達される。日常的で無意識に行っている行動が脳神経の働きによって成り立っていることを理解し、人間の活動や感情、思考が脳神経のメカニズムであることを学ぶ。その上で病態理論Ⅳでの脳機能疾患、神経疾患のメカニズム、治療を学ぶことで正常な機能が障害された方への看護へつなげていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 2.「話す」「考える」メカニズムについて理解する。 3.自律神経の構造・機能を理解する。 4.感覚受容器の種類・しくみを理解する。 5.感覚受容器の機能や特徴を理解する 6.神経系の障害による症状と生活への影響を考える。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 中枢神経の解剖、脊髄の構造と機能						入学前プログラムの知識だめしテスト
	第2回 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義・シンクベアシェア
	第3回 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第4回 運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第5回 自律神経系						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第6回 大脳の役割						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第7回 大脳の役割：記憶のしくみ						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第8回 大脳の役割：話すこと・眠ることの仕組み						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第9回 感覚器（感覚機能の仕組み）眼の構造と視覚、						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第10回 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚の特徴						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第11回 痛みのメカニズム						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
	第12回 学科試験・まとめ						講義・シンクベアシェア・ポストテスト
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法：筆記試験・課題提出状況および課題内容・参加姿勢 後藤40点 西川10点 橋本30点 寶石20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 入学前プログラムの復習。解剖学的な部位、名称、生理機能はテキストなどを活用し必ず予習をして参加 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 視聴覚教材のDVD（生体のしくみ第12集）を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である。 個人の復習として活用してほしい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 岡庭豊 病気がみえる 脳神経 第1版 メディックメディア 熊谷たまき他監修 フィジカルアセスメントがみえる 第1版 メディックメディア ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 						

授業概要

科目名	形態機能学Ⅳ 「子孫を残す」	担当者	實石 江里子	開講時期	1年次 後期	単位時間	6/30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	人間は有性生殖で男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在の意味もあり極めてプライベートな営みである。この講義では子孫を残すために備わった男女の性の違いを知り、性に関わる器官と構造を学習する。また、女性が妊娠し出産するまでの胎児が育つ過程についても学習していく。各器官が障害されたとき日常生活にどのような影響があるのかを知り、病態生理治療論Ⅳ(女性生殖器)の学習につなげていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性の子孫を残すための器官と構造と機能を理解する。 2. 女性の子孫を残すための器官と構造と機能を理解する。 3. 妊娠の成立から胎児の成長過程について理解する。 4. 女性の器官の障害が日常生活に及ぼす影響について理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 男女の性別の違い 遺伝子による違い ホルモンによる違い 男性のからだ 構造(精巣・精管・精嚢・前立腺・陰茎) 機能(精子をつくる・精子を送る ホルモン)			講義			
	第2回 女性のからだ(1) 構造: 卵巣・卵管・子宮・陰・外陰部 機能: 卵子をつくる・ホルモンを分泌する・性周期 男性・女性の構造と機能の障害について			小テスト 事前学習課題を活用 講義とシンクペアシェアを適宜取り入れる			
	第3回 女性のからだ(2) 妊娠の成立/関連するホルモンについて 胎児の成長について(胎児期の生殖器の発生につい			小テスト 事前学習課題を活用 講義・シンクペアシェアを適宜取り入れる			
成績評価	・方法 筆記試験(20%) 第2回・第3回目の小テストは成績に含まれない ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 毎回の授業の前に事前課題があります。 ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体を知ることが自分の生き方を考えるうえで大切です。関心をもって学んでいきましょう ・自分で図を書き学んでいきます。毎回の講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【9】女性生殖器 医学書院 菱沼典子著 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会						

授 業 概 要

科目名	形態機能学V (身体機能の防御)	担当者	柳原 泰子	開講時期	1年次 後期	単位時間	8/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	私たちの全身は皮膚と粘膜で覆われ、外部環境から守られている。また、生体内外の環境の変化に応じて自律神経と内分泌系がさまざまな臓器の機能状態を変化させ、内部環境を調節している。これらの構造・機能のおかげで、私たちは意識せずとも安全に日常生活活動を行なうことができている。本科目では、皮膚・粘膜の構造と役割(機能)、全身の内分泌系の構造と役割(機能)を学ぶことを通し、人間の生命活動の一部分を理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する 2. 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する 3. 皮膚・粘膜の機能とそのしくみを理解する 4. 人にとっての全身内分泌系の重要性を理解する 5. 全身内分泌系の解剖学的構造を理解する 6. 全身内分泌系の機能とそのしくみを理解する 						
授業項目	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 外界からの刺激から体を守る 「皮膚」・「粘膜」の構造						講義
	第2回 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとそのしくみ						講義
	第3回 生体内外の環境変化に応じ内部環境を調節し 体を守る「内分泌系」の構造						講義
	第4回 「内分泌系」のもつ働きとそのしくみ						講義
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(形態機能学Vのうち30点分の配点) ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点 講義終了後は毎回、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井達雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ 「体を守るしくみ・血液」	石間香里	開講時期	1年次 後期	時間 単 位	4/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学修内容	「体を守るしくみ」では人間が日常生活活動を安全に行うための防御機構について学習する。全身を覆う皮膚や粘膜、異物を認識・記憶して排除する免疫の仕組み、ホルモン調節機能とともに全身を流れる血液の組成や機能について学ぶ。全身的な防御機構の中の血液の役割について、メカニズムを理解し基礎知識をつける。さらには感染兆候に応じたアセスメントにつなげていく。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体における血液の重要性を理解する 2. 血液の構造を理解する 3. 血液の機能とそのしくみを理解する 4. 血液と生体防御機能のつながりを知る 					
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）		
	第1回 血液の組成と機能～赤血球・白血球の働き～ 第2回 血小板と血液凝固機能・血液型について				講義に加え、事前学習課題に基づきグループ学習、シンクシェアペア、小テストを実施	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（20点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 					
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 各回で事前課題を出します。グループ学習に参加できるように実施し臨んでください。 ・留意点 講義終了後は講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。 					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理を面白く学ぶ サイオ出版 ・必要物品 					
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能1 解剖生理学 メディカ出版					

授業概要

科目名	形態機能学Ⅴ (免疫・ホルモンのしくみ)	担当者	増田 瑞枝	開講時期	1年次後期	単位時間	13/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を探求する力		看護を実践する力			
学修内容	人間が健康な体を保つための体内の防御機構について学習する。異物を認識・記憶して排除する免疫のしくみ、ホルモン調節機能等の段階的な機構のメカニズムを理解する。感染防御機能は日常生活の中での微生物の働きと感染予防の重要性などにつながる学習である。人間の体で免疫機能低下が原因でおこるさまざまな感染徴候を形態機能学の既習知識をもとに理解を深め、感染予防の重要性を看護者としての視点の広がりへと繋げていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異物を認識・排除するための免疫の仕組みについて理解する。 2. ホルモン調節機能のメカニズムを理解する。 3. 感染予防の重要性と、感染防御機構について理解する。 						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
授業計画	第1回 免疫とは 第2回 ホルモンとは 第3回 ホルモン調節機能のメカニズム 第4回 感染とは 第5回 感染予防と免疫力の効果を高めるメカニズム① 第6回 感染予防と免疫力の効果を高めるメカニズム② 第7回 学科試験	講義 講義 小テスト 講義 小テスト 講義 小テスト 講義・グループワーク グループ内発表					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(50点分) 授業への取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業で説明します。個人ワークをもとにグループワークを進めていきます。しっかり準備をしておいでください。 ・留意点 皮膚・血液についての既習知識を活用して学習を進めていきます。自分の身体の中をイメージしながら、関心をもって学んでいきましょう。 毎回の講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み、理解を深めていきましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 						
参考文献	菱沼典子著:看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 清村紀子編:フィジカルアセスメントの根拠がわかる機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院						

授 業 概 要

科目名	生 化 学	担当者	谷 重 喜	開講時期	1年前期	単位時間	30時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学修内容	<p>生き物は物質でできていることを理解する。生理学で学ぶからだの様々な現象はからだにある物質が動き化学変化することで成り立っている。栄養素を摂取してからだをつくり、エネルギーとする。不要なものを排出し、からだの恒常性を保つ。これら全てに生体物質が関わっている。からだの物質を学び、覚え、流れを理解することで、健康と病気の原因を物質の視点で考える。</p>						
到達目標	<p>1 人体を構成している化学物質とその代謝を理解し、人体の生理機能のメカニズムを科学的に判断する能力を養う。</p> <p>2 生体が正常な営みをするのに必要な栄養について理解し、人が経験する各種の疾患に対し、それに対応する効果的な療法ができるように基礎的知識を理解できるようになる。</p>						
授業計画	授業テーマ		方法（形成評価等を含む）				
	第1回：講義	生き物とは何か	予習課題 自習課題 ミニテスト 補習課題 夏期課題				
	第2回：講義	生体物質(1)					
	第3回：講義	生体物質(2)					
	第4回：講義	栄養素の消化・吸収					
	第5回：講義	エネルギー代謝(1)					
	第6回：講義	エネルギー代謝(2)					
	第7回：講義	生体物質と機能(1)					
	第8回：講義	生体物質と機能(2)					
	第9回：講義	生体物質と機能(3)					
	第10回：講義	ライフステージと代謝					
	第11回：講義	疾病と代謝(1)					
	第12回：講義	疾病と代謝(2)					
	第13回：講義	食生活と代謝(1)					
	第14回：講義	食生活と代謝(2)					
	第15回：講義	試験					
成績評価	・方法 筆記試験及び課題。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 高校生物、高校化学の中から、生化学に必要な箇所を自習する。 ・留意点 必要に応じて資料を配布します。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院 ・必要物品 まとめて用のノート(各自の予習、復習)						
参考文献	からだのしくみー生理学・分子生物学 [2] 霜田幸雄 他 日本看護協会出版会 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別 編 本田佳子 他 羊土社						

授 業 概 要

科目名	栄養の基礎	担当者	杉本 富士子	開講時期	1年後期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護は、対象となる方々の健康の回復・維持を支援し、QOLを高める一助となる。日々の食事(食生活)は、その人のQOLを大きく左右するものであり、支援に際しては本人及び家族の「日常」に対する配慮とともに、食と栄養に関する基本的な知識が求められる。本講では栄養の基礎についての学習に加えて、人々の生活にとって日々の食事がどのような意味を持つのかについても考察を深めていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の回復、維持・増進に関わる栄養学の基礎的な内容を理解する。 ・日ごろ多く見受けられる食生活上の問題点を考察するとともに、人生の各期における食事の留意点を理解する。 ・支援の際に求められる「対象者の食環境・食事摂取状況の把握」「改善方法の検討」のためのスキルを習得する。 						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	(1)健康づくりと食生活 第1回 日常生活における食事の役割 第2回 栄養状態の評価 (2)栄養に関する基礎知識 第3回 栄養素の種類とはたらきⅠ 第4回 栄養素の種類とはたらきⅡ、食事状況の把握演習 第5回 日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド (3)人生各期における健康生活と栄養 第6回 乳児期、幼児期 第7回 学童期、青年期、妊娠・授乳期 第8回 成人・更年期 第9回 高齢期 (4)学習のまとめ 第10回 試験	講義 講義 講義 講義及び演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験及びレポート ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 教科書等、該当部分の予習 ・留意点 疑問点については授業の際に確認すること 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学 医学書院 オールガイド食品成分表(最新版準拠) 実教出版 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	関 常司 平松 毅幸	開講時期	1年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<p>疾病の概略や用語の理解、疾病の発生機序と回復過程の理解を進め、状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化やリスクの判断に必要な知識を学習する。</p> <p>疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2. 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>【関先生】</p> <p>第1回：講義 ①病理学とは ②先天異常と遺伝子異常</p> <p>第2回：講義 ③代謝障害 ④循環障害</p> <p>【平松先生】</p> <p>第1回：講義 免疫</p> <p>第2回：講義 免疫</p> <p>第3回：講義 炎症・感染症</p> <p>第4回：講義 感染症</p> <p>第5回：講義 腫瘍</p> <p>第6回：講義 腫瘍</p>			講義形式（配布資料等）			
成績評価	<p>・方法(関) 筆記試験（配点は評価配分表を参照）</p> <p>・方法(平松) 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況、配布プリントの正答率</p> <p>・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。</p> <p>・総点数の70%は筆記試験点数。</p> <p>・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。</p> <p>配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 (関先生) ① 受講前に15分間テキストを読むこと。 ② 受講後に5分間ノートを見なおすこと。</p> <p>・留意点 (平松先生) ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 ② 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。各单元(免疫、炎症、感染症、腫瘍)が終了した時に配布プリントは回収し、採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。 ③ 配布プリントの提出が間に合わなかった学生は、提出期限の4日目迄に担任に提出すること。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院</p> <p>・必要物品 授業資料、配布したプリント</p>						
参考文献	シンプル病理学 休み時間の免疫学(第3版)		南江堂 講談社				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ	担当者	森 正次 景岡 正信	大島 昭彦 石原 行雄	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力							
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅰの学習内容と連動させ、主な消化機能障害、肝臓疾患、口腔歯科疾患の基礎知識を学ぶ。形態機能で学んだ正常な構造と機能のメカニズムの障害による疾患と症状、治療について理解しやすい纏まりとして学ぶ。								
到達目標	1) 主な消化機能障害のうち口腔機能疾患について病態生理、症状、診断、治療までの医学的知識を理解する 2) 膵臓の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 3) 肝臓、胆道系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 4) 消化器系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する								
授業計画	授業テーマ							方法（形成評価等を含む）	
	【森先生】 第1回：講義 口腔の基礎、口腔外科的疾患 第2回：講義 口腔外科疾患、口腔ケア、周術期口腔機能管理 【大島先生】 第3回：講義 膵臓の解剖と生理、炎症、腫瘍 【景岡先生】 第4～6回：講義 肝、胆道の病態生理 【石原先生】 第7・8回：講義 食道、胃、十二指腸の疾患 第9・10回：講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん							視聴覚教材など、学生がイメージしやすい教材を活用して講義する。	
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。								
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。（森） 質問をするようにして下さい。（石原） 看護の基本を考えながら受講して下さい。（景岡） 看護とどう結びつくか考えながら受講して下さい。（大島）								
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯：口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品								
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院								

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (運動器・骨・筋)(腎・泌尿器)	担当者	徳山 周 池谷 直樹	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅱと連動させ、主な排泄機能障害、運動機能障害についての基礎知識を学ぶ。尿の生成のメカニズム、腎機能が正常でなければ、全身の水分、電解質、浸透圧、循環血液量、血圧などその影響は複雑多様である。異常のメカニズムと症状、検査結果と治療を関連付けて学ぶことが大切である。運動器の障害は生活行動に直結する場合が多い、骨や筋肉などの異常による症状と合併症などの影響、リスクなどを考慮し、理学療法必要性などにも繋がるよう科目設定した。						
到達目標	以下の事項について基礎知識を学び、理解する。 主な排泄機能(腎臓、尿管、膀胱など)の障害、腎機能の障害による水分、循環血液量の影響、電解質等の異常による症状と治療 運動機能(骨、筋、関節など)障害、骨折・筋や関節の炎症の病態生理・症状・診断・治療						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	<p>【池谷先生】</p> <p>第1回:講義 腎・泌尿器系の解剖・生理</p> <p>第2回:講義 症状と検査</p> <p>第3回:講義 CKD 慢性腎臓病</p> <p>第4回:講義 AKI 急性腎障害</p> <p>第5回:講義 泌尿器科的疾患</p> <p>第6回:講義 腎代替療法</p> <p>【徳山先生】</p> <p>第7回:講義 筋骨格系の基本を理解する</p> <p>第8回:講義 神経の構造と機能を理解する</p> <p>第9回:講義 骨折総論+運動器における専門用語を理解し、使えるようになる</p> <p>病態の理解とその対応を学ぶ</p> <p>第10回:講義 骨折各論、総まとめ</p>			講義形式(配布資料、視聴覚教材等)			
成績評価	<p>・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 質問等、積極的に授業に参加してほしいです。(徳山)</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ	担当者	田村 亨治 江間 俊哉 渡邊 明規	開講時期	1年次前期・後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅲと連動させ、主な呼吸機能(気管、気管支、肺、肺胞など)障害、呼吸のメカニズムを理解し、生体の換気に関するメカニズムから、障害の原因と治療、低酸素状態の症状と酸素療法について学ぶ、また、酸素化のメカニズムでは、循環(心臓の機能、血管や血圧などの)の機能障害について心不全の発生のメカニズムと治療について呼吸と循環の関係を学ぶ。						
到達目標	主な呼吸器機能障害、循環器機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	<p>【田村先生】</p> <p>第1回:講義 感染症(インフルエンザ、COVID-19、肺炎、結核)</p> <p>第2回:講義 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患</p> <p>第3回:講義 間質性肺疾患</p> <p>【江間先生】</p> <p>第4回:講義 肺の解剖、呼吸生理、肺癌の病態、肺癌の外科治療、内視鏡手術の実際</p> <p>第5回:講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍</p> <p>【渡邊先生】</p> <p>第6～10回:講義</p> <p style="padding-left: 20px;">循環器系の解剖・生理疾患について</p> <p style="padding-left: 20px;">①総論から心不全、症候について</p> <p style="padding-left: 20px;">②各論</p> <p style="padding-left: 20px;">心肺蘇生について</p>			<p>教科書の内容に、各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えてなるべく新しい知見を紹介する。</p> <p>講義形式(配布資料等)</p> <p>講義形式(配布資料等)</p> <p>①主にPowerPointでのスライド</p> <p>②心肺蘇生については動画ビデオ</p>			
成績評価	<p>・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 受講生への要望: しっかり復習してください。(田村)</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (耳鼻咽喉・女性生殖器・自律神経・眼・脳神経系・乳房)	担当者	吉見 亘弘・黒田 健治・酒井 直樹 松永 寛美・竹原 誠也・平松 毅幸	開講時期	1年次後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	耳鼻咽喉領域、女性生殖器領域、神経領域、眼領域、脳神経領域、乳房領域の、検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。						
到達目標	健康な身体が病的状態となる過程と医学的なアプローチの方法を、臨床でよく見られる疾患(主な耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、神経機能疾患、眼疾患、脳機能疾患、乳房疾患)の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を、系統的に学び理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	<p>【吉見先生】</p> <p>第1回: 講義 総論・鼻疾患</p> <p>第2回: 講義 咽喉頭、頸部疾患</p> <p>【黒田先生】</p> <p>第3回: 講義 症状とその病態生理及び婦人科検査</p> <p>第4回: 講義 女性ホルモン周期とその関連疾患</p> <p>第5回: 講義 婦人科良性疾患</p> <p>【酒井先生】</p> <p>第6回: 神経系の機能と局在 神経変性疾患Ⅰ</p> <p>第7回: 神経変性疾患Ⅱ</p> <p>第8回: 自己免疫性神経疾患、神経系の感染症</p> <p>【松永先生】</p> <p>第9・10回: 講義 眼科疾患と治療について</p> <p>【竹原先生】</p> <p>第1回: 神経系の解剖と生理</p> <p>第2回: 頭部外傷、脳血管障害他</p> <p>第3回: 脳腫瘍他</p> <p>【平松先生】 詳細は別紙を参照</p>			<p>講義形式</p> <p>講義形式</p> <p>スライド(パワーポイント)、板書を使った講義形式</p> <p>講義形式</p> <p>重要項目は繰り返して理解を深め、国家試験レベルの内容も加え、求められるべき看護師を目指す。</p>			
成績評価	<p>・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 図や写真を多く用いるので、目で見て授業を理解しましょう。(吉見) おおまかな神経系のしくみや、代表的神経疾患のイメージが出来ればよいと思います。 教科書で復習してください。(酒井) 自主的に予習・復習することを望みます。(松永) 平松先生の留意点は別紙を参照</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 イラスト眼科 渡邊郁緒 著 文光堂 眼科学 丸尾敏夫ほか 著 文光堂</p>						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (乳房)	担当者	平松 毅幸	開講時期	1年後期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<p>乳房領域の検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について理解する。</p> <p>乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について講師が説明する。</p>						
到達目標	<p>健康な身体が病的状態となる過程と医学的なアプローチの方法を、臨床でよく見られる疾患(主な耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、神経機能疾患、眼疾患、脳機能疾患、乳房疾患)の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を、系統的に学び理解する。この内、この単元では、乳腺の疾患(特に、乳癌)の発生機序、疫学、治療法を理解し、患者におよその説明が出来るようになる。</p> <p>1. 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2. 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回:講義 乳腺の解剖・生理と乳腺の良性疾患						講義形式(配布資料等)
	第2回:講義 乳がんの診断と治療法						
成績評価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	<p>① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。</p> <p>② 乳癌の治療法に関しては、全ての固形癌に当てはまるため、全身療法と局所療法に分けて、各々の意義をしっかりと理解してください。</p> <p>③ 病理学の「腫瘍・免疫」等で学んだことを思い出して、今回得た知識を、それに連結するように頭の中で整理してください。</p> <p>④ 乳癌患者のつらさを共感して、適切なケアが出来るようになるには、どうすべきか考えて、講義を受けてください。</p>					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器					医学書院
	・必要物品						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p>						

授業概要

科目名	病態生理治療論V	担当者	金本 素子 坂本 益雄	前田 明則 矢田貝 剛	開講時期	1年次後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力					
学修内容	看護師を目指す学生にとって必要な免疫の基礎と膠原病、リウマチ疾患・内分泌の基礎知識、糖尿病を中心とした代謝・内分泌疾患、血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について、形態機能Vと運動させ、看護において基礎知識を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫の基礎と膠原病・リウマチ疾患の基礎知識を理解する。 ・代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの基礎知識を理解する。 ・血液の基礎知識・血液造血器疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。 ・皮膚の基礎知識・皮膚の疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。 							
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
	<p>【金本先生】 第1～3回：講義 前半：免疫学総論 後半：免疫学各論(疾患について)</p> <p>【前田先生】 第4回：講義 血液概論 第5回：講義 赤血球の異常 第6回：講義 白血球の異常、造血器腫瘍① 第7回：講義 造血器腫瘍② 第8回：講義 造血器腫瘍③、出血性疾患</p> <p>【坂本先生】 第9回：講義 代謝・内分泌の基礎知識 第10回：講義 下垂体・甲状腺疾患 第11回：講義 副甲状腺・副腎疾患 第12回：講義 糖尿病の基礎知識 第13回：講義 糖尿病・症例検討</p> <p>【矢田貝先生】 第14回：講義 皮膚のしくみ、発疹学について 第15回：講義 皮膚疾患について</p>				講義形式(配布資料、視聴覚教材等)			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 							
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 この授業を通して、リウマチ疾患に対しておおまかなイメージと興味が持てるようになることを望みます。(金本) 講義はスライドを中心に行います。あらかじめテキストを読んでから受講して頂くと、さらに理解しやすいと思います。(前田) White Boardを使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。(坂本) わからないところは質問して下さい。(矢田貝) 							
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 ・必要物品 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 							

授 業 概 要

科目名	微生物学	担当者	内藤 博敬	開講時期	1年後期	単位時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<p>微生物(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫)の分類、微細構造・形態学的特徴、生物学的特徴、生化学的性状、増殖、感染について解説する。様々な病原微生物が、どのような感染症を引き起こすのかについて概説する。さらに、感染防御、感染防御免疫について解説する。</p> <p>感染症の原因となる病原微生物を意識しながら、基礎となる『微生物学』を学習する。各種微生物の基礎を把握し、他の関連する講義や実習の礎とするとともに、実際の看護現場における感染症の予防及び治療などの感染症対策に関して興味を持つことで、責任ある役割を担う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類毎の特徴について説明できる。 2. 感染防御機構について説明できる。 3. 各々の微生物の感染メカニズムを理解し、検査、治療や予防法について意義を説明できる。 4. 日本の感染症対策およびその問題点について認識し、以降の科目へ繋げることができる。 						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学概論 2. 微生物と微生物学 3. 細菌1(構造と分類) 4. 細菌2(培養環境と栄養、常在細菌叢) 5. ウイルス 6. 真菌、原虫および寄生虫 7. 感染と感染症 8. 感染経路 9. 生体防御機構1(自然免疫) 10. 生体防御機構2(獲得免疫) 11. 細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム 12. 感染予防/消毒・滅菌 13. 感染症の検査と治療 14. 感染症の現状と対策 15. まとめ、期末試験 <p>注)上記講義項目は、内容によって時間配分が異なります。また、感染症の流行などによって、講義内容を一部変更する場合があります。</p>	<p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p> <p style="text-align: right;">座学(講義)</p>					
成績評価	<p>・方法 期末試験およびレポート、ミニテストの総合評価とする。 なお、遅刻・欠席は授業態度の減点要素とする。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 「看護師を目指す者が、なぜ微生物学を学ぶのか？」自問しておく(初回の講義で質問する)。</p> <p>・留意点 講義中に写真や動画を使いますが、中には刺激の強い内容もあります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物医学書院</p> <p>・必要物品 テキスト、筆記用具、各回に配布するプリント</p>						
参考文献	<p>からだをまもる免疫のふしぎ: 日本免疫学会; 羊土社 はじめの一步のイラスト感染症・微生物学; 羊土社 わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫; 藤本秀士編著 南山堂</p>						

授 業 概 要

科目名	薬理学の基礎	担当者	木村 俊秀	開講時期	1年後期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	薬理学は、人体における薬物の効果に関する科学的研究を行う学問である。総論では、薬の作用や体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、各疾患の治療に用いられる医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。						
到達目標	患者に投与する薬に関する十分な知識と服用の効果をもとに、本授業では、薬と生体の両面にわたる、分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルの基礎的な知識をもとに、薬と受容体の反応様式および薬の作用機序についての知識を身につけ、薬がどのようにして疾患に効くのかを理解することを目標とする。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回	総論（薬理学を学ぶにあたって、薬力学）			講義と演習		
第2-3回	各論（抗炎症薬）						
第4-5回	各論（呼吸器作用薬）						
第6-7回	各論（代謝性疾患治療薬）						
第8-9回	各論（その他）						
第10回	試験			試験			
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 授業では、暗記ではなく理解が必要な薬の作用メカニズムを中心に解説する。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3]薬理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	疾病予防	担当者	杉淵美里 大石祐子	開講時期	1年次 後期	単位時間	15時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	看護を実践する力	看護を探求する力				
学修内容	人々が暮らす地域や文化など、それぞれの生活の中で健康を守るために、疾病の1次予防における看護師の役割は大きい。日常生活の中でできる健康維持や疾病予防などの知識は、看護職が地域の方々に提供できる看護の一部である。そのために必要な知識や技術としてライフステージ各期の特徴的な健康問題とその要因・予防法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活する人々の、疾病予防の必要性を理解する。 2. ライフステージ各期における特徴的な健康問題と、その要因・予防方法を探求する。 						
授業計画	授業テーマ		方法（形成評価等を含む）				
	第1回：授業ガイダンス（杉淵） 日常生活における疾病の一次予防とは。 この科目におけるプロジェクト学習の進め方		講義 冬期休暇中の課題提示				
	第2回：グループのビジョン・ゴール設定（杉淵） グループワークの計画・立案		各自の取り組みたいテーマをベースにグルーピングする。				
	第3回：グループごとの計画実施（杉淵）		グループワーク				
	第4回：中間発表（大石） 「私たちがとらえた健康問題とその要因」		とらえた健康問題を、生活の中で予防する必要性が伝わるように報告する。 メンバーによるGW参加度評価				
	第5回：個人のビジョン・ゴール設定（大石）		講義				
	第6・7・8回（5時間）：凝縮ポートフォリオの発表（大石）		凝縮PFの評価（教員・他者） グッジョブカードの記載				
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事前ポートフォリオの提出・内容（10点） ・中間発表後の学び（振り返り）（5点） ・GWの参加状況（メンバーによる他者評価）15点 ・凝縮ポートフォリオとその発表（教員20点、他者10点） ・課題レポート「疾病を予防するために看護で大事なことは何か」（40点） 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の取り組みたいテーマ決めは、どのようなライフステージの人がどのような健康問題を起こしやすいか関心を持ち、情報収集するところから始まります。「地域・在宅看護論Ⅰ」のフィールドワーク・新聞等を活用していきましょう。 ・グループワークの際は、各領域の担当教員へ自分たちからアプローチし、アドバイスを受けてもよいでしょう。 ・看護者としての責任をもち、正しい根拠あるデータ・情報を検索し、活用していきましょう。 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床総論, 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論, 医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論, 医学書院 系統看護学講座 精神看護の基礎・精神看護の展開, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論, 医学書院 ・その他 図書室などで文献を探すこと。 						
物必需品	・クリアポケットファイル（A4サイズ、20枚程度）：ポートフォリオを作成する。						

授 業 概 要

科目名	公衆衛生学	担当者	杉山眞澄	開講時期	2年前期	単位時間	30時間 /1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・探求する力・責任と役割を果たす力						
学修内容	人々の暮らしや健康を支えている公衆衛生について、その歴史や視点を学修する。さらに、さまざまな公衆衛生の活動とそれを支える分析手法や援助の方法について学び、看護職としての役割を考える。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の活動対象を理解する。 2 公衆衛生とは何か、その対象を理解する。 3 公衆衛生行政の仕組みと活動内容を理解する。 4 公衆衛生活動の基盤となる疫学・保健統計を理解する。 5 公衆衛生看護活動の実際を理解する。 							
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）				
	第1回	公衆衛生と健康の概念			講義			
	第2回	公衆衛生の歴史			講義・グループワーク			
	第3回	環境と健康（水、大気、土壌、温暖化等）			講義			
	第4回	環境と健康（住居と健康）			講義/ミニレポート			
	第5回	食品の安全と健康			講義			
	第6回	疫学とは			講義			
	第7回	公衆衛生看護と保健師			講義/ミニレポート			
	第8回	公衆衛生看護（母子保健活動）			講義			
	第9回	公衆衛生看護（高齢者保健活動）			講義・グループワーク			
	第10回	公衆衛生看護（成人保健活動）			講義			
	第11回	公衆衛生看護（障害者・難病対策と保健活動）			講義・グループワーク			
	第12回	公衆衛生看護（健康危機管理・感染症の保健活動）			講義			
	第13回	公衆衛生看護（健康危機管理・災害対策と保健活動）			講義/ミニレポート			
	第14回	国際保健活動			講義			
	第15回	試験と問題の解説						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法（ミニレポート60点・試験40点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 							
事前課題、留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 未定 ・留意点 公衆衛生は生活を診る視点が重要。生活の視点をとらえるため、3回程度のミニレポートを課題として出す。 							
テキスト、必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生, 医学書院 ・必要物品 未定 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 国民衛生の動向（最新刊）厚生労働統計協会 公衆衛生がみえる（最新刊）メディックメディア 							

授 業 概 要

科目名	保健統計学	担当者	東野 定律	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・探求する力・責任と役割を果たす力					
学修内容	看護研究を進めていく上で、科学的研究論文を読み解くには統計手法の理解が必須である。そこで本授業では、よく用いられる統計手法の考え方や理論について概説する。またコンピュータの統計ソフトを使用しながらグラフや表作成の基本についても理解させるところから、科学的研究方法の基礎を培う。						
到達目標	地域社会の人々の健康や疾病の状態や変化を広い視野で観察したり、看護研究のための統計学の基本的な知識を理解する。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
授業計画	第1回：看護研究と統計学	講義 実技試験					
	第2回：基本統計量と統計的研究の予備知識						
	第3回：棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフの描き方						
	第4回：散布図・相関係数						
	第5回：回帰直線と近似曲線						
	第6回：正規分布						
	第7回：統計的推定						
	第8回：統計的検定						
	第9回：一元配置分散分析と多重比較						
	第10回：試験(実技試験)						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 実技試験と出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の授業において、演習形式の課題提出を求めます。授業の積極的な参加を望みます。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 「Excelで学ぶ医療・看護のための統計入門」 岩村友二郎他 東京図書 ・必要物品 テキストは必ず毎回持参してください。 						
参考文献	「看護研究のための統計学入門」 中野 正孝 著 JINブックス						

授 業 概 要

科目名	暮らしを守る法と制度	担当者	板倉美奈子	開講時期	2年前期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力					
学修内容	<p>看護師をめざす学生にとって、「人間の尊厳」・「人権」などの普遍的な価値を尊重し、人びとの「いのち」や「生活」を守るために、自分が何をすべきか、何ができるのかを考えられるようになることは重要である。また、医療従事者は、人びとの暮らしや人の生命・生死にかかわる問題を人権という視点から捉え、行動することが求められる。</p> <p>この授業では、人間の尊厳・人権を尊重し、人々の生命や生活を守るためにあるさまざまな法律を学ぶことにより、医療・看護の対象者の権利・自由を重んじ、人間らしい豊かなくらしの実現に資することができるようなマインドを身につけられるようにすることを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法について学び、人権という視点を持つことができるようになる。 ・人びとの生命・生活や財産など日々の暮らしを守るという法の役割について理解する。 ・「医療」「看護」「福祉」に関わる法的諸問題について知る。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	1) 法とは何か 2) 人権とは何か 3) 医療・看護と人権 4) 医療・看護と人間の尊厳 5) 福祉と人権 6) 医療従事者の権利と義務 7) 医療従事者の法的責任 8) 試験(45分)						未定
成績評価	筆記試験 100% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 なし ・留意点 毎回レジュメを配布する。予習は求めないが、授業終了後なるべく早めにおさらいをすることを奨める。						
テキスト・必要物品	・テキスト 特になし ・必要物品 特になし						
参考文献	野崎和義・柳井圭子『看護のための法学<第5版>』（ミネルヴァ書房、2021年） 森田慎二郎・野畑健太郎編『看護師をめざす人のための関係法規』（法律文化社、2013年）						

授業概要

科目名	関係法規	担当者	国京 則幸 江原克之	開講時期	2年後期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力			責任と役割を果たす力				
学修内容	<p>人々の生活において生命や健康を守るために医療・福祉・教育に関連してどのような法や制度があるのかを学び、その目的や機能を理解する。また、看護業務に関係する法律を学ぶ。医療現場の中で実際に起こった事故や事件などを検証しながら看護師が遭遇するアクシデントを身近に感じながら安全や事故防止について考える機会とする。更には、看護師を志す者としての責任を理解し、看護に携わる者としての自覚と行動責任の意識を高める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の命を守る法律と人権擁護を理解する ・人々の生活と暮らしに関連する法を理解する。 ・労働者の暮らしや失業、雇用の安定に関する法を理解する。 ・看護師に関連する人材確保関連法について理解する。 ・医療を提供する場に関連する法を理解する。 ・医療事故を防止するための対策を理解する。 						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	1) 医療を取り巻く事件事故と患者を守る法規「医療事故とは」	}	国京			講義	
	2) 看護業務に関する法制度 保健師・助産師・看護師法					講義	
	3) 看護業務における法的権限と責務、業務上過失を考える					講義	
	4) 医療事故の実際と事故防止対策を考える					講義	
	5) 健康増進、公衆衛生、保健活動を支える関係法規	}	江原			講義	
	6) 医療・福祉・教育を支える関係法規					講義	
	7) 看護の対象者である医療や福祉を必要とする人々のための法と施策					講義	
	8) 試験(45分)		国京			筆記試験	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(国京60%、江原40%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 未定 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 国民衛生の動向 厚生統計協会 						

專門分野

授 業 概 要

科目名	看護学概論Ⅰ	担当者	亀澤ますみ	開講時期	1年 前期	単位時間	25時間 /1単位					
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力										
学修内容	看護とは何だろう。これは私たちにとって答えのない永遠の間かもしれません。定義や理論家たちの考えを学ぶことはできますが、看護の実践家にとっては学ぶことが目的ではありません。知識だけでなく、自分自身の感性で捉え、考え、自分たちで共有し合い、自己や他者、「人間」について理解を深め、自身の価値観の中に染み込ませていきます。それが思考や言動となって看護を行う土台になります。これまでの看護のあゆみと看護を取り巻くことについて学び、考え、看護学生としての自己を探求する。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を見つめ、自己を見つめ学ぶ。「他者理解とは何か、自己理解とは何か」考える。 ・看護の歴史と変遷を学び、看護師に求められる姿勢を理解する。 ・看護師の専門職としての役割と責務を理解する。 ・看護の対象者である「人間」と主要概念について、他者と共に考え理解を深める。 ・「看護覚え書」や看護理論を基に、看護の原点と看護の思考に触れる。 											
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）								
	1)看護学概論ガイダンス「看護師の世界へ！」	2)他己紹介「他者とともにも……、他者と自己」	3)看護の歴史と変遷（理論家とクリティカルシンキング）	4)ケアリングについて抄読会「患者さんの立場になって考えよう」	5)ケアリングについて ケアする者に必要な力	6)看護の定義「看護に求められる役割と機能、看護の質の保証について」	7)看護の対象理解「人間にとって健康とは……」	8)健康とは「健康の定義を作ってみよう」	9)看護の対象理解「人間にとって環境とは……」	10)看護の対象理解「人々にとって暮らしとは……」	11)看護の対象理解「人間とは……」	12)人間と看護「人間の定義と看護について考えてみよう」
成績評価	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">初回から継続して「看護覚え書」を読み、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 レポート①・②・③+プロジェクト学習の他者評価+ピア評価+筆記試験の総合計で評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 											
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 抄読会の資料は事前提示します。課題を踏まえて熟読しておくこと。 「暮らし」に関する資料をスクラップしておくこと。 「人間について」はプロジェクト学習のため、事前からのポートフォリオ作成が必須です。開講後説明する。 ・留意 											
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯横ます他訳「看護覚え書」現代社 鈴木敏江著「プロジェクト学習の基本と手法」教育出版 参考図書 東京医科大学看護専門学校編著「よくわかる看護者の倫理綱領」照林社 ・必要物品 											
参考文献												

授 業 概 要

科目名	看護学概論Ⅱ	担当者	亀澤ますみ	開講時期	1年後期	単位時間	時間 25 / 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護は、どうあるべきか理想的な目標に向かって考えることはとても楽しいことです。しかし、常に実践はリアルな現実の中での思考・判断・行動が必要です。変化する社会の中で、今求められている看護とはどのようなものか考え、その考え方と方法を学ぶ。また、様々な場において求められる専門職としての役割意識と倫理観について、多職種と連携・協働する現場(臨地)に触れながら、その意識をさらに深め明らかにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の成り立ちと人々の暮らしについて考え、看護に求められる役割を考える。 ・看護の提供の仕組みと多職種との連携について考え、協働の意識を学ぶ。 ・看護倫理を学び、看護師としての姿勢を理解する。 ・看護の専門性を学び、将来の自己像を考える。 ・医療安全の意識を学び、自己の行動意識を再確認する。 ・看護実践に必要な力について、意見交換し自己の看護観を明確にする。 						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	1)看護の対象「社会・人々の暮らし・対象者と家族」について考える						1)レポート提出①
	2)看護の場と継続、連携						
	3)看護の提供のしくみ						2・3・4)レポート提出②
	4)看護提供のしくみについて考える 「連携と協働のためには・・・」						
	5)看護倫理について考える 「看護師の権限と責務」						5・6)看護の倫理綱領を使用 レポート提出③
	6)看護倫理について、 症例から学ぶ「状況判断と優先順位」						
	7)看護の提供者としての専門性(看護師の思考、クリティカルシンキング)						7・8)レポート提出④
	8)看護の提供者 専門職としてのキャリアアップ(国際看護・災害看護を含む)						
	9)看護の安全と事故防止①(権利保護、プライバシー保護を含む)						9・10)看護の倫理綱領を使用
	10)看護の安全と事故防止②・・1時間のみ						
	11)看護実践に必要な力とは何か ラベルワーク						11・12・13)ラベルワーク
	12)看護実践に必要な力とは何か ラベルワーク						他者評価・ピア評価
	13)看護実践に必要な力とは何か 発表						レポート提出⑤
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 レポート①・②・③・④・⑤+ラベルワーク評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 「暮らし」に関するスクラップ、地域・在宅看護のフィールドワークの学びを整理しておくこと。 ・留意点 						
テキスト・参考図書・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯根ます他訳「看護覚え書」現代社 ・参考図書 東京医科大学看護専門学校編著「よくわかる看護者の倫理綱領」照林社 ・必要物品 						
参考文献	未定						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 環境の調整	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この単元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境であることの意義と方法について理解する。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 <p>卒業時の技術到達レベル： 1.環境整備、2.臥床患者のリネン交換、6.5.安全な療養環境の整備は単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回： 人間にとっての環境の意義と療養環境 第2回： ベッド周りの環境を考える(環境整備) *演習はシミュレーションの手法を用いて、学生自身でベッド周囲の環境を考える 第3回： ベッドメイキング 第4・5回： 臥床患者のリネン交換 第6回： 安全な療養環境の整備			講義 講義・演習 校内演習(A/Bグループに分かれる) 校内演習(A/Bグループに分かれる) 校内演習(ABグループ合同) シミュレーションの手法を用いて、学生自身でベッド周囲の環境を考え、患者の安全を意識した療養環境を実施する			
成績評価	・方法 筆記試験 取り組み姿勢(出席・課題の成果) ※環境の調整の配点は30点、「活動・休息」・「栄養」と合わせて100点満点となります。						
事前課題・留意点	・事前課題 校内実習前に、実施する看護技術についての課題があります。 校内実習前は必ず実施する技術の動画を確認しましょう。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください 校内実習は、事前課題を活用して実施します。 校内実習後には、主体的に練習をしましょう。 ※ベッドメイキングは後日チェックリストで技術習得を確認します						
テキスト・必要物品	・テキスト ・任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術、メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 活動と休息	担当者	片山 聖治	開講時期	1年次前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。本単元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 <p style="text-align: center;">卒業時の技術到達レベル：13.車いすでの移送, 15.移乗介助, 体位変換・保持, 16.体位変換・保持, 69.安楽な体位の調整は単独でできる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：活動休息の意義と基礎知識 第2回：安楽な体位の調整（ボディメカニクス・不動状態） 第3回：安楽な体位の調整（体位変換・ポジショニング） 第4回：移乗と移動、移送の基礎知識 第5回：移乗と移動、移送の援助（車椅子・ストレッチャー） 第6回：睡眠障害とその援助 試験			講義 講義・シンクシェアペア 校内演習(A/Bに分かれる) 講義・シンクシェアペア 校内演習(A/Bに分かれる) 講義・試験			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験：40点、「環境の調整」「食事の援助」と合わせて100点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 講義時に話し合いをします。テーマに基づき自己学習をして臨んでください。 毎回の校内実習前に、実施する看護技術に関して事前課題があります。 ・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。 形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。 ※車椅子移乗介助は後日チェックリストで技術習得を確認します。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術, メディックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器, 医学書院。 ・必要物品 校内実習毎お知らせします。 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版, 学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術, 医学書院。 						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 基本的な食事援助	担当者	後藤治美	開講時期	1年次前期	単位時間	6/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学修内容	看護の機能として、日常生活の支援は患者の生理的ニーズやQOLの観点からも重要である。そのため物理学、形態機能学Ⅰと病態生理治療論Ⅰ・Ⅱと運動、関連させながら、日常生活援助技術について基礎的な知識と援助方法について学ぶ。この単元では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1)人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2)食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3)対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4)栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 <p>卒業時の技術到達レベル:3.食事介助(嚥下障害を除く)単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>第1回:事例をもとに栄養状態、食行動のアセスメントをしてみよう</p> <p>第2回:基本的な食事援助と嚥下訓練について学ぼう</p> <p>第3回:基本的な食事の援助を体験しよう</p>			<p>事例をもとに患者さんの栄養状態、食行動についてアセスメントする。</p> <p>校内演習(A/Bグループで分かれる) 形態機能学Ⅰの知識を活用し、患者にとって安全で安楽な食事援助を実施する。事前に、援助計画を立案し、実際の食事摂取を患者役、看護師役の両方を体験する。</p>			
成績評価	<p>・方法 配点:30点 筆記試験、演習の取り組み姿勢で評価します。 「環境の調整」「活動と休息」と合わせて100点になります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。</p> <p>・留意点 形態機能学Ⅰの内容を復習して臨むこと。 食事の援助は、臨地実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 任 和子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 藤本真記子他監修:看護がみえる Vol1 ,Vol2臨床看護技術、メディックメディア。 江口正信著:検査値早わかりガイド、サイオ出版。</p> <p>・必要物品 授業前に提示する。</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 排泄(床上排泄)	担当者	大石 祐子	開講時期	1年次 前期	単位時間	8/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間は水や食物などを身体に取り込み、生命維持に必要なエネルギーを産生する一方、その過程で生成される不要な代謝産物を排出する。この過程を「排泄」という。本科目では、人間にとって生理的欲求の一つである排泄の意義とそのメカニズムを理解し、日常生活行動の一つである排泄行動を意識しながら、排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄に関し看護者が行う援助方法および看護、排泄困難な状況における援助方法および看護について学んでいく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の健康生活における排泄の生理的・心理的・社会的意義を理解する。 2. 基礎的知識として、排泄の機序および生理的機能を理解する。 3. 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 4. 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 5. 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 6. 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 卒業時の技術到達レベル: 7.排泄援助は単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回:排泄の意義と基礎知識			講義			
第2回:排泄援助の基礎知識、床上排泄の看護			講義				
第3・4回:床上排泄の援助(尿器・便器)			校内演習(A・Bグループに分かれる)				
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験30点 出席状況・授業の取り組み姿勢・課題10点 合計40点 「清潔・衣生活の援助」と合わせて100点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 形態機能学Ⅱ「尿を生成するしくみ」、形態機能学Ⅰ「消化・吸収のしくみ」を復習しておいてください。 ・留意点 演習前は課題を提示します。演習は課題を活用しながら行うので、しっかり取り組み演習に臨みましょう。提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・必要物品 演習時はユニフォーム等、事前に提示します。 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助	担当者	寶石 江里子 橋本 圭子	年次	1年次 前期	時間 単位	22/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人の清潔保持行動の重要性を理解する。 2.清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 3.清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 4.身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 5.患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 <p>卒業時の技術到達レベル：19.足浴、20.整容、21.点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換、23.陰部の保清、24.清拭、25.洗髪、26.口腔ケアは単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	人にとっての清潔を保つことの意義	(寶石)	講義			
	第2回	口腔の清潔を保つ目的と援助方法	(寶石)	講義			
	第3回	口腔ケアの実際	(寶石)	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第4回	部分浴の目的と援助方法	(橋本)	講義			
	第5回	足浴の実際	(橋本)	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第6回	部分浴(洗髪)の目的と援助	(橋本)	講義			
	第7回	洗髪の実際(整容を含む)	(橋本)	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第8回	全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法	(寶石)	講義			
	第9・10回	全身清拭(陰部を含む)・寝衣交換の実際 *寝衣交換は点滴・ドレーン等なし	(寶石)	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第11回	試験	(寶石)	筆記試験			
成績評価	<p>・方法 配点：60点(寶石40点、橋本20点)、「排泄援助技術」と併せて評価点(100点満点)と筆記試験、事前課題、授業への取り組み姿勢、提出物の提出状況、内容により評価</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 演習前は課題を提示します。演習は課題を活用しながら行うので、しっかり取り組み演習に臨みましょう。</p> <p>・留意点 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換については、臨床判断Ⅱの校内演習で実施する。 ※全身清拭(陰部清拭除く)は後日チェックリストで技術習得を確認します。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術、医学書院。 ・藤本真記子ら監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術、メディックメディア。</p> <p>・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅲ フィジカルアセスメント	担当者	片山 聖治 橋本 圭子	年次	1年次 後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護では患者を正しく診ることが大切であり、そのためにはコミュニケーションを土台にしたフィジカルアセスメントの技術が重要である。臨床判断能力の基礎として、全身状態を系統的に診ていき、そこから対象に起こっている身体状態を把握し、その把握した情報の意味(正常・異常)を判断する知識と技術を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義と必要性を理解する。 2. 身体構造、機能の正常を意識して系統別フィジカルイグザミネーションの基本技術を実施する。 3. 原理原則を踏まえてバイタルサインを正確に測定する。 <p>卒業時の技術到達レベル: 50.バイタルサイン測定(BT・P・R)、52.フィジカルアセスメント、59.使用した器具の感染防止の取扱いが単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	フィジカルアセスメント総論 基本的フィジカルイグザミネーション	(橋本)	講義			
	第2回	バイタルサインの意義と必要性 体温について	(橋本)	講義			
	第3~6回	循環器系・呼吸器系のアセスメント 脈拍・呼吸音・血圧・心音について	(橋本)	講義・実技			
	第7・8回	状態の観察とバイタルサイン測定	(橋本)	校内演習(A/B分かれる)			
	第9回	消化器系のアセスメントの実際	(橋本)	講義・実技			
	第10回	筋・骨格系のアセスメント	(片山)	講義			
	第11・12回	脳・神経系のアセスメント	(片山)	講義			
	第13・14回	筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントの実際	(片山)	校内演習(A/B分かれる)			
	第15回	試験	(橋本)				
成績評価	<p>・方法 筆記試験 ・ 取り組み姿勢 (評価の点数配分は橋本60点、片山40点になります)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 ※バイタルサイン測定は後日チェックリストで技術習得を確認します</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <p>・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>・熊谷たまき他監修:看護が見えるvo.3 フィジカルアセスメント メディックメディア</p> <p>・必要物品 血圧計・聴診器・秒針付腕時計</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 感染予防	担当者	安達 百合 小島 太	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	感染に関する基礎知識を微生物学と生物学とを結びつけながら、感染予防の知識や技術を学ぶ。医療施設内で求められている感染予防は、患者や医療者自身の安全を守るため、正しい知識を習得し確実な実践が求められる重要性について理解する。						
到達目標	1. 看護師が行う感染予防のために基礎知識や技術を理解する。 2. 医療施設で患者や医療従事者及び職員の安全を守る感染予防の意義や知識を活用した技術を体験し習得する。 3. 病院で行われている感染予防対策を知り、基礎知識や技術の確実な実施の必要を理解し実施する。 卒業時の技術到達レベル：36.創傷処置、57.スタンダードプリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護用具（手袋、ガウン等）の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱いが単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：感染防止の基礎知識（安達） 第2回：標準感染予防対策（安達） 第3回：標準感染予防対策（安達） ・スタンダードプリコーション：個人防護具の装着と衛生的手洗い 第4回：感染予防対策の基本（小島） 第5回：感染経路別感染予防対策（安達） ・ガウンテクニック 第6回：感染予防対策 滅菌物の取り扱いと創傷処置（安達） ・滅菌物の取り扱い ・創傷処置 ・感染性廃棄物の取り扱い			講義 講義 校内演習 校内演習(A/Bグループ) 校内演習(A/Bグループ)			
成績評価	・方法 筆記試験：40点 ※感染予防は「コミュニケーション」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 感染予防知識について事前学習があります。グループワークや校内実習前に事前学習があります。 ・留意点 医療従事者を目指すものとして、清潔や汚染について判断できるように考えながら授業に望んで下さい。 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・必要物品 校内実習前に説明された物品を各自で事前準備する						
参考文献	日本看護協会教育委員会監修：看護場面における感染防止 インターメディカ 藤本真紀子他監修：看護が見える vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ (与薬)	担当者	柳原 泰子	開講時期	1年次 後期	単位時間	6/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。本単元では、診療補助技術の中でも、身体侵襲のない薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と、看護師の役割を学ぶ。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。演習では、与薬の中でも看護師が特に実施する機会の多い「与薬」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬(薬剤管理を含む)に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「経皮・外用薬」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 <p>卒業時の技術到達レベル 単独でできる: 39. 経皮・外用薬の投与、64. 患者の誤認防止策の実施 指導の下で実施できる: 38. 経口与薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の投与、45. 薬剤等の管理</p>						
授業項目	授業テーマ	方法(形成評価等を含む)					
第1回	診療における看護	講義					
第2回	与薬における看護・薬剤の管理方法	講義					
第3回	内用薬・経口薬の与薬、経皮・外用薬の与薬 ・誤認防止策の実施 ・内用薬(錠剤/散剤/水剤)の与薬 ・経口薬(パッカル錠、内服薬、舌下錠)の与薬 ・経皮・外用薬(麻薬)の投与 ・薬剤の管理方法(麻薬)	校内演習(A/Bグループ)					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験25点 出席状況・授業の取組み姿勢・課題5点 合計30点 ※与薬は「コミュニケーション」「感染予防」「記録・報告」「指導技術」と合わせ100点満点になる。 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。 ・留意点 校内演習はユニフォーム・患者衣へ更衣します。 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 自身や家族などの内服薬があれば、日頃から興味関心を持ち調べてみましょう。 ※ 看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験がありません。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修: 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 看護技術セット内の物品、各自サイズのディスポーザブル手袋、患者衣、フェイスタオル、入学時に配布した名札 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 コミュニケーション	担当者	後藤 治美	開講時期	1年次 後期	単位時間	8/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	<p>人は、互いの気持ちを伝えあい理解し合う際、情報交換や意思疎通をしながら人間関係を成立させて暮らしている。しかし、生理的な変化や健康障害により今までのようなコミュニケーションが困難になることもある。看護師は、直接的・間接的に人に関わり、安心して過ごせるように配慮したコミュニケーションを行う。また、患者家族の意思を支え関り、希望する生活へと支援する役割がある。コミュニケーションは看護においても相手を理解し、信頼関係を確立し深めていくために必要不可欠な技術である。この単元では、コミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面のなかでのコミュニケーションのあり方を学び体験を通して学び、習得を目指す。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普段のコミュニケーション(意義・種類・構成要素・過程)を想起し、影響などについて自身の関りや体験から理解する。 2. 患者と看護師の信頼関係を深めるため、必要な原則や留意点を踏まえたコミュニケーションを理解する。 3. コミュニケーションの場面を体験し、自分自身の関わりについて振り返り学ぶ。 						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: コミュニケーションの意義と人間関係への影響			講義・グループワーク			
	第2回: 看護場面におけるコミュニケーションの重要性を考える			講義・グループワーク			
	第3回: 効果的なコミュニケーションの実際			校内演習(A・Bグループ別)			
	第4回: 効果的なコミュニケーションの実際			講義・グループ			
成績評価	<p>・方法 筆記試験: 15点 ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・テキストの「コミュニケーション」の内容を読み授業に出席してください。</p> <p>・留意点</p> <p>・日常とは異なり、看護師として行うコミュニケーションの意義を理解して実習の中で活用し下さい。自分自身のコミュニケーションを振り返り、相手の意図を感じる力、相手に必要とされる内容や自分の気持ちを伝える力を理解して看護実践力につなげられるように考え身につけていきましょう。</p> <p>※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <p>・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>・アーネスティン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>・系統看護学講座 人間関係論 医学書院</p> <p>・長谷川雅美他 編「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な取り方」 日総研</p> <p>・福沢周亮、桜井俊子 編「看護コミュニケーション」 教育出版</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 「記録・報告」「指導技術」	担当者	實石 江里子	開講時期	1年次 後期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場面で必要となる共通技術の一つとして、記録・報告がある。記録・報告は看護の継続やチームナーシングにおける基本となる。この技術は1年次の臨地実習の初期段階から必要となるため、授業を通して記録・報告の知識を学び、その重要性を理解する。また、看護の場面では、退院支援として対象に教育的に関わることがたびたびある。そのため、学習支援の意義と役割を学び、今後の指導につながっていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 2. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	看護における記録・報告 演習：記録と報告の実際		講義・演習			
	第2回	看護における学習支援の意義と看護師の役割		講義 演習：グループワーク、発表			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 配点：課題・取り組み姿勢（15点） ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法V 看護の思考	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年次 後期	単位時間	30/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護に必要な思考過程は、看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となるその人にとって必要な援助を見極め、その人らしく生活できるよう支援していくための方法である。看護の思考を学ぶ過程は、看護の対象となる人々と看護実践者との対人関係の中で成立し、展開するものである。すなわち、看護の思考過程は、対人的援助関係の過程を基盤として、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋である。看護の思考を身につけるために、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤として、既習の知識を活用することが必要となる。この単元では、演習を通して基本的な看護の思考過程を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. 事例を使って、看護過程展開に取り組み、看護の思考方法を身につける。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。 						
授業テーマ				方法 (形成評価等を含む)			
授業計画	第1回: 看護過程の概要、看護過程の基盤となる考え方			講義			
	第2回: ゴードンの枠組みを使った看護過程について理解を深めよう!			講義・グループワーク			
	第3回: 看護問題って何?			講義・グループワーク			
	第4回: 事例の疾患と治療について理解を深めよう!			講義・グループワーク			
	第5回: 情報収集について考えてみよう! 1回目			講義・グループワーク			
	第6回: 情報収集について考えてみよう! 2回目			講義・グループワーク			
	第7回: 必要な情報を整理してみよう!			講義・グループワーク			
	第8回: 情報のアセスメントをしてみよう! 1回目			講義・グループワーク			
	第9回: 情報のアセスメントをしてみよう! 2回目			講義・グループワーク			
	第10回: 看護問題を抽出し患者の問題を明確化しよう!			講義・グループワーク			
	第11回: 看護問題の整理・統合を行い、優先順位を考えよう!			講義・グループワーク			
	第12回: 患者の長期目標・短期目標・看護計画を考えよう!			講義・グループワーク			
	第13回: 個別性のある看護計画を考えよう!			講義・グループワーク			
	第14回: 看護計画の実施から、評価、計画の修正をしよう!			講義・グループワーク			
	第15回: 試験・解説			筆記試験・講義			
成績評価	・方法: 筆記試験: 50%, 看護過程展開の成果物と取り組み姿勢の評価: 50%						
事前課題・留意点	<p>・事前課題: その都度指示を出します。</p> <p>・留意点: 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テキスト	<p>・テキスト 茂野香おる他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I, 医学書院。</p> <p>・香春知永他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論, 医学書院。</p> <p>・高木永子他: 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス。</p>						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 臨床栄養	担 当 者	久保田 美保子	開 講 時 期	2年次前期	単 位 時 間	8/30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学 修 内 容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨地を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単元では、臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病の治療や予防における栄養食事療法の意義、栄養状態に応じた栄養管理について学習する。						
到達 目標	①臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病に応じて必要な栄養食事療法を説明できる。 ②栄養状態の評価および栄養状態の改善に必要な栄養管理について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：内分泌・代謝疾患の栄養管理 第2回：循環器系疾患、慢性腎臓病の栄養管理 第3回：消化器系疾患の栄養管理 第4回：周術期の栄養管理			講義 講義 講義 講義			
成績 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(評価配分表を参照)、授業への取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前 課題 ・ 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業前にテキストを一読しておくことを勧める。 ・留意点 						
テキ スト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち「臨床栄養学」 八訂準拠 ビジュアル食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 ・必要物品 授業前に提示する。 			メディカ出版 大修館書店 日本糖尿病学会			
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護方法VI 診療補助技術 経管栄養	担当者	柳原 泰子	開講時期	2年次前期	単位時間	6/30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨床を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単位では、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性と方法を学ぶ。 2. 非経口的栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の身体的、心理的苦痛を理解できる。 3. 安全・安楽に留意した経管栄養法の挿入と注入ができる 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:5.経管栄養法による流動食の注入、実施困難な場合は見学する:6.経鼻胃チューブの挿入						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
第1回	経口摂取ができない人への援助	第1回 講義					
第2・3回	経鼻経管栄養法 ・経鼻胃チューブの挿入 ・経管栄養法による流動食の注入	第2、3回 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の知識を活用し、経鼻経管栄養法を実施する。事前に、援助計画を立案し、安全、安楽に実施するための方法を計画したうえで、患者役、看護師役の両方を体験する。 ※A,Bグループで分かれて演習					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(20点分)、事前学習、演習の取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。 ・留意点 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の内容を復習して臨むこと。 経管栄養法は、臨床実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 藤本真記子他監修：看護がみえる Vol1、Vol2臨床看護技術、メディックメディア、 江口正信著：検査値早わかりガイド、サイオ出版。 ・必要物品 授業前に提示する。 						
参考文献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法VI診療補助技術 浣腸・導尿・坐薬	担 当 者	増田 瑞枝	開 講 時 間	2年次 前期	単 位 時 間	12/30時間 単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学 修 内 容	<p>本科目は、診療補助技術に含まれ、身体侵襲を伴う技術である。学生には安全に配慮した援助を実施するために、1年次の形態機能学の知識に基づき、技術の適応や禁忌について理解した上で、原理・原則に留意した技術を身につける。また、これらの技術は羞恥心を伴うため、患者の心理面を理解した上でどのような看護ういづようか考え、実施できるようにする。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態の理解から、状況に合わせた援助方法を理解する。 2. 各技術でされる援助の目的、原理・原則を理解する。 3. 安全・安楽に留意した援助(膀胱留置カテーテル)の挿入と管理方法が理解できる。 4. 安全・安楽に留意した援助(坐薬の挿入・グリセリン浣腸)の実施ができる。 5. 身体侵襲を伴う患者の心理を理解し、必要な看護について考える。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:8.膀胱留置カテーテルの管理,9.導尿または膀胱留置カテーテルの挿入,10.浣腸 40.坐薬の投与</p>						
授 業 計 画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	第1回 排便困難時の看護	講義					
	第2・3回 座薬・浣腸の実施と床上排泄の援助	演習(A・Bグループ別)					
	第4回 排尿困難時の看護	講義					
	第5・6回 一時的導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理方法	演習(A・Bグループ別)					
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験25点 演習後の提出物(5点/回 計10点) (看護方法VIのうち35点分の配点) 出席状況・授業の取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題:各演習前には課題を提示します。演習は課題をもとに行います。主体的に臨みましょう。 ・留意点 :1年次の形態機能学Ⅱ「排尿のメカニズム」、看護方法Ⅱ「排泄」の講義内容をしっかり振提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修:看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 近藤一郎他監修:看護がみえるvol.2 基礎看護技術 メディックメディア 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 演習時はユニフォーム等、事前に提示します。 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2]病態生理学 医学書院 						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法VI 診療補助技術 無菌操作	担 当 者	石間 香里	開 講 時 期	2年前期	単 位 時 間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学 修 内 容	無菌操作は、患者の体内に病原微生物が侵入するのを防ぐため、滅菌された物品の滅菌状態を保ちながら取り扱う。臨床で滅菌物を取り出し患者へ使用する時は、確実に無菌操作を行うことが必要であり、清潔と汚染を厳重に区別することが重要である。身体侵襲を伴い安全面の配慮を必要とするため、安全面だけではなく、倫理面への配慮を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 無菌操作の原理原則を理解する。 2. 原理原則に基づいて無菌的に物品を取り扱うことができる。 3. 医療物品の取り扱いでの倫理的配慮の必要性を認識する。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる: 58.使用した器具の感染防止の取り扱い, 60.無菌操作</p>						
授 業 計 画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回 無菌操作の実際	講義					
	第2回 無菌操作 ・滅菌包とその取扱い ・滅菌包	校内演習(A・Bグループ別)					
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 事前に留意点や方法を自己学習してください。(用紙や詳細は後日お知らせします。) ・留意点 ・感染予防の視点から身支度は適切に整えて出席してください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I ・必要物品 						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護方法VII 診療・治療における看護 「臨床薬理と医薬品の管理」	担当者	林 豊	開講時期	2年次 前期	単位時間	8/30時間 単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の基礎知識：薬物動態、薬物相互作用、遺伝子多型などの要因によって、なぜ薬の効き方に個人差が生じるのかを解説する ・ 各論（抗がん薬、免疫治療薬、輸液等を担当）：各領域の薬効分野の特徴と注意点、並びに医療安全に関する医薬品の取り扱いについても解説する 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の効果に差が生じる要因を理解し、安全な医薬品使用の知識を習得する 2. 医薬品情報や規制医薬品の管理について知識を習得する 3. 抗がん薬、免疫治療薬、救急薬、輸液について、薬剤の特徴および管理方法を習得する 						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回 薬理学の基礎知 （薬物動態、薬物相互作用など；第2章B～E）				講義		
	第2回 薬理学の基礎知識 （法律関連；第2章F、（付録）看護業務に必要な薬の知識）				講義		
	第3回 抗がん薬、免疫治療薬、漢方薬 （第4章、第5章、第14章）				講義		
	第4回 救急薬、輸液製剤 （第13章、（付章）輸液製剤・輸血剤）				講義		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（看護方法VIIのうち30点分の配点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 1年次授業の看護方法IV 与薬：経口与薬を復習しておいて下さい ・留意点 授業はパワーポイント（スライド）と配付資料を用いて行う。授業後は講義内容とテキストを振り返り、語句を整理しておく 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ・ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 						

授業概要

科目名	看護方法Ⅶ 診療に伴う技術 与薬(注射の準備・皮下注射・筋肉注射)、点滴静脈内注射、輸血の管理	担当者	大石 祐子 柳原 泰子	開講時期	2年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。本単元では、診療補助技術の中でも身体侵襲を伴い、安全面の配慮が特に必要な薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識を学び、根拠に基づいた技術を身につけていく。演習では臨床場面を想定し、モデル人形などを用いながら、与薬の中でも看護師が特に実施する機会の多い「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤管理」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬(薬剤管理を含む)に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤の管理」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:44.点滴静脈内注射の管理、実施困難な場合は見学する:41.皮下注射,42.筋肉注射,43.静脈路確保・点滴静脈内注射,45.薬剤等管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む),46.輸血の管理,67.人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施</p>						
授業項目	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回	注射、針刺し事故の防止と事故後の対応 ・人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策	(大石)	講義			
	第2・3回	注射の準備・皮下注射・筋肉内注射	(大石)	校内演習(A・Bグループ別)			
	第4回	輸液の基礎知識、輸液セットの取り扱い ・血液製剤等の基礎知識	(柳原)	講義			
	第5回	点滴静脈内注射の実際と管理方法	(柳原)	校内演習(A・Bグループ別)			
	第6回	人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策の実施 ・輸血(血液製剤)の管理	(柳原)	校内演習(A・Bグループ別)			
成績評価	<p>・方法 大石先生(20点)、柳原(20点) 評価方法は後日指示します。 ※「臨床の薬理と医薬品の管理」「検査の看護」と合わせ100点満点になる。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。</p> <p>・留意点 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。</p>						
テキスト	<p>・テキスト 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修:看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 藤本真記子他監修:看護がみえるvol.2 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院</p> <p>・必要物品 看護技術セット内の物品、各自サイズのディスプレイ手袋、入学時に配布した名札</p>						
参考文献	<p>ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 吉田みつ子 本庄恵子 編著 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅶ 診療に伴う技術 検査の介助技術	担当者	石間 香里	年次	2年次 後期	単 位 時 間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学 修 内 容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術について根拠に基づき技術を身に付けていく。臨地を想定しながらモデル人形等を活用し、臨床で使用される物品に近い物で代用し学んでいく。この科目では、血液検査等身体侵襲を伴う検査の実施と介助についてその方法を学ぶ。また、検査の看護として放射線の被曝防止についても学ぶ。						
到 達 目 標	1) 検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2) 臨床での主要かつ基本的な検査について自ら調べることで知り、学びを共有する 3) 主な検査技術における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4) 検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる: 66.放射線の被曝防止策の実施、指導の下で実施できる: 53.検体の取り扱い(血液), 54.簡易血糖測定, 55.静脈血採血, 針刺し事故の防止・事故後の対応						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	検査の目的・種類・看護の役割、注意事項、事故防止		講義			
	第2回	検査について		講義			
	第3・4回	モデル人形による採血、検体の取り扱い		校内実習(A,Bグループ別) 実 施中・後シミュレーション			
	第5回	簡易血糖測定、放射線の曝露防止策の実施		校内実習(A,Bグループ合同)			
成 績 評 価	・方法:筆記試験(30%) 冬季休暇中のレポート(5%) 取り組み姿勢(5%) *「与薬」と合計して100% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめ、校内実習前後に提出。 ・留意点 ・レポートは冬季休暇中の課題となります。文献を用いて検査における看護について考えよう。 ・根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい。 ・採血の校内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 任 和子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院。 佐藤久美他監修:看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第一版,メディックメディア。 江口正信編著:検査早わかりガイド, 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	村上美好監修:写真でわかる基礎看護技術①, インターメディカ。 玉木ミヨ子編集:看護学生必修シリーズ"なぜ?どうして?"がわかる基礎看護技術, 照林社						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術	担当者	大石 祐子 杉淵 美里	開講時期	2年次前期	単位時間	20/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力 実践する力							
学修内容	<p>救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、口腔・鼻腔内吸引、酸素吸入、吸入などの看護方法を中心に援助を学習する。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによる症状を理解し、呼吸が滞りかねないことによる苦痛・心情を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための看護技術の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、呼吸・循環を整える技術を指導の下で実施できる。 7. 医療機器の安全な取り扱い・管理方法について理解する。 <p>卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる：29.体温調節の援助 指導の下で実施できる：30.酸素吸入療法の実施、31.ネブライザーを用いた気道内加湿 実施困難な場合は見学する：68.医療機器の操作管理(酸素ポンプ・12誘導心電図)、32.口腔内・鼻腔内吸引、33.気管内吸引</p>						
	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 体温調節不応患者への看護【杉淵】			講義・グループワーク			
	第2回 温電法・冷電法(体温調節の援助)【杉淵】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第3回 呼吸困難のある患者への看護【大石】			講義			
	第4回 吸入療法とその看護【大石】			講義・グループワーク			
	第5-6回 酸素療法の実施、酸素ポンプの取り扱い【大石】 薬液吸入【大石】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第7回 吸引療法とその看護【杉淵】			講義・グループワーク			
	第8回 吸引(口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引)【杉淵】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第9回 医療機器の安全な取り扱いについて(12誘導)【大石】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第10回 学科試験【大石】						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（大石：40点 杉淵：30点） ※看護方法Ⅶ「救命・救急の看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業で説明します。 ・留意点 校内実習前には事前課題、校内実習後には振り返りがあります。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院 ・必要物品 校内実習ごとにお知らせします。 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅷ 生命活動を支える技術 救命・救急の看護	担当者	救命救急士 島田 光歩 杉淵 美里	開講時期	2年次 後期	単位時間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、気道確保などの救急法を学習する。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2. 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3. 一次救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 <p>卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる：47.緊急時の応援要請,48.1次救命(BLS)</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1・2回	1次救命(BLS)		実技(学校で講習を受ける)			
	第3・4回	初期対応(緊急時の応援要請)、一次救命処置 救急カートについて		講義・実技 講義・グループワーク			
	第5回	救急患者の対応		講義・シミュレーション			
成績評価	<p>・方法 30点(ワーク・筆記試験)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 第5回の講義までに第1実習室の救急カート内の物品を各自で確認し授業に臨む。</p> <p>・留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習後はイメージトレーニングをしていく。万一欠席した場合は必ず年度内に受講すること。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 任和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ.医学書</p> <p>・必要物品 第3・4回に三角巾、第5回に電子辞書(ある人のみでよい)を用意する。</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅰ	担当者	西川 はるみ 橋本 圭子	開講時期	2年 前期	単 位 時 間	15時間 1単位
ディプロマで目指す力		実践する力					
学 修 内 容	<p>看護師は医療者として、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要となる。そのため、臨床判断Ⅰでは、形態機能学、病態生理治療論などで学習した既習の知識を基に、臨床場面でよくある状況設定から、臨床判断モデルの「予期」「初期把握」「解釈」という思考過程から、看護に必要な臨床判断の思考をトレーニングをしていく。また、個々での学習や共同学習を通して、学び合う中で意志ある学びにつながる学習や看護に必要な協調性を養う機会にもしていきたい。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を活用し、対象の状態を予期する。(予期) 2. 対象の状態を把握し、変化に気づける。(初期把握) 3. 対象の状態・変化を解釈し、対応を考えることができる。(解釈) 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回	看護師に必要な臨床判断能力とは	(西川)	講義			
	第2回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例1)	(西川)	講義・グループワーク			
	第3回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例1)	(西川)	シミュレーション			
	第4回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例2)	(西川)	講義・グループワーク			
	第5回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例2)	(西川)	シミュレーション			
	第6回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例3)	(橋本)	講義・グループワーク			
	第7回	臨床判断—気づきとその解釈—(事例3)	(橋本)	シミュレーション			
	第8回	試験(45分)	(西川)	筆記試験			
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験40%、取り組み姿勢・成果物60%</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題が出た際には、必ず取り組んで来てください。 ・演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学 医学書院。 ・高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 他多数 ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院。 ・熊谷たまき他監修：フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メデックメディア。</p>						
参 考 文 献	<p>・臨床判断・臨床推論に関連した書籍 複数 ・看護技術・看護方法に関する書籍 複数</p>						

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅱ	担当者	後藤治美 實石江里子	年次	2年 後期	時間 単位	15時間 1単位
	ディプロマで目指す力		実践する力				
学修内容	<p>看護師は、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床判断Ⅱでは、臨床判断Ⅰでの学びを基に、臨床判断モデルの思考過程から、看護で求められる臨床判断の思考と実践方法について学ぶ。さらに、臨床を想定した状況設定の実施とその省察から、自己の課題を明らかにし、その経験を積み重ねることで、看護の経験知へとつなげていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態の予期から、対象の状態・変化を適切に解釈する。 2. その場の状況から、適切に判断し、コミュニケーションを図りながら対応する。 3. 自己の看護実践を振り返り、実施の評価と自らの行為について省察する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 改めて臨床判断とは 2. 事例1に関する検討 + 事例設定の中で、学生は点滴・ドレーン等を留置している患者の更衣交換を実施する 3. 事例1のシミュレーション演習 4. 事例2に関する検討 5. 事例2のシミュレーション演習 6・7. OSCE 						<p>講義 グループワーク</p> <p>校内演習 個人ワーク 校内演習 技術試験</p>
成績評価	<p>・方法 演習参加度・課題の成果物:65%、OSCE:35%(OSCE 20点、リフレクション 10点、思考発話5点)</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 その都度指示します</p> <p>・留意点</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト・系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学, 医学書院</p> <p>・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院</p> <p>・香春知永 著: 系統看護学講座 専門基礎分野 基礎看護学, 医学書院</p> <p>・高木永子 監修: 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル 秀潤社</p> <p>・必要物品 バインダー</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科 目 名	地域・在宅看護論Ⅰ	担 当 者	吉田五百枝 増田瑞枝	開 講 時 期	1年前期	時 間 単 位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学 修 内 容	看護師が行う看護の対象は、療養者を含めた地域で暮らす人々であり、また療養の場の拡大により看護を提供する場も拡大している。本単元では、地域で暮らす人々を理解するとともに、人々が支えあって生きることの大切さを学ぶ。ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解するとともに、環境・生活・健康の関連性について学ぶ。						
到 達 目 標	1) ライフステージ各期にある地域で暮らす人々を理解する。 2) 地域の人々の暮らしの場を理解する。 3) 自分が暮らす地区における自治活動に参加することができる。 4) 地域で暮らす人々の環境・生活・健康の関連性を理解する。						
授 業 項 目	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回：暮らしとは（吉田）	GW 課題評価あり					
	第2回：暮らしの基盤となる地域とは～焼津市・藤枝市（吉田）	GW 課題評価あり					
	第3回：暮らしと地域を理解するための考え方～地域社会と人々の生活～	GW（マップ作成） 課題評価あり					
	第4回：人々の生活と健康～担当地区の人々（小児期～老年期 各期の特徴）	GW/講義 課題評価あり					
	第5回：自分が暮らす地区を知る①フィールドワーク計画書作成	GW 課題評価あり					
	第6回：自分が暮らす地区を知る②フィールドワーク後の学びの共有	GW 課題評価あり					
	第7回：自分が暮らす地区を知る③（吉田）	GW/講義 課題評価あり					
	第8回：自分が暮らす地区を知る④（吉田）環境・生活・健康の関連性	GW 課題評価あり					
	第9回：自分が暮らす地区を知る⑤（吉田）環境・生活・健康の関連性	GW 課題評価あり					
	第10回：グループワークの発表	発表					
成 績 評 価	・方法：最終レポート（40%）フィールドワーク課題評価（40%）各回課題評価（20%）提出物戻り等取り組み姿勢で評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事 前 課 題 留 意 点	・事前課題 夏季休暇を利用し、自分が暮らす地区のフィールドワークをしましょう。地域の自主活動にも参加してみましよう。 ・留意点 地域にはどのような社会資源・自主活動があるのか興味を持って調べてみましょう。健康との関連性を考えてみよう。						
テ キ ス ト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論1, 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版, 医歯薬出版社。 厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社。 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ	担当者	吉田五百枝 石間香里	開講時期	2年後期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	<p>地域の人々の健康と暮らしを支える看護を実践するためには、共に支える役割をもつ保健・医療・福祉に関する他の職種を理解を深め、地域包括ケアシステムを活用した専門職間の連携、協働の意義と概念を理解することが不可欠である。そのため、様々な場で展開される地域・在宅看護実践について学んだ上で、他の専門職の役割を尊重し協働することを学ぶ。特に本単元では、他の専門職を目指す学生との意見交換の場に臨み、実際の他職種連携・協働に向けて良好な関係作りができるコミュニケーション能力を養う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉に関わる各専門職種の基本概念や関係法規、役割を理解する。 2) 地域包括ケアシステムの意義と概念を理解する。 3) 専門職連携演習において他の専門職の専門性や役割、看護との協働について理解を深める。 4) 多職種を尊重した相互関係を築けるよう、看護職としての役割と姿勢を理解する。 						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：様々な場で展開される地域・在宅看護実践（訪問・通所・在宅入居）						講義
	第2回：共に支える各専門職の目的や特殊性（基本概念や関係法規等）						講義
	第3回：地域包括ケアシステムの意義と概念						講義
	第4回：地域包括ケアシステムについて（理想を考え作ってみましょう）						GW/講義
	第5回：専門職連携演習①演習リエンション・症例共有 静福大生と対面						GW 意見交換
	第6回：専門職連携演習②必要な看護と他職との連携・協働を計画する 学内						GW 課題評価あり
	第7回：専門職連携演習③必要な看護と他職との連携・協働を計画する 学内						GW 課題評価あり
	第8回：専門職連携演習④介護・看護を学ぶ学生間で療養者支援の連携を考える静福生リモート						GW 意見交換
	第9回：専門職連携演習⑤療養者支援の連携を考える 静福大生と対面						意見交換・発表
	第10回：専門職連携演習振り返り（他職を尊重する看護師の姿勢とは）						GW 発表
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法：筆記試験（40%）演習評価（60%）提出物、振り返り等取り組み姿勢で評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 1年次看護学概論で学習した多職種についての学習資料を復習して臨みましょう。 ・留意点 静岡福祉大学の学生さんと交流します。大学に向いて学習しますので、マナーや礼儀を守って行動しましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、医学書院 ・必要物品 看護学概論で調べた資料や学習ファイル 						
参考文献	<p>木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版、医歯薬出版社。 厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅲ	担当者	吉田五百枝 大井陽江 小林有希子 朝比奈結華	開講時期	2年前期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	<p>少子超高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場合は施設から地域社会へとその範囲を広げ、更には在宅療養へと移行していく方向にある。本単元では、地域・在宅看護の対象者とその家族について理解し、地域における暮らしを支える看護の役割について学ぶ。また、健康課題を持ちながら地域に暮らす人々に対する切れ目のない看護の提供について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>1) 地域・在宅看護に関わる現状を踏まえ、地域における暮らしを支える看護の概念と目的を理解する。 2) 地域・在宅看護の対象者とその家族を理解する。 3) 地域・在宅看護の特徴を理解する。 4) 看護の継続性について考えることができる。</p>						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：暮らしを支える地域・在宅看護（吉田）						講義
	第2回：地域・在宅看護の対象者（小林）						講義
	第3回：家族の理解（小林）						講義
	第4回：地域・在宅看護の特徴①（小林）						GW/講義 課題評価あり
	第5回：地域・在宅看護の特徴②（小林）						GW/講義 課題評価あり
	第6回：看護の継続性（大井）						講義
	第7回：地域・在宅看護の歴史と訪問看護の現状（朝比奈）						GW/講義 課題評価あり
	第8回：地域・在宅看護の背景と暮らしにおけるリスクマネジメント（吉田）						GW/講義 課題評価あり
	第9回：地域・在宅看護における意思決定支援と権利保障（吉田）						GW/講義 課題評価あり
	第10回：学科試験（吉田）						講義
成績評価	<p>・方法：筆記試験（講師50%・学内教員30%）課題評価（講師10%・学内教員10%） ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題 留意点	<p>・事前課題 ・留意点 地域・在宅看護論Ⅰ地域・在宅看護実習Ⅰで学んだ「暮らしの基盤としての地域の理解」を基に、地域・在宅看護に求められる役割について深く考えていきましょう。</p>						
テキスト	<p>・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論Ⅰ, 医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践—地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院 ・必要物品</p>						
参考文献	<p>厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社。 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説—公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために—, スーヴェルヒロカワ 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社</p>						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅳ	担当者	篠原彰 三輪一太 東野定律 池田真紀 吉田五百枝 朝比奈結華	開講時期	2年前期	時間単位	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	本単元では、地域・在宅看護の実践にあたり、関連する制度を広く学びその活用について理解するとともに、在宅医療の現状と課題、訪問看護の実際を学ぶことで看護の果たす役割を学ぶ。長い期間を通して暮らしを支えるために、社会保障制度に基づき様々な形で看護サービスを提供していることを理解する。地域・在宅看護マネジメントや地域・在宅看護活動の創造について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護に関わる在宅医療の現状と課題が理解できる。 2) 地域包括ケアの現状について理解する。 3) 訪問看護活動の実際について理解する。 4) 社会資源と地域・在宅看護に関わる法的制度を理解する。 5) ネットワーク図の作成を通してケアマネジメントの考え方と連携について理解する。 6) マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメントについて理解する。						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：在宅医療の現状と課題（篠原）						講義 リポートあり
	第2回：超高齢社会における医療の変化「治す医療」～「支える医療」へ（三輪）						講義 リポートあり
	第3回：在宅療養の現状と在宅医療（三輪）						講義
	第4回：在宅医療・介護における地域包括ケアシステム（東野）						講義
	第5回：訪問看護の対象者・導入の流れ（介護保険医療保険の違い、アセスメント等）（池田）						講義 リポートあり
	第6回：訪問看護の手順と実際（災害対策、ターミナルケア、活動・療養環境調整等）（池田）						講義
	第7回：地域の社会資源（吉田）						GW
	第8回：社会資源と法的制度の活用（吉田）						GW発表 他者評価あり 講義
	第9回：地域ネットワーク図（吉田）						講義・地域ネットワーク図の課題あり
	第10回：社会資源と地域ケア（朝比奈）						講義
	第11回：地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス（朝比奈）						講義
	第12回：地域・在宅看護マネジメントと多職種連携・多職種チームでの協働の実際（朝比奈）						講義
	第13回：介護保険制度上のケアマネジメントの考え方（朝比奈）						GW/講義
	第14回：地域・在宅看護活動の創造（朝比奈）						講義
	第15回：学科試験（吉田）						
成績評価	・方法：筆記試験（40%・吉田30%）出席加度と発表内容（10%）第1・2・5回リポート提出状況（10%）ネットワーク図（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題	・事前課題 春季休暇時自分の住む地域の社会資源（保健・福祉）についてリポートを提出する。 ・留意点 地域の社会資源と法的制度を具体的に結び付けながら、地域包括ケアの理解を深めてほしい。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論Ⅰ、医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実際―地域・在宅看護論Ⅱ、医学書院 ・必要物品 第7回GW時に、リポート作成のために使用した社会資源の資料を持参すること。						
参考文献	厚生統計協会：厚生指針臨時増刊号 国民衛生の動向、訪問看護実務相談、全国訪問看護協会 小島操子他：看護のコツと落とし穴 森元陽子：訪問看護という生き方、幻冬舎 押川眞喜子監修：写真でわかる訪問看護、インターメディカ 木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版、医歯薬出版社。						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論 V	担当者	石間香里 大井陽江	開講時期	2年前期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	暮らしの場で看護援助を提供するための心構えを理解し、個々の生活スタイルを考慮したうえで、人々とその家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は対象者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に対象者、家族が行うことになるため、対象者と家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。この単元では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、対象者の希望する暮らしを支える日常生活援助技術と医療的ケアについて学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2) 地域・在宅看護における対象者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3) 基礎看護技術を応用・工夫し、対象者に合った地域・在宅看護技術を考え、実践することができる。 4) 医療的ケアのある対象者・家族への援助が理解できる。 卒業時技術到達レベル 指導の下で実施できる 7-排泄援助 22-シャワー浴介助 30-酸素吸入療法の実施 35-褥瘡予防ケア 実施困難の場合は見学する 35-褥瘡予防ケア						
授業項目	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	<日常生活援助> 第1回：暮らしの場で看護するための基本姿勢とコミュニケーション技術 第2～3回：暮らしの場における清潔・衣生活とその援助（シャワー浴） 第4～5回：暮らしの場における排泄とその援助（排便） <医療的ケア> 第6回：地域・在宅看護における栄養管理とケア（大井） 第7～8回：地域・在宅看護における呼吸管理とケア 第9回：地域・在宅看護における排泄管理とケア（大井） 第10回：地域・在宅看護における褥瘡予防とケア（大井） 第11回：学科試験	講義 課題評価あり 講義・GW・校内実習 課題評価 講義・校内実習 課題評価 講義 講義・校内実習 帝人による説明・体験 講義 講義					
成績評価	・方法：筆記試験（学内教員60%・大井15%）課題評価と提出状況（学内教員25%） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 ・留意点 全ての領域を含んでいます。今までの知識を用いて応用や工夫をして楽しみながら看護を考えていきましょう						
テキスト	・テキスト 押川真喜子監修：写真でわかる訪問看護，インターメディカ 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ，医学書院 ・必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論―実践を言葉に一第6版，ヌーヴェルヒロカワ 三浦規他：ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア，インターメディカ。 木下由美子編：在宅看護論 新版，医歯薬出版社。 角田直枝編集：スキルアップのための在宅看護マニュアル，学習研究社。 川村佐和子：組織力を高める在宅ケア高度実践術，日本看護協会出版社。						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅵ	担当者	吉田五百枝 石間香里	開講時期	2年後期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	地域・在宅看護の対象者の背景は多様であり、様々な健康レベルにある。対象者・家族の「生きること」を支えるためには、ひとりひとりの生き方に応じた医療とケアを独創性をもって提供することが求められる。本単元では、地域・在宅における状態別・時期別の看護を理解し、地域・在宅看護の展開について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅における主な状態別・時期別の看護が理解できる。 2) 地域・在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：地域・在宅看護過程の特徴感染症のある対象者への援助（吉田）						講義
	第2回：寝たきりの在宅療養者への看護（石間）						講義
	第3回：認知症高齢在宅療養者への看護（石間）						講義
	第4回：ターミナル期にある在宅療養者への看護（石間）						講義
	第5回：難病の在宅療養者への看護（石間）						講義
	第6～9回：地域・在宅看護過程の展開方法（吉田）						第6回：個人ワークで「ネットワーク図」「私の抱えた療養者」を作成 第7、8回：個人ワーク記録物を基にGW実施第9回発表
	第10回：講義 学科試験（石間）						講義
成績評価	・方法：筆記試験（学内教員65％・吉田15％）課題評価（「ネットワーク図」5％「私の抱えた療養者」5％）GWの参加状況と発表内容（10％） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・留意点 地域・在宅看護論Ⅲ～Ⅴの授業内容を復習して講義に臨んでください。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論―実践を言葉に一第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説―公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 角田直枝編集：スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社						

授 業 概 要

科 目 名	成人看護学Ⅰ 成人看護学総論	担 当 者	安達 百合 保健師	開 講 時 期	1年後期	単 位 時 間	20時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学 修 内 容	<p>身体的に成長・成熟・衰退へと変化し、精神(スピリチュアル)・心理・社会的に独立し社会的期待も大きく自立し、自律する成人の発達段階的な特徴や生活上の役割を理解し、この時期にある人に起こる健康障害について理解する。</p> <p>また、成人期にある人の健康の維持、増進、疾病予防(健康回復)に向けて重要な支援について理解し、必要な看護を深める。自己実現を目指して健康を維持した生活と健康のつながりや健康障害への影響について理解する。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学における成人期のそれぞれの発達段階の特徴を理解する 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を実際の関わりから理解を深める 3. 成人期にある人の生活と健康の関連や健康障害について理解を深める 4. 成人期にある人への健康教育(保健指導)の視点を理解する 5. 成人期にある人がさらに健康増進できるような支援について理解する 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1,2回: 成人期にある対象の理解	[安達]	講義				
	第3～5回 成人期にみられる健康問題	[安達]	講義・グループワーク・発表				
	第6,7回: 成人期の健康問題①②	[安達]	講義				
	第8,9回: 成人期にある人への保健活動の実際	[保健師]	講義				
	第10回: 試験	[安達]					
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験とレポート2種類 点数配分:健康問題レポート20点、インタビューレポート10点、グループワーク参加度10点、筆記試験60点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します(評価対象になります)。新聞記事を使用するため、購読していない人は、購読している人に頼むなど、使えるよう自分で準備して下さい。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅱ	担当者	安達 百合 片山 聖治	開講時期	2年前期	単位 時間	30 時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探求する力				
学修内容	<p>患者が健康を害した時、まず最初に様々な症状を自覚する。患者の症状や訴えから何が起きているかを考え、今後何が起きるかを予測し、今起きている症状を緩和するための看護を実践している。そこで、症状緩和となる治療とその看護について学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に起きている症状(異常)に「気づく」ことができる 2. 症状におけるアセスメントから援助の過程を理解できる 3. 患者の状況に合わせて行われる治療を理解し、必要な看護を考えることができる 4. 患者の苦痛を最小限にするための看護に必要な臨床判断について学ぶ 						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1～3回:	呼吸に関連する症状を示す対象への看護 (呼吸困難・喀血・チアノーゼ)	[片山]	講義・グループワーク			
	第4～6回:	排泄に関連するに症状を示す対象への看護 (下痢・下血・便秘)	[安達]	講義・グループワーク			
	第7～9回:	安楽に関連する症状を示す対象への看護 (悪心・嘔吐・吐血)	[片山]	講義・グループワーク			
	第10回:	試験	[片山]				
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 75% 取り組み姿勢 25% (自己・他者評価) 試験の点数配分は、安達 25点 片山 50点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [2]呼吸器 [5]消化器 [7]脳・神経 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅲ	担当者	安達百合 片山 聖治 石川 智也 浅野 太志 長坂 信次郎 藤田智和 河原崎まどか	開講時期	2年前期	単位 時間	30時間 /1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探求する力						
学修内容	身体侵襲が高く生命の危機的状態にある人へ、回復の促進及び異常の早期発見について理解し、援助するための看護を学ぶ。さらに、このような状態にある人、その人を取り巻く人々の思いや立場を考えた支援について学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機状態にある成人の身体的・心理的特徴を理解する 2. 健康危機的状態にある患者の状態を把握する視点や必要な看護援助を考える 3. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する 4. 身体侵襲を受けた人の身体的心理的社会的な特徴を理解する 5. 手術後の身体的心理的变化を受け止め、生活を支援する看護を考える 卒業時の技術到達レベル:12 ストーマ管理 実施困難な場合は見学する							
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1、2回:	クリティカルケア(重症集中ケア)総論	[安達]				講義	
	第3回:	救急看護	[長坂先生]				講義	
	第4～6回:	救命救急治療を必要とする状況 虚血性心疾患の急性期看護（第5・6回はシミュレーション）	[長坂先生 ・藤田先生]				講義 校内実習	
	第7回:	クリティカルケア(重症集中ケア)を必要とする人への看護	[片山]				講義	
	第8回:	手術療法を受ける患者の特徴	[片山]				講義	
	第9回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	[浅野先生]				講義	
	第10、11回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	[石川先生]				講義	
	第12、13回:	人工肛門造設患者の看護 (術前～術直後)(回復期～退院後の生活)	[河原崎先生]				講義	
	第14回:	人工肛門(ストーマ装具)についての説明、ストーマ装具交換の実践					校内実習	
	第15回:	試験	[片山]					
成績評価	・方法 筆記試験 試験の点数配分は、藤田先生 25点 石川先生 25点 河原崎先生 25点 片山 25点 合計100点です ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習ももちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。							
テキスト・必要物品	・テキスト ・矢永勝彦他編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院。 ・井上智子編集:パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院, [3]循環器 ・系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・必要物品 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。							
文献参考	・安酸史子ほか編集:ナースング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版。 ・高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken.							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅳ	担当者	安達 百合 橋本 圭子 秋山 美幸 秋山 弘太 遠藤 みさ 伊藤 絵里香	開講時期	2年後期	単位 時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力					
学修内容	健康障害によって生活の変化を余儀なくされた人の状態、状況を理解し、セルフケアや自己管理を促進するような看護を理解する。他職種と連携し、その人の能力を活かして生活できるよう具体的な支援を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識を活用し、セルフマネジメントを必要としている成人の状況を理解する。 2. セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護の実際を学ぶ。 3. セルフケア低下状態にある成人を理解する。 4. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性和看護師の役割を学ぶ。 5. セルフケア再獲得を目指す人への看護の実際を理解する 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 慢性期看護総論	[安達]					講義
	第2～4回： 内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿	[橋本]					講義・グループワーク
	第5～7回： 自己免疫性疾患のある患者への看護 (膠原病・全身性エリテマトーデス)	[安達]					講義・グループワーク
	第8～10回： 脳・神経機能障害のある人への看護(脳血管障害	[秋山先生]					講義・グループワーク
	第11回： 理学療法の実際	[秋山先生]					講義
	第12回： 作業療法の実際	[伊藤先生]					講義
	第13回： 言語療法の実際 言語障害の種類(失語症・構音障害・難聴)と特徴、嚥下障害 言語障害や嚥下障害の対応方法	[遠藤先生]					講義
	第14回： セルフケア再獲得を支援するための看護	[橋本]					講義
	第15回： 試験	[橋本]					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 試験の点数配分は、安達 40点 橋本 30点 秋山先生 30点 合計100点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]代謝・内分泌 [7]脳・神経 [11]アレルギー・膠原病感染症 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論、メディカ出版。 						

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅴ	担当者	安達 百合 橋本 圭子 石井 夕紀 黒木 真紀 飯塚 計江 寺田 知生	開講時期	2年後期	単位 時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力					
学修内容	がん医療の進歩に伴いがんと共に生きていく人を支援するため根拠ある看護実践は重要である。そこで、がん治療を受ける人への看護の実際を学ぶ。更に苦痛へのアプローチやQuality of lifeの向上を中核とした緩和ケアを必要とする人(患者家族)を理解し、他職種と連携してその人の生活を支える具体的な看護を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療や症状の管理、セルフケアへの支援に必要な看護を学ぶ。 2. がん治療の継続やチームでの支援など看護の役割や重要性を理解する。 3. 緩和ケアの現状と展望や緩和ケアを必要とする人の特徴を理解する。 4. 緩和ケアを必要とする病状や患者家族へのケアの実際を学び、緩和ケアの実践について理解を深める。 						
授業計画	授業テーマ					方法(形成評価等を含む)	
	第1, 2回: がん看護総論	[安達]			講義		
	第3~5回: 放射線療法を受ける人を支える看護	[寺田先生]			講義・グループワーク		
	第6, 7回: 化学療法を受けている人の日常生活を支える看護	[飯塚先生]			講義・グループワーク		
	第8~10回: 緩和ケアを必要とする人の看護	[石井先生]			講義		
	第11,12回: 終末期にある人への看護(心不全)	[橋本]			講義・グループワーク		
	第13, 14回: 終末期にある人の家族および遺族への看護	[黒木先生]			講義・グループワーク・校内実習		
	第15回: 試験	[安達]					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 試験の点数配分は、安達 25点 橋本 25点 寺田先生 25点 石井先生 25点 合計100点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院, ・系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院, ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器, 医学書院, ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子他編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対象看護, 学研プラス ・一般社団法人 日本がん看護学会監修:患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書 						

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅵ	担当者	安達百合 片山聖治	開講時期	2年前後期	単位 時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力					
学修内容	この科目では、健康障害のある成人への看護実践の思考の習得を目指している。 事例を用いて、成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴から健康障害の起きた理由を捉え、その人の力を活かし健康の回復増進へと支援する看護ができる能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーションで事例患者の状態観察を実践できる 2. 事例を通して、なぜその状況が起きているのかを考え、看護上の問題を表現する 3. 既習の知識を活用し、成人期の特徴を踏まえた個別性のある看護を考えることができる 4. 事例の個別性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる 卒業時の技術到達レベル: 4 食事指導 36 創傷処置(創洗浄・創保護) 37 ドレーン類の挿入部の処置 実施困難な場合は見学する						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回: 事例展開(慢性腎不全) 病態・症状・情報の整理	[安達]					講義
	第2回: 状態観察シミュレーション	[安達]					演習
	第3回: 状態観察シミュレーション	[安達]					演習
	第4回: 状態観察シミュレーション	[安達]					演習
	第5回: 看護計画立案 グループワーク	[安達]					グループワーク
	第6回: 看護計画発表 グループ内発表	[安達]					講義・グループワーク
	第7回: まとめ	[安達]					講義・グループワーク
	第8回: 事例展開(周術期胃がん患者) 病態・症状・情報の整理	[片山]					講義
	第9回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	[片山]					演習
	第10回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	[片山]					演習
	第11回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	[片山]					演習
	第12回: 看護計画立案 グループワーク	[片山]					グループワーク
	第13回: 看護計画発表 グループ内発表	[片山]					グループワーク
	第14回: 看護実践シミュレーション	[片山]					演習
	第15回: 試験	[片山]					講義・グループワーク
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験50% シミュレーション参加度・グループ評価 50% ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 事前に病態の理解を深め、患者の病態に対して必要な情報は何かを明らかにしておく。看護過程は自己課題となるため次回までに情報を整理しアセスメントを各自進めて参加すること。 ・留意点 グループワーク中心の授業です。積極的に参加しましょう。 シミュレーション演習の際は、ポロシャツとジャージで出席してください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院, [5]消化器 [8]腎・泌尿器 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学, 医学書院, [2]基礎看護技術Ⅰ [4]臨床看護総論 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス ・必要物品 						
参考文献							

授業概要

科目名	老年看護学Ⅰ	担当者	杉淵美里 保健師	開講時期	1年後期	単位時間	25時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力 思いやる力 地域社会に貢献する力					
学修内容	私たちがまだ経験したことのない老いを生きる高齢者に対する理解を深め、高齢者がそれぞれの健康レベルや状況に適応し、自立した生活を獲得して生の完成をはかれるように援助できる能力を養う。老年期にある人々の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化の特徴を理解する。 2. 生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者を取り巻く社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。 <p><卒業時の技術到達レベル> 単独で実施できる 14.歩行・移動介助</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	老年者を知る		講義			
	第2回	老年期の発達と成熟		講義			
	第3回	加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害①		講義・グループワーク			
	第4回	加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害②		グループワーク発表			
	第5回	高齢者疑似体験		校内実習			
	第6回	高齢者の生活と健康		講義			
	第7回	高齢社会における保健医療福祉		講義・グループワーク			
	第8回	高齢者の権利擁護		講義			
	第9回	高齢者におけるセクシュアリティ		講義			
	第10回	地域における老人保健医療と介護保険の現状（保健師）		講義			
	第11回	自立支援・理論		講義			
	第12回	老年看護の特徴・役割		講義・グループワーク			
	第13回	試験(45分)		筆記試験			
成績評価	<p>・方法 杉淵:筆記試験(70点) 参加姿勢・グループワーク成果物・課題提出など(30点)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題	<p>・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポートを作成してもらいます。 ①高齢者へのインタビュー ②新聞記事や雑誌等から見つける ①②どちらでも可。 詳細は夏休み前に説明します。</p>						
留意点	<p>・留意点 第5回は動きやすい服装で校内実習に臨みましょう。 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持ちましょう。 グループワークを取り入れながら講義を行うため、積極的に意見交換しましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会</p> <p>・必要物品 第5回時に雑誌や新聞、財布と小銭、携帯電話を持参してもらいます。 詳細は授業が近くなったら担当教員より説明します。</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害 南江堂</p>						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅱ	担当者	前田信吾 田村享治 鈴木洋司	開講時期	2年前期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 看護を探究する力					
学修内容	高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較して罹患しやすくなる疾患がある。また、老年症候群のように日常生活の中に潜む健康障害も既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こすことがある。このように、微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを、看護の視点を通して学ぶ。						
到達目標	加齢に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患(循環器、感覚器、腎・泌尿器、内分泌・代謝機能、消化器、脳、呼吸器系、老年症候群)の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防法について理解する。						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回	循環器機能の低下によっておこる疾患	前田				講義
	第2回	腎・泌尿器の機能低下によっておこる症候・疾患	前田				講義
	第3回	内分泌・代謝機能の低下によっておこる症候・疾患	前田				講義
	第4回	消化器機能の低下によっておこる疾患	前田				講義
	第5回	呼吸器系感染症疾患 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSA など	田村				講義
	第6回	老年症候群、長期臥床によっておこる症候・疾患 脱水、熱中症、低栄養、褥瘡、廃用症候群 など	田村				講義
	第7回	脳の変性疾患 ①認知症とは何か 意識障害やせん妄とどう違うのか ②パーキンソン病について 基本的な理解	鈴木	<3時間>			講義
成績評価	・方法 筆記試験 前田先生:50点 田村先生:30点 鈴木先生:20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 興味をもって授業に臨んでください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	カラー版 老年医学 系統講義テキスト 日本老年医学会編集 西村書店						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅲ	担当者	八木寿乃 中村明美 大塚さおり 橋本圭子 杉淵美里	開講時期	2年前期	単位時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力 実践する力 社会貢献					
学修内容	老化による身体的・心理的・社会的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術や老年看護学Ⅰ・Ⅱで身につけた知識を基盤に、高齢者に適した方法で自立を促せるような看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法、高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能や役割を学ぶ。さらに、認知症高齢者に対する理解を深め、認知症看護のあり方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 認知症高齢者の理解を深め、看護を理解する。 <p><卒業時の到達レベル> 指導の下で実施できる 7.排泄援助(おむつ) 23.陰部の保清</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 老年看護の基本、機能と役割(杉淵) 第2回 食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護(杉淵) 第3回 排泄障害のアセスメントと看護(橋本) 第4回 高齢者のおむつ交換、陰部洗浄(橋本) 第5回 高齢者の清潔行為のアセスメントと看護(杉淵) 第6回 高齢者のコミュニケーション(八木) 第7回 生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護(八木) 第8回 転倒のアセスメントと看護(八木) 第9回 寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護(八木) 第10回 介護老人福祉施設の看護(大塚) 第11回 認知症高齢者の看護① 認知症とは(中村) 第12回 認知症高齢者の看護② 認知症の人の看護(中村) 第13回 認知症高齢者の看護③ 事例検討(中村) 第14回 災害時の看護(杉淵) 第15回 試験・まとめ(杉淵)						講義 講義 講義 校内実習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 グループワーク 講義・グループワーク 筆記試験
成績評価	・方法 筆記試験 八木先生:筆記試験 30点(講義後の課題提出状況により筆記試験から減点します) 中村先生:筆記試験 25点 橋本:筆記試験 10点 杉淵:筆記試験 35点 ・基準 本校の基準に沿って評価します。						
事前課題	・事前課題 これまでの授業の振り返りをして講義に臨みましょう。 ・留意点 第4回の校内実習に関する課題や準備については、事前に説明します。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 大塚真理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 堀内ふきら ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 校内実習で使用する物品のセッティングに協力してください。						
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅳ	担当者	橋本圭子 杉渕美里	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 思いやる力 責任と役割を果たす力 看護を探究する力					
学修内容	老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、事例を通して学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の治療過程における看護方法について理解する。 2. 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について学ぶ。 3. 高齢者の特徴と事例の個別性を踏まえ看護の方向性を考える。 						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回	ガイダンス	杉渕	講義			
	第2～9回	運動機能障害のある高齢者の看護 第2～4回：橋本 第5～9回：杉渕		講義とグループワーク			
	第10回	試験(45分)・まとめ	杉渕	筆記試験			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験60点 課題への取り組み 40点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 夏季休業中にポートフォリオを作成してもらいます。 ・留意点 事前学習をして授業に臨みましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅰ	担当者	大石祐子 柳原泰子	開講時期	2年前期	時間単位	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・責任と役割を果たす力・看護を探求する力					
学修内容	<p>新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達の原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として、健康な子どもの日常生活での関わりについて、自立に向け各段階で発達を促す支援方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることが不十分な子どもの身体的、精神的变化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2) 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 3) 成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 4) 子どものフィジカルアセスメント方法を理解する 5) 子どもにとっての家族や社会の特徴とアセスメントを理解する <p>【看護技術の卒業時の到達レベル】7排泄援助（小児オムツの当て方）：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる、50バイタルサインの測定・51身体計測・52フィジカルアセスメント（乳幼児の観察）：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</p>						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：子どもとは・小児看護の特徴と理念（大石）						講義
	第2回：子どもの成長発達の特徴と原理（大石）						講義
	第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助（柳原）						講義
	第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助（柳原）						各期の発達段階の特徴と援助について、事前学習あり。また、第6回講義後にフィールドワークを予定している。
	第5回：学童期の成長発達の特徴と援助（柳原）						
	第6回：思春期・青年期の成長発達の特徴と援助（柳原）						グループワーク・講義
	第7・8回：乳幼児期の子どもの成長発達を促す生活援助と支援 ／子どもの事故・外傷（大石）						グループワーク・講義
	第9回：子どもと家族の特徴とアセスメント（柳原）						講義
	第10回：子どものアセスメントに必要な技術（柳原）						講義
	第11,12回：子どもの身体計測とバイタルサイン測定（大石）						演習
	第13,14回：子どもの身体計測とアセスメント：ロールプレイ（大石）						ロールプレイ発表：グループ毎
	第15回：試験・まとめ（柳原）						筆記試験・講義
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験・取り組み姿勢・レポート（大石60%、柳原40%） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・『乳幼児の発達と保育』、『目で見る子どもの保健 予防・対応編』のDVD視聴 ・小児各期の成長・発達段階について、事前学習したものを活用して授業を行います。 ・みなさんが子どもの頃を思い出しながら、成長発達段階や環境について考えていきましょう。 ・子どもが健やかに育っていく環境を理解するために、現代の子どもに関するニュースや時事問題に関心を持ちましょう。 ・フィールドワークは、出身保育園・幼稚園または近隣の保育園へ自らアポイントメントをとり、夏季休暇中に2日間訪問します。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働省 ・必要物品 母子手帳 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の発達と保育 DVD vol. 1～3 目で見る子どもの保健 予防・対応編 DVD vol. 2 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅱ	担当者	久保田 晃 熊谷 敦之 増井 礼子 伊藤 裕	開講時期	2年前期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力・看護を探究する力				
学修内容	小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の小児の理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉では訴えられない小児をよく理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深めていく必要がある。						
到達目標	1) 其々の系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 新生児疾患（伊藤）						講義
	第2回： 血液疾患（伊藤）						講義
	第3回： 循環器疾患（久保田）						講義
	第4回： 呼吸器、消化器疾患（久保田）						講義
	第5回： 免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患（増井）						講義
	第6回： 感染性疾患（増井）						講義
	第7回： 内分泌疾患・発達障害（増井）						講義
	第8回： 小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患（熊谷）						講義
	第9回： 神経系疾患（熊谷）						講義
	第10回： 腎疾患（熊谷）						講義
成績評価	・方法 筆記試験（久保田20%、増井30%、熊谷30%、伊藤20%）、取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう。 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院						
参考文献	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅲ	担当者	大石祐子 寺岡智子	開講時期	2年後期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、より良く育つ環境が整えられることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場にも他職種が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。						
到達目標	1) 疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する 2) 様々な場での小児看護の必要性和役割を理解する						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：病気・障害をもつ子どもの看護（寺岡）			講義			
	第2回：病気・障害をもつ子どもと家族の看護（寺岡）			講義			
	第3,4回：子どもの疾病の経過と看護（寺岡）			講義			
	第5回：子どもと家族を取り巻く社会－母子保健活動（保健師）			講義			
	第6回：子どもと家族を取り巻く社会 －地域の小児保健・福祉／子どもの虐待（保健師）			義講			
	第7回：病院における子どもと家族の理解と看護（大石）			講義			
	第8,9回：地域・在宅で医療ケアを必要とする子どもと家族の看護（大石）			講義・演習			
	第10回：試験・まとめ（大石）			筆記試験・講義			
成績評価	・方法 筆記試験(大石40%、寺岡30%)、演習の取り組み・レポート(大石30%) ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題	皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ ・必要物品 母子手帳						
参考文献	ライフヒストリー-重症心身障害児 英太郎くんの場合 DVD 目で見る子どもの保健 予防・対応編 DVD vol. 2 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅳ	担当者	大石祐子 柳原泰子	開講時期	2年後期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を採求する力					
学修内容	<p>小児期は身体的未熟さに加え、自分の感情や意志などを十分に訴えることができず、疾病の理解もできないままに苦痛にさらされていることがある。周囲の大人や医療従事者が気づき、見守り回復を支えることが重要である。そのため看護師は、小児期に特有な疾患や症状、その発生のメカニズムや影響を理解して家族を含め安全で安楽、安心な生活を提供できるようアセスメントし援助する必要がある。具体的には、小児期の疾患、治療、検査、処置に伴う影響を理解し、療養生活の中にも成長発達を促す援助方法を学習する。また、小児と家族を支え継続的に看護を提供できる繋がりを理解し、看護展開についてシュミレーションする。</p> <p>【看護技術卒業時の到達目標】56検査の介助：演習/Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる、20整容：演習/Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの特徴的な症状と看護について理解する 2) 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する 3) 子どもと家族への看護、継続看護について理解する 4) 子どもの看護過程展開を理解する 						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1・2回：子どもに特徴的な症状と看護（大石）						講義
	第3回：検査・処置を受ける子どもの看護（柳原）						講義
	第4,5回：子どもの検査・処置に伴う援助（柳原）						講義
	第6回：子どもの検査・処置に伴う援助：ロールプレイ（柳原）						演習 ロールプレイ発表：グループ毎
	第7回：症例に必要な看護を考える（大石）						講義・演習
	第8回：症例に必要な看護を考える：グループワーク（大石）						演習
	第9回：症例に必要な看護を考える：グループワーク発表（大石）						演習
	第10回：筆記試験・まとめ（柳原）						筆記試験
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（大石20%、柳原40%）、演習の取り組み、レポート（大石30%、柳原10%） ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を十分に復習して臨んでください。 ・小児の身体計測とアセスメントの演習では事前学習をもとに演習、ロールプレイを行います。 ・国家試験問題の状況設定問題などの理解に繋がる分野です。イメージしながら学習しましょう。看護計画の立案は、疾病、発達段階、看護過程などの知識の活用が必要です。3年次の小児看護実習に向けての準備となりますので果敢にトライしましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.2 採血・輸液を受ける子どもへの援助 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.3 骨髄穿刺・腰髄穿刺を受ける子どもへの援助 DVD 小児看護技術 第2版 vol.2 プレパレーション 						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅰ	担当者	増田瑞枝 伊藤みどり 保健師	開講時期	2年次前期	単位時間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	探求する力	思いやる力	実践する力			
学修内容	母性看護学の基盤となる概念「リプロダクティブヘルス/ライツ」について理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進・次世代の健全な育成に必要な知識と看護の必要性について学ぶ。多様な性の捉え方を理解し、性と生殖に関する倫理的課題について考えていく。母子を取り巻く現代の社会的変化をふまえた母性・父性・親性について、またよりよい母子関係を育むために必要な知識について学んでいく。						
到達目標	① 母性看護の概念が理解できる ② 人間の性と多様な性の捉え方について理解できる ③ ライフサイクル各期における対象の特徴と看護の必要性が理解できる ④ 母性看護の倫理について自己の考えグループ間で共有できる ⑤ 母子保健事業の実際を知り現状と課題が理解できる ⑥ 母性・父性・親性・母子関係・愛着形成について自己の考えがもてる						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回	母性看護の基盤となる概念	人間の性	セクシュアリティ	増田	講義	
	第2回	母性・父性・親性とは			増田	講義 ミニレポート①	
	第3回	母性とは	母子関係と愛着		増田	講義	
	第4回	女性のライフサイクルと健康	思春期の健康と看護		伊藤	講義	
	第5回	成熟期の健康と看護①			伊藤	講義	
	第6回	成熟期の健康と看護②			伊藤	講義	
	第7回	更年期・老年期の健康と看護			伊藤	講義	
	第8回	母性看護の現状と課題	母子保健事業		保健師	講義	
	第9回	母性看護における倫理的課題		グループワーク	増田	講義 ミニレポート②	
	第10回	学科試験	まとめ		増田		
成績評価	・方法 筆記試験:伊藤先生(40点) 増田(40点) ミニレポート(10点×2) 授業の取り組み姿勢 ・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる ミニレポート:授業の学びを踏まえて自己の考えを述べること						
事前課題・留意点	・事前課題 母子・女性を取り巻く現状や問題に関するニュース・新聞記事を集めそれに対して考察する (記事に興味を持った理由とともに考察する。ポートフォリオ形式でまとめておく) ・留意点 初めて学ぶ母性看護学です。興味関心をもって考えることを大事にしてほしいです。 授業後は、テキストの関連箇所を読み、理解を深めていってください。						
テキスト・必要物品	・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 ②構成統計協会 国民衛生の動向 厚生統計協会 ・必要物品:20P程度のポケット式クリアファイル						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅱ	担当者	實石江里子 森下倫江 黒田健治	開講時期	2年次前期	単位時間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力	探求する力	思いやる力			
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル(妊娠期・分娩期)にある人々の看護について学ぶ。安全な分娩を迎えるための看護に必要な妊娠期の身体的・心理的・社会的変化を理解する。その上で妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。また分娩期の産婦・胎児について理解し、安全で満足度の高い分娩となるような看護について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 妊娠期における母子の生理的変化をふまえ、母子の健康状態のアセスメントについて理解する ② 妊婦の親役割りや家族の新しい役割り獲得の準備について理解する ③ 母子の健康保持・増進のためのセルフケア能力を高める援助について理解する ④ 分娩期における基礎的知識を理解する ⑤ 分娩期における正常な経過を理解する ⑥ 安全で満足度の高い分娩となるよう看護者の役割りを考える 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 妊娠の定義・分娩の定義 妊娠期の身体的特性①	實石				講義	
	第2回 妊娠期の身体的特性② 心理社会的特性と変化	實石				講義	
	第3回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化①	實石				講義	
	第4回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化②	實石				講義	
	第5回 マイナートラブルと保健指導	實石				講義	
	第6回 分娩の要素と分娩の経過	森下				講義	
	第7回 産婦の心理・社会的変化と看護 分娩期の看護の実際	森下				講義	
	第8回 産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	森下				講義	
	第9回 妊娠期・分娩期の異常	黒田				講義	
	第10回 妊娠期・分娩期の異常と看護	實石				講義	
	第11回 学科試験(45分)	實石					
成績評価	<p>・方法 筆記試験:森下先生(40点) 實石(50点) 黒田(10点) 授業の取り組み姿勢</p> <p>・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる</p>						
留意点	<p>・留意点 テキストにそって授業をします。実際の分娩をイメージしながら学んでいきましょう。(森下)</p> <p>形態機能学「子孫を残す」の講義内容を振り返り授業に臨んでください。(實石)</p> <p>授業後には該当箇所のテキストを読み理解を深めてください。(黒田)</p>						
テキスト	<p>・テキスト</p> <p>①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</p> <p>②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ</p>						
参考文献	<p>①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版</p> <p>②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</p>						

授業概要

科目名	母性看護学Ⅲ	担当者	杉山恵美子 實石江里子	開講時期	2年次後期	単位時間	25時間/ 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力	探求する力	思いやる力		
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル(産褥期・新生児期)にある人々の生理的变化を理解し、産褥期・新生児期が順調に経過するために必要な看護について学んでいく。母子相互作用・良好な母子関係・次世代を育成するための母子を取り巻く家族への看護についても考えていく。産褥期・新生児期におこりやすい異常とその看護についても学んでいく。自然災害が増加している現在、災害発生時に、周産期の女子とその家族へ看護者としてどのような支援を行なっていくか、災害時の看護についても考えていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する ② 産褥期のおこりやすい異常について理解する ③ 産褥期における観察の視点を理解し、必要な看護を考える ④ 新生児の生理的特徴をふまえ子宮外環境への適応に必要な看護を理解する ⑤ 新生児の観察の視点を理解する ⑥ 新生児に起こりやすい異常を学習し、必要な看護を考える ⑦ 周産期の女子・家族への災害時の必要な看護について考える 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回	「次世代を育成する看護」ガイダンス 周産期とは	實石			講義DVD視聴	
	第2回	産褥期ガイダンス 産後の定義と看護の基本	杉山			講義	
	第3回	産褥期の身体的変化	杉山			講義	
	第4回	産褥期の心理的变化	杉山			講義	
	第5回	産褥期の診断・アセスメントと看護	杉山			講義	
	第6回	産褥期に起こりやすい異常と看護	杉山			講義	
	第7回	新生児の生理的特徴①	實石			講義	
	第8回	新生児の生理的特徴②	實石			講義 小テスト	
	第9回	新生児のアセスメント①	實石			講義 小テスト	
	第10回	新生児のアセスメント②	實石			講義	
	第11回	新生児の異常と看護	實石			講義	
	第12回	災害時の看護	實石			GW レポート	
	第13回	学科試験(45分)	實石				
成績評価	・方法 筆記試験:杉山先生(40点) 實石(40点) 事前課題(10点) レポート(10点) ・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる						
留意点	事前課題:夏季休暇前に産褥期の看護に必要な基礎的知識の事前課題を提示します。 (ポートフォリオ形式でまとめる。) 留意点 ①母性看護学ⅠⅡの学びを活かし学習を深めていきましょう。 ②次世代を育成するための看護を自分ごととして捉え、学習をしていきましょう。						
テキスト	・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ						
参考文献	①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅳ	担当者	實石江里子 増田瑞枝	開講時期	2年次後期	単位時間	25時間/ 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	看護を実践する力	看護を探求する力				
学修内容	「子を産み育てる特性」を發揮していくための看護を考えるために具体的な事例をもちいて看護過程展開に必要な思考方法を学ぶ。妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護は継続的に対象を捉えていく力が求められる。母性看護方法ⅠⅡⅢで学んだ既習知識を統合し、対象および家族も含めた看護を事例を通し考え3年次での母性看護実習での看護の実践へと繋げられるようにする。また妊娠期・産褥期・新生児の看護に必要な援助技術を安全・安楽に実施できるよう演習をとおし身につけていく。						
到達目標	① 母性看護過程の特徴が理解できる ② 産褥・新生児の正常経過が理解できる ③ 正常過程の産褥・新生児のアセスメントができる ④ 正常過程の産褥・新生児の看護問題が明確化できる ⑤ 母子一体の看護過程の思考の仕方が理解できる ⑥ 母性に特徴的な援助技術を習得できる 卒業時の技術到達レベル：7. 排泄援助(新生児のおむつの当て方)、20. 整容、28. 新生児沐浴・清拭、 51. 身体計測(腹囲・子宮底測定)は指導の下で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回 母性看護過程の捉え方 妊娠期・分娩期のアセスメント	實石		講義個人ワーク			
	第2回 妊娠期・分娩期の経過診断	實石		講義 GW 発表			
	第3回 妊娠期の援助技術 (レオポルド触診法・腹囲・子宮底の測定) (妊婦体験ジャケット装着してみよう)	實石		A B 別で演習			
	第4回 産褥1日目・新生児生後1日目までの経過診断① 褥婦視点	實石		講義 GW 発表			
	第5回 産褥1日目・新生児生後1日目までの経過診断② 新生児視点	實石		講義 GW 発表			
	第6回 産褥3日目・生後3日目までの経過診断 褥婦・新生児視点	實石		講義 GW 発表			
	第7回 褥婦・新生児 看護問題の明確化 目標(期待される結果を考える)	實石		講義 GW 発表			
	第8回 帝王切開術後の褥婦・新生児の経過診断	實石		講義 GW			
	第9回 新生児の援助技術 沐浴 新生児のおむつ交換 衣服交換	増田		A/B 別で演習			
	第10回 産褥6日目・生後6日目までの経過診断 指導方法の検討	増田		講義 GW 発表			
	第11回 看護援助の実際(退院に向けて 保健指導の実際)	増田		ロールプレイ発表			
	第12回 ロールプレイ発表・および看護援助実施の評価	増田		ロールプレイ発表			
	第13回 学科試験(45分)	増田					
成績評価	・方法 筆記試験：援助技術(40点) 各期経過診断(各10点/計40点) 看護援助実施の評価(20点) ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる						
留意点	事前課題：各演習前には手順書を作成する課題を提示します。 留意点 ①母性看護学ⅠⅡⅢの学びを活かし学習を深めていきましょう。 ②ロールプレイ前には必要な準備を各グループで行ってください。						
テキスト	・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ						
参考文献	①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 ③ウエルネス看護診断に基づく看護過程 医歯薬出版株式会社						

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅰ	担当者	平林千鶴 本田久美子 後藤治美	開講時期	2年前期	間 時 位	単 位	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力、思いやる力、地域社会に貢献する力					
学 修 内 容	心(精神)の仕組み、発達について理解し、精神の健康と保持増進活動について学ぶ。							
到達目標	① 心(精神)の仕組みと働きについて理解する。 ② 心(精神)の発達過程とそのプロセスで生じる問題について理解する。 ③ 精神の健康の意義について理解する。 ④ 精神の健康に影響する因子を理解する。 ⑤ 暮らしの中で起こりうる精神の問題と、その予防、健康の保持増進活動について理解する。 ⑥ 災害時に生じる心(精神)の変化と、精神保健医療活動について理解する。 ⑦ 看護者に生じやすい心の問題とセルフケアについて理解する。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)	
後藤	第1回	精神看護学とは何か？ 精神の健康の定義				講義(シンクベシエ・ラウンドロビン)		
本田	第2～4回	心(精神)の機能と発達 ・心(精神)と情緒の発達 心(精神)と人格の発達を様々な学説により理解する ・自我の機能 自我の構造やはたらき等を理解する ・防衛機制 精神力動 心の健康に及ぼすストレスの影響				講義		
平林	第5～7回	各発達段階で現れやすい精神の問題 1)乳幼児～学童期における心と対応について 2)思春期～青年期における心と対応について 3)成人期～老年期における心と対応について				講義		
後藤	第8回	精神の健康の保持増進活動と精神医療福祉対策				講義(シンクベシエ・ラウンドロビン)		
後藤	第9～10回	家族と精神の健康				講義(シンクベシエ・ラウンドロビン)		
後藤	第11回	災害時の精神保健				講義(シンクベシエ・ラウンドロビン)		
後藤	第12回	看護者のメンタルヘルス				講義(シンクベシエ・ラウンドロビン)		
試験(後藤)								
成 績 評 価	・方法 筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 後藤60点 本田先生20点 平林先生20点/100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 レポート提出。(1年次の春季休暇に、指定したDVDを視聴した感想) 各講義に関する事前課題(講義前に提示します。) 平林先生:講義の中間と終了時に振り返りレポートを作成します。 ・留意点							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・必要物品							
参 考 文 献	・中井久雄・山口直彦 著:看護のための精神医学, 医学書院							

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅱ	担当者	田中賢司 村上直人 福島一成 前園親寿	開講時期	2年前期	間時位	20時間 1単位		
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力							
学修内容	精神疾患に関する基礎的知識と治療に伴う看護について学ぶ。								
到達目標	① 心身症の成り立ちと仕組みについて理解する。 ② 主な精神疾患、症状の成り立ちと仕組み、検査、治療について理解する。 ③ 精神科における主な治療に伴う看護について理解する。								
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）			
田中	第1回	精神医療に関わる法・制度				全回講義形式で行う。			
福島	第2～5回	精神症状と状態像 神経障害・ストレス関連障害・身体表現障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 （摂食障害・睡眠障害・性同一性障害・パーソナリティ障害） 器質的精神障害 （認知症・症状精神病・精神作用物質による精神・行動障害） 心身症							
村上	第6回	統合失調症の病態生理と治療							
村上	第7回	気分（感情）障害の病態生理と治療							
前園	第8～10回	様々な治療における看護 （認知行動療法、生活技能訓練：SSTなど） 薬物療法 電気療療法							
試験		（後編）							
成績評価	・方法 筆記試験 福島先生40点 村上先生30点 精神科看護師30点／100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。								
事前課題・留意点	・事前課題 夏季休暇中の課題として学習内容を提示します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。								
テキスト・必要物品	・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学、医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術、メヂカルフレンド社。 ・必要物品								
参考文献									

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅲ	担当者	塚本千恵子 橋本圭子 後藤治美	開講時期	2年後期	間 時 位	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力、思いやる力、責任と役割を果たす力					
学 修 内 容	精神障害を持つ人の人権を尊重し、パートナーシップに基づく治療的関係を構築し、リカバリー(回復)に向けた看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ。また、精神看護者として必要な姿勢を養う。						
到 達 目 標	① 精神保健・医療・福祉の歴史の変遷および現在の動向を捉え、精神障害を持つ人が置かれている状況を理解する。 ② 精神障害を持つ人の抱える「生きづらさ」を理解する。 ③ 精神障害を持つ人を支援するための概念を理解する。 ④ 対象とパートナーシップに基づく治療的関係性を構築するための方法を理解する。 ⑤ 対象の精神的安寧を図る関わりについて体験を通して考える。 ⑥ 精神障害を持つ人への看護の基本について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
後藤	第1回	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷		講義(シンクベシア・ラウンドロビン)			
後藤	第2回	現代社会における精神保健・医療・福祉の現状と精神看護の課題		講義(シンクベシア・ラウンドロビン)			
後藤	第3回	精神障害を持つ人の「生きづらさ」と回復への支援		講義(シンクベシア・ラウンドロビン)			
塚本	第4～8回	精神障害を持つ人への看護の基本 1)入院治療の意味 2)精神科における看護 ①病棟環境の整備 ②リスクマネジメント ③身体的合併症に対する看護 ④身体を通じた看護ケア					
橋本	第9～12回	パートナーシップに基づく治療的関係性の構築 1)コミュニケーションの原則・方法 2)患者-看護師関係で起こる感情体験 3)患者-看護師関係をアセスメントする(プロセスレコードの活用)		講義(シンクベシア・ラウンドロビン) 演習(シミュレーション)			
試験	(橋本)						
成 績 評 価	・方法 筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 橋本30点 塚本先生50点 後藤20点/100点 ・基準 本校の規準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 講義前に事前課題を提示します。 ・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術、メヂカルフレンド社。 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅳ	担当者	土屋幹夫 松永深雪 精神科看護師 後藤治美	開講時期	2年後期	問 時 位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力、責任と役割を果たす力、地域社会に貢献する力					
学 修 内 容	精神障害を持つ人の健康状態に応じた看護について理解し、リハビリ（回復）を支援する看護を学ぶ。 また、事例を用いて対象をアセスメントし、必要な看護を導き出す思考を養う。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神障害を持つ人を理解するための観察とアセスメントの視点について理解する。 ② 主な精神症状と症状に応じた看護を理解する。 ③ 精神障害を持つ人の家族の看護について理解する。 ④ 様々な精神看護の場における看護の役割と支援について理解する。 ⑤ 事例における看護過程を展開し、看護問題を捉え、必要な看護を導き出す思考を養う。 						
授 業 計 画	授業テーマ		方法（形成評価等を含む）				
土屋	第1～5回	対象を捉える観察とアセスメントの視点 1)観察の目的と方法 2)精神科アセスメントと生活状況のアセスメント 主な精神症状に応じた看護 幻覚・妄想、無為・自閉、抑うつ、躁、水中毒など 精神障害を持つ家族への看護	講義				
看護師	第6～7回	地域生活を支援する 1)退院に向けての支援 2)リハビリテーションの概念 3)地域における生活支援の方法および関連法規	講義				
松永	第8回	リエゾン看護	講義				
後藤	第9～10回	事例：統合失調症患者の看護	演習(グループワーク:ジグソー法)				
試験	(後藤)						
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 土屋先生50点 精神科看護師20点 後藤30点/100点 第9～10回の演習では、事前自己課題とグループワークの成果物を評価対象とする。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 第9～10回の演習に関しては、冬季休暇中の課題として提示します。</p> <p>・留意点</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術、メヂカルフレンド社。 ・系統看護学講座 家族看護学 医学書院 <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

教科外活動
テキスト一覧

授 業 概 要

科目名	接 遇	担 当 者	上 藤 美 紀 代	開 講 時 期	1年前期 2年前期 3年前期	単 位 時 間	各4時間
学 修 内 容	臨床において、患者・患者家族との信頼関係を築くことは最も重要であり、特に患者や患者家族と接する時間が一番多い看護師には、信頼を得るための能力が求められる。その能力の一つとしてマナーや接遇について学び、心得や技術を身につける。「看護の基本＝患者の立場になって考え、行動することが大切」ということを再認識し、「思いやりの心」を態度や言動で表すことができるようにスキルアップを図る。						
到達目標	1年次：接遇とは何か。臨床に即した心構えやマナーを学ぶ。 2年次：本格的な実習に向けて、患者・患者家族とのコミュニケーションを学ぶ（在宅看護にも力を入れる）。 3年次：就職活動に向けて好印象を与える自己表現を学ぶ。						
授 業 計 画	授 業 テ ー マ			方 法（形成評価等を含む）			
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションにおける声のもつ力の重要性を知る。 ・挨拶と返事 / 身だしなみ / 言葉遣い / 笑顔 / 所作 など社会人としてのマナーを学びながら、患者・患者家族との接し方を考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ヴォイスセラピーについて学び、呼吸法、発声法、滑舌、声遣いなど、よりよいコミュニケーションをはかるためのスキルを身につける（思いやりを表現する力をつける）。 			
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・戴帽式を迎え、看護師への道を歩む決意を新たにしたところで、その思いを恩師など尊敬する方に手紙で伝える（敬語をはじめ文章表現をチェックする） ・実習事例のプリントなどをテキストとし、自分だったらどうするか、どう対応できるか、望ましい方法は何かなど、グループディスカッションを通して学びを深め 実習に備える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いてもらい、文章力・表現力をみる。敬語の使い方や語彙力をみながら、手紙の書き方も指導。感性も養いたい。 ・実習事例については、クラスメイトとの意見交換を通し、自信を持てるように促す。 			
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になっての意気込みを発表する。 ・面接場面を想定し、働く意欲や志を好印象を与えながら伝える技術（自己表現）を学ぶ（自信を持って就職活動に臨めるよう促す）。 			<ul style="list-style-type: none"> ・1コマ目の授業で学生一人ひとりの課題を指摘し、2コマ目でその課題を改善（克服）できるように工夫した発表（自己PR）に導く。 			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 なし ・基準 なし 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 授業時にプリントを配布する。 ・必要物品 筆記用具。3年次は、面接場面を想定しての服装（ビジネススーツ、ヘアメイクなど）。 						
参考文献							

令和5年度 1年次 テキスト一覧

	科目	講師名	書名	出版社
基礎分野	生物学	森	系統看護学講座 基礎分野 [3] 生物学	医学書院
			系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	医学書院
	英語	一言	Health Talk (実践的看護英語の基礎)	ピアソン・エデュケーション
	表現法	竹藤	新版 日本語・理解の表現	いろは出版
	論理的思考	小野田	文章作成一歩前	篠原印刷
	総合人間学	守屋	人間であること	岩波書店
			人間対人間の看護	医学書院
社会学Ⅰ	小林	系統看護学講座 基礎分野 社会学	医学書院	
専門基礎分野	形態機能学総論	吉野	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	医学書院
	形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	前田 学内教員	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	医学書院
			解剖生理をおもしろく学ぶ	サイオ出版
	形態機能学Ⅰ～Ⅴ		系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進②	医学書院
	栄養の基礎	杉本	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学	医学書院
			2023 オールガイド食品成分表(2015年度版準拠)	実教出版
	病理学	関・平松	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学	医学書院
	薬理学の基礎	木村	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学	医学書院
微生物学	内藤	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学	医学書院	
専門分野	看護学概論	学内教員	新体系看護学全書 基礎看護学①看護学概論	医学書院
			看護覚え書	現代社
			よくわかる看護者の倫理綱領	照林社
	看護方法Ⅰ～Ⅵ	学内教員	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ	医学書院
			系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ	医学書院
			コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵	日本看護協会出版会
			看護がみえる vol.1 基礎看護技術	MEDIC MEDIA
			看護がみえる vol.2 臨床看護技術	MEDIC MEDIA
			看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	MEDIC MEDIA
			系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護学総論	医学書院
			看護過程に沿った対応看護	学研メディカル秀潤社

分野	科目	講師名	書名	出版社
専門分野	地域・在宅看護論Ⅰ	学内教員	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基礎	医学書院
			系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の実践	医学書院
	成人看護学	学内教員他	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(1) 成人看護学総論	医学書院
	老年看護学	学内教員他	系統看護学講座 専門分野 老年看護学	医学書院
			国民衛生の動向 2023/2024(9月)	厚生統計協会
	病態生理治療論Ⅰ～Ⅴ			
	呼吸器系	江間田村	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器	医学書院
	循環器系	渡邊	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器	医学書院
	血液	前田	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4) 血液・造血器	医学書院
	消化器系	石原他	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器	医学書院
	内分泌代謝	坂本	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝	医学書院
	神経系	竹原・森井	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経	医学書院
	泌尿器系	池谷	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8) 腎泌尿器	医学書院
	女性生殖器系	黒田	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器	医学書院
	女性生殖器 乳房	平松	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器	医学書院
	骨筋系	徳山	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 運動器	医学書院
	免疫系	金本	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11) アレルギー・膠原病/感染症	医学書院
	皮膚	矢田員	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(12) 皮膚	医学書院
	眼	松永	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13) 眼	医学書院
	耳鼻咽喉	杉山	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(14) 耳鼻咽喉	医学書院
歯	森	系統看護学講座 専門分野 成人看護学(15) 歯・口腔	医学書院	
その他	学内教員	プロジェクト学習の基本と手法	教育出版	
		看護学生のためのレポート書き方教室	照林社	

令和5年度 2年次 テキスト一覧

	科目	講師名	書名	出版社
基 野 礎 分	人間関係論Ⅱ	久保田	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論	医学書院
	社会学Ⅱ	小林	系統看護学講座 基礎分野 社会学	医学書院
専 門 基 礎 分 野	公衆衛生学	杉山	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生学	医学書院
			国民衛生の動向 2023/2024(8月)	厚生統計協会
	暮らしを守る法 と制度	板倉	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉	医学書院
	関係法規	佐々木他	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令	医学書院
保健統計学	東野	Excelで学ぶ医療・看護のための統計入門 第2版	東京図書	
専 門 分 野	看護方法Ⅵ	久保田	系統看護学講座 別巻 臨床栄養	医学書院
			系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕 栄養学	医学書院
			2022 オールガイド食品成分表(2015年度版準拠)	実教出版
	看護方法Ⅶ	林	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学	医学書院
			系統看護学講座 別巻 臨床薬理	医学書院
	成人看護学	学内教員 他	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ急性期・周手術期 第2 版	照林社
			系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学	医学書院
			系統看護学講座 別巻 救急看護学	医学書院
			系統看護学講座 別巻 がん看護学	医学書院
	老年看護学	学内教員 他	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾病論	医学書院
			ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の看護の実践 改定	メディカ出版
			カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術	医歯薬出版
	小児看護学	学内教員 他	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護概論 小児臨床看護概論	医学書院
			系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論	医学書院
			新改訂写真でわかる小児看護技術 アドバンス	インターメディカ
	母性看護学	学内教員 他	系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕 母性看護学概論	医学書院
			系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論	医学書院
			国民衛生の動向 2023/2024(8月)	厚生統計協会
			写真でわかる母性看護技術	インターメディカ
	精神看護学	学内教員 他	親と子のきずなはどうつくられるか	医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎			医学書院	
系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 精神看護の展開			医学書院	
系統看護学講座 別冊 精神保健福祉			医学書院	
系統看護学講座 別冊 家族看護学			医学書院	
看護のための精神医学			医学書院	
地域・在宅看護論	学内教員 他	根拠がわかる精神看護技術	メディカルフレンド社	
		系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基礎	医学書院	
		系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実際	医学書院	
その他		写真でわかる訪問看護	インターメディカ	
		よくわかる看護者の倫理綱領	照林社	
臨床実習		よくわかる看護者の倫理綱領 プロジェクト学習の基本と手法 (1年次に購入済)	1年次購入済み	
		看護過程に沿った対応看護	1年次購入済み	

実務経験のある
講師一覧

実務経験のある教員等による授業科目の一覧						
分野	科目・単元	単位	時間数	講師名	実務経験	
専門基礎分野	人体の機能と構造	形態機能学総論	1	15	吉野 昌徳	医師
		形態機能学Ⅰ	1	20		
				10	安達 百合	看護教員
				10	杉 渕 美 望	看護教員
		形態機能学Ⅱ	1	25		
		原を生成するしくみ・ 排泄するしくみ		3	前田 信吾	医師
		林を玄えるしくみ・ 動かすしくみ		9	増田 瑞枝	看護教員
		形態機能学Ⅲ	1	30	前田 信吾	医師
		形態機能学Ⅳ	1	30		
		自律神経		2	西川 はるみ	看護教員
		神経系の構造と機能		11	後藤 治美	看護教員
				6	石岡 善望	看護教員
		感覚神経		8	橋本 圭子	看護教員
		子孫生殖		6	萬石 江里子	看護教員
		形態機能学Ⅴ	1	30		
		血液のしくみ		4	柳 節 泰子	看護教員
		身体機能の応用		8	石岡 善望	看護教員
		内分泌・免疫のしくみ		13	増田 瑞枝	看護教員
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15		
		病理学概論		4	関 常 司	医師
		疾病の概略、用語		11	平松 毅幸	医師
		病態生理治療論Ⅰ	1	20		
		口腔・歯		4	森 正 次	医師
		消化器系		8	石原 行雄	医師
		代謝（糖・肝）		6	栗岡 正徳	医師
		代謝（脂）		2	大畠 紀彦	医師
		病態生理治療論Ⅱ	1	30		
		腎・泌尿器系		12	池谷 直樹	医師
		運動器系：骨・筋		8	徳 山 周	医師
		病態生理治療論Ⅲ	1	20		
呼吸系・血液ガス動態		6		田村 孝治	医師	
呼吸系・血液ガス動態		4		江 體 俊 毅	医師	
循環器系 （心臓・血管）		10		渡邊 明規	医師	
病態生理治療論Ⅳ		1	30			
感覚器 眼			4	松永 寛美	医師	
感覚器 耳鼻咽喉			4	吉 野 新 弘	医師	
脳	8		竹原 誠也	医師		
自律神経	6		若井 直樹	医師		
女性生殖器	8		黒田 健治	医師		
乳房	4		平松 毅幸	医師		

分野	科目・単元	単位	時間数	講師名	実務経験	
	病態生理治療論V	1	30			
	免疫系		6	金本 素子	医師	
	血液・造血・リンパ		10	前田 明州	医師	
	代謝・内分泌		10	坂本 益雄	医師	
	呼吸器 皮膚		4	矢野 昌嗣	医師	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	25	亀澤ますみ	看護教員
		看護学概論Ⅱ	1	25	亀澤ますみ	看護教員
		看護方法Ⅰ	1	30		
		環病の調整		12	西川はるみ	看護教員
		活動と休息		12	片山 聖治	看護教員
		食事の援助		6	後藤 治美	看護教員
		看護方法Ⅱ		30		
		清潔・衣生活の援助	1	6	橋本 圭子	看護教員
		排泄の援助	14	廣石 恵理子	看護教員	
		排泄の援助	8	大石 祐子	看護教員	
		看護方法Ⅲ	1	30		
		フィジカルアセスメント		20	橋本 圭子	看護教員
		フィジカルアセスメント		10	片山 聖治	看護教員
		看護方法Ⅳ	1	30		
		コミュニケーション		8	後藤 治美	看護教員
		感染予防の技術		2	小島 太	認定看護師 (感染管理)
		与薬		10	安達 百合	看護教員
		与薬		6	柳原 泰子	看護教員
		記録・報告・指導技術	4	廣石 江里子	看護教員	
		看護方法Ⅴ	1	30	西川はるみ	看護教員
		看護方法Ⅵ	1	30		
		経管栄養		6	柳原 泰子	看護教員
		排泄の援助		12	雄田 瑞枝	看護教員
		無菌操作		4	石野 香里	看護教員
		看護方法Ⅶ	1	30		
		与薬		6	大石 祐子	看護教員
		与薬		6	柳原 泰子	看護教員
		検査の看護		10	石野 香里	看護教員
看護方法Ⅷ	1	30				
呼吸・循環を認める		12	大石 祐子	看護教員		
呼吸・循環を認める		10	杉岡 美里	看護教員		
救急看護	2	杉岡 美里	看護教員			
専門分野	基礎看護学	臨床判断Ⅰ	1	15		
			11	西川はるみ	看護教員	
			4	橋本 圭子	看護教員	
		臨床判断Ⅱ	1	15		
			8	後藤 治美	看護教員	
	7	廣石 江里子	看護教員			

